

【平成31年度（2019年度） 年間予定】

前期	4月2日(火)	(在校生) オリエンテーション、前期授業開始
	4月5日(金)	入学式
	4月8日(月)・9日(火)・10日(水)	(新入生) オリエンテーション、前期授業開始
	4月5日(金)・12日(金)	履修届提出期限 (5日…2～4年次) (12日…1年次)
	4月11日(木)・12日(金)	健康診断 (11日午後…2～4年次) (12日午後…1年次)
	4月15日(月)～19日(金)	(1年次) 早期体験実習
	5月7日(火)～	(4年次) 実習開始
	7月8日(月)～19日(金)	(2年次、3年次) 前期補講・試験
	7月22日(月)～	夏期休業
	9月2日(月)～ 9月17日(火)～27日(金)	(1年次) 授業再開 前期補講・試験
	9月2日(月)～9月30日(月)	(2年次) 基礎看護実習Ⅱ、統合実習Ⅰ
	9月2日(月)～ 9月17日(火)～20日(金) 9月24日(火)～	(3年次) 後期授業開始 実習準備 実習開始
	9月9日(月)～	(4年次) 後期授業開始
	9月9日(月)～13日(金)	(4年次) 前期補講・試験
後期	10月1日(火)～	(1年次、2年次) 後期授業開始
	10月15日(火)	(2年次) 午後：篤志解剖体慰霊祭
	10月21日(月)～25日(金)	(4年次) 統合実習Ⅱ
	10月25日(金)～27日(日)	大学祭 (準備を含む)
	12月2日(月)～13日(金)	(4年次) 総合評価のための補講
	12月23日(月)～1月3日(金)	冬期休業
	1月7日(火)～17日(金)	(1年次) 基礎看護実習Ⅰ(2班交代)
	1月6日(月)～	(2年次、3年次、4年次) 授業再開
	1月14日(火)～17日(金)	(3年次) 後期補講・試験
	1月14日(火)～17日(金)の1日	(4年次) 総合評価のための試験
	1月20日(月)～31日(金) 2月10日(月)～20日(木)	(3年次) 公衆衛生看護実習Ⅰ
	2月10日(月)～21日(金)	(1年次、2年次) 後期補講・試験
	2月20日(木)	開学記念日
	3月17日(火)	卒業式

(上記予定は変更することがあります。)

履修・試験等について

1 カリキュラム編成の基本方針

生命の尊厳を守り、個人を尊重し、人々の幸せのために奉仕するという使命感を育み、保健看護に関する科学・技術を統合的に修得します。

また、保健看護専門職には、保健医療機関での対象者のケアという視点のみでなく、栄養、運動、休養など生活全般の改善や環境の保全などの保健の視点と、高齢者・障害者の介護を含めた福祉の視点から人々の暮らしを支えることが重要であることに鑑み、保健・医療・福祉を包括的に学習します。

さらに、科学・技術の進展と社会のニーズに豊かに対応できるための基礎的な学力を備え、自主的な生涯学習の習慣づけができるようにします。

カリキュラムの特徴として、

- ① 教育課程は、「教養と人間学の領域」、「保健看護学の基盤となる領域」及び「保健看護学の専門となる領域」の3領域で構成しています。

「教養と人間学の領域」は、人文学、社会科学、自然科学などの幅広い教養を身につけ、学習意欲にあふれ、倫理的で、思いやりのある、奉仕することをいとわない人材を育て、豊かな人間性及び優れたコミュニケーション能力を育成することを目的としています。

「保健看護学の基盤となる領域」は、保健看護学の土台となる「人間と生命倫理」、「保健と福祉」、「健康と病態」に関する科目群を配置しています。

「保健看護学の専門となる領域」は、人間を理解し、あらゆる状況に柔軟に対応し、的確な判断能力と問題解決能力を養うための保健看護の専門科目群を配置しています。

- ② 主体的に学習する能力、問題解決能力、統合能力を養うため、少人数による学習を積極的に取り入れます。
- ③ 予防、診断、治療、看護の過程を臨床の場を活用して、具体的な事例に即して修得します。
- ④ ライフステージの全過程（出生、成長、発育、老化）の学習は、現実の暮らしを通して学ぶために、産院、保育所、小・中学校、企業、老人ホームなどで実習を行います。

2 授 業

(1) 配当年次

各授業科目の配当年次は、別表1「開設授業科目一覧表」のとおりです。

(2) 授業時間

授業時間は、下記のとおりです。ただし、授業によっては変更する場合があります。

授 業 時 限	時 間 帯
1 時 限	8 : 50 ～ 10 : 20
2 時 限	10 : 30 ～ 12 : 00
3 時 限	13 : 00 ～ 14 : 30
4 時 限	14 : 40 ～ 16 : 10
5 時 限	16 : 20 ～ 17 : 50

3 履 修

履修しようとする授業科目は、「履修届」により、指定された日までに事務室に届け出なければなりません。届出のない授業科目は、履修することができません。また、届出をした後で履修科目を変更したい場合は、通年および前期科目については4月末日までに、後期科目については10月末日までに事務室に変更を申し出てください。

(「履修届」の控えを必ず保有しておくこと。)

なお、各授業科目の配当年次以外の履修は原則として認めないので、選択科目は、配当された年次に履修できるよう計画を立ててください。

また、授業科目のうち別表2の左欄に掲げる科目の履修については、特に認める場合を除き、当該科目に先立って、同表右欄で指定する科目を修得しなければなりません。

4 試 験

(1) 試験の方法

試験は、筆答、口答、実技、論文・レポート提出等により行います。

(2) 試験の実施時期

試験は、原則として各科目の所定の授業が終了した学期末に期間を定めて行いますが、科目によっては試験期間外に行うことがあります。

(3) 受験資格

原則として、履修する科目の授業時間数の3分の2以上出席した者（看護実習については、授業時間の全てに出席した者）でなければ試験を受けることはできません。

(4) 追 試 験

病気その他やむを得ない理由により試験を受けられなかった者は、願い出により追試験を受けることができます。

追試験を受けようとする者は、「追試験受験願」に医師の診断書等その理由を証する書類を添えて、指定の期日までに事務室へ提出してください。

(5) 再 試 験

試験又は追試験で不合格となった者に対しては、担当教員の判定に基づき、再試験を行うことがあります。

再試験を行うときは、その日時等を事前に学生連絡用掲示板に掲示しますので、再試験を受けようとする者は、「再試験受験願」を事務室へ提出してください。

(6) 受験の際の注意事項

- 1 試験は指定の座席で受験すること。
- 2 携帯品のうち、受験のために必要な筆記用具および許可された物品以外はカバンに入れて足下等に置くこと。
- 3 スマートフォンや携帯電話などは、教室内には持ち込めない。個人ロッカー等に入れておく。
- 4 試験開始30分を経過した後の入室を認めない。
- 5 試験中に試験室外に出ると帰室を認めない。体調不良等、やむを得ない場合は教員の許可を得ること。なお、試験中にトイレに行くことも原則として認めない。
- 6 試験開始後30分間は、教員の許可がない限り退室を認めない。
- 7 受験中は不正行為と疑われるような行為を厳に慎むこと。疑わしい行為を注意した学生には、当該試験の受験を中止し退室を命じることがある。
- 8 受験中に不正行為を行った場合は、当該試験を含め、その期の試験すべてを不合格とする。また、本学学生懲戒規程に基づく懲戒処分（停学・訓告など）を行うことがある。

5 成績の評価

授業科目を履修し、その試験に合格した者に所定の単位を与えます。

ただし、「保健看護研究Ⅱ」と「保健看護管理演習」については、別に行う総合評価のための試験の成績評価と併せて単位を与えるものとします。

成績の評価は、100点を満点とし、その評価は、次の基準により行います。

なお、再試験に合格した場合の成績は、60点となります。

評 価	成 績	判 定
優	80点以上	合 格
良	70点以上80点未満	
可	60点以上70点未満	
不 可	60点未満	不 合 格

※ 成績の結果は、父母(保証人)の方に送付します。

6 卒業要件

本学を卒業するためには、4年以上在学し、必修科目と選択科目を合わせて126単位以上を修得しなければなりません。

《卒業に必要な単位数一覧表・平成28年度以降入学生適用（看護師充実コース）》

授 業 科 目 の 区 分	修 得 単 位 数	
	必 修	選 択
教 養 と 人 間 学 の 領 域	9単位	16単位 以上
保健看護学の基盤となる領域	26単位	5単位 以上
保健看護学の専門となる領域	61単位	9単位 以上
合 計	96単位	30単位 以上
	126単位 以上	

《卒業に必要な単位数一覧表・平成28年度以降入学生適用（保健師コース）》

授 業 科 目 の 区 分	修 得 単 位 数	
	必 修	選 択
教 養 と 人 間 学 の 領 域	9単位	16単位 以上
保健看護学の基盤となる領域	28単位	3単位 以上
保健看護学の専門となる領域	70単位	—
合 計	107単位	19単位 以上
	126単位 以上	

※保健師コースについては、「7 保健師コースの選択について」を参照してください。

7 保健師コースの選択について

保健師コース選択希望者の募集は、2年次の12月～1月の間に実施します。

保健師コースの選択を希望する場合は、指定された期日までに「保健師コース選択願」を事務室に提出しなければなりません。希望者多数の場合は、必修科目の成績順で選考を行い、選択者を決定します。

なお、保健師コース選択者の決定後の選択希望の辞退は原則として認めないので、留意してください。（その他詳細については、募集時にお知らせします。）

【参考】養護教諭2種免許の取得について

養護教諭2種免許については、保健師免許の取得後、住所地の都道府県教育委員会に申請することにより、取得することができますが、この場合、以下の選択科目の履修が必要となりますので、留意してください。

《本学において履修が必要となる選択科目》

番 号	選 択 科 目 名	単位数	配当年次
①	国家・社会と法	2	1～4年次配当
②	保健・スポーツ	1	1～4年次配当
③	運動健康学	1	2年次配当
④	情報科学	1	1～4年次配当

*②及び③については、どちらか1科目を履修してください。

(②及び③の2科目とも履修する必要はありません。)

平成31年度入学生用(看護師充実コース)

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教 養 と 人 間 学 の 領 域	人間の理解	こころの科学		2		30									選択2単位以上
		人と倫理		2	30										
		文学		2	30										
		人間と文化		2	30										
	社会の理解	現代の家族問題		2	30										選択2単位以上
		生活の科学と健康		2	30										
		経済学		2		30									
		国家・社会と法		2		30									
	科学の理解	保健看護の物理学		2	30										必修1単位・選択2単位以上
		保健看護の生物学		2	30										
		生命と遺伝		2		30									
		食の科学		2	30										
		食の科学演習		1		30									
		運動の科学	1				30								
		保健・スポーツ		1		30									
	コミュニケーション	英語Ⅰ	2				60								必修6単位・選択2単位以上
		英語Ⅱ	2					60							
		英会話		2	60										
		英書講読		1	30										
		中国語		2	60										
		情報処理演習	1				30								
		情報科学		1		30									
		感性と芸術		1	30										
		医療コミュニケーション	1											30	
		医療入門:ケア・マインド教育		2	60										
	教養セミナー		2				60								2単位必修
保 健 看 護 学 の 基 盤 と なる 領 域	人間と生命倫理	発達心理学		1			30								必修2単位
		人間関係論	1					30							
		生命倫理	1					30							
		医療哲学		1									15		
		精神療法(心理療法)		1										15	
	保健と福祉	疫学	2								30				必修10
		保健統計学	2						30						
		公衆衛生学	1					15							
		産業保健論	1						15						
		環境保健論		1					15						
		社会福祉概論	1					15							

左の科目を含め合計 25 単位以上

必修6単位・選択2単位以上

2単位必修

必修2単位

必修10

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
保健看護学の基盤となる領域	保健 と 福祉	社会福祉活動論	1						15						単位
		リハビリテーション	1						30						
		保健行政論	1										15		
	健康 と 病態	健康科学	2					30							必修 14 単位
		身体の構造と機能	2				60								
		基礎病態学	1				30								
		慢性期病態学Ⅰ	2					60							
		慢性期病態学Ⅱ(小児)	1					30							
		急性期病態学	2					60							
		総合病態学	1							30					
		終末期医療	1							15					
		メンタルヘルス学	1					30							
		病態栄養学		1					15						
		救急医療(災害医療含む)		1					15						
		基礎薬理学	1						15						
		運動健康学		1					15						
		健康教育論		1						15					
		臨床薬理学		1						15					
保健看護学の専門となる領域	基礎 看護	保健看護学入門	1				30								必修 9 単位
		看護活動論	1				30								
		人間理解と看護	1				30								
		ヘルスアセスメント	1				30								
		看護方法論Ⅰ(生活援助)	1				30								
		看護方法論Ⅱ(看護過程)	2					60							
		看護方法論Ⅲ(医療技術)	2						60						
		看護方法論Ⅳ(癒しと看護)		1						15					
	ライフ ステージ と 保健看護	ライフステージと看護	2				30								必修 4 単位
		性と生殖Ⅰ	1					30							
		性と生殖Ⅱ	1							30					
		女性と健康		2					30						
		学齢期の保健		2							30				
	健康 障害 と 保健 看護	健康と看護	2					60							必修 11
		慢性期看護論Ⅰ	1						30						
		慢性期看護論Ⅱ	1							30					
		慢性期看護論Ⅲ	1							30					
		急性期看護論Ⅰ	1						30						
		急性期看護論Ⅱ	1							30					
		急性期看護論Ⅲ	1							30					

左の科目を含め合計 31 単位以上

授 業 科 目		単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
保健看護学の専門となる領域	健康障害と保健看護	リハビリテーション看護論	1							30				単位	左の科目を含め合計70単位以上
		終末期看護論	2								30				
		高齢者の健康		2								30			
		リエゾン精神看護学Ⅰ		1								15			
		リエゾン精神看護学Ⅱ		1									15		
	生活と保健看護	生活の場と看護	2						60					必修 7単位	
		家族と看護	2							60					
		在宅看護論	1								15				
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	1								30				
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	1								30				
		保健医療経済論		1									15		
		国際保健論		1									15		
	臨地実習	早期体験実習	1				45							必修 23単位	
		基礎看護実習Ⅰ	1					45							
		基礎看護実習Ⅱ	2						90						
		保健看護実習A(母性)	2									90			
		保健看護実習B(小児)	2									90			
		保健看護実習C(老年)	3									135			
		保健看護実習D(精神)	2									90			
		慢性期看護実習	3									135			
		急性期看護実習	3									135			
		在宅看護実習	2									90			
		統合実習Ⅰ	1						45						
		統合実習Ⅱ	1										45		
	総合保健看護	保健看護管理論	2									30		必修 7単位	
		保健看護管理演習	1										30		
		保健看護研究Ⅰ	1								30				
		保健看護研究Ⅱ	3									90			
		保健看護英語		1									15		
		看護教育論		1									15		
		国際交流活動		1	30										
		地域交流活動		1	30										
合 計													126単位以上		

平成31年度入学生用(保健師コース)

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教 養 と 人 間 学 の 領 域	人間の理解	こころの科学		2		30									選択2単位以上
		人と倫理		2		30									
		文学		2		30									
		人間と文化		2		30									
	社会の理解	現代の家族問題		2		30									選択2単位以上
		生活の科学と健康		2		30									
		経済学		2		30									
		国家・社会と法		2		30									
	科学の理解	保健看護の物理学		2		30									必修1単位・選択2単位以上
		保健看護の生物学		2		30									
		生命と遺伝		2		30									
		食の科学		2		30									
		食の科学演習		1		30									
		運動の科学	1				30								
		保健・スポーツ		1		30									
	コミュニケーション	英語 I	2				60								必修6単位・選択2単位以上
		英語 II	2					60							
		英会話		2		60									
		英書講読		1		30									
		中国語		2		60									
		情報処理演習	1				30								
		情報科学		1		30									
		感性と芸術		1		30									
		医療コミュニケーション	1											30	
		医療入門:ケア・マインド教育		2		60									
	教養セミナー		2				60								必修2単位
保 健 看 護 学 の 基 盤 と なる 領 域	人間と生命倫理	発達心理学		1		30									必修2単位
		人間関係論	1					30							
		生命倫理	1					30							
		医療哲学		1									15		
		精神療法(心理療法)		1										15	
	保健と福祉	疫学	2							30					必修11
		保健統計学	2						30						
		公衆衛生学	1					15							
		産業保健論	1						15						
		環境保健論	1						15						
		社会福祉概論	1					15							

左の科目を含め合計 25 単位以上

必修6単位・選択2単位以上

必修2単位

必修2単位

必修11

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
保健看護学の基盤となる領域	保健と福祉	社会福祉活動論	1						15						単位
		リハビリテーション	1						30						
		保健行政論	1										15		
	健康と病態	健康科学	2					30							必修 15 単位
		身体の構造と機能	2				60								
		基礎病態学	1				30								
		慢性期病態学Ⅰ	2					60							
		慢性期病態学Ⅱ(小児)	1					30							
		急性期病態学	2					60							
		総合病態学	1						30						
		終末期医療	1						15						
		メンタルヘルス学	1					30							
		病態栄養学		1					15						
		救急医療(災害医療含む)		1					15						
		基礎薬理学	1						15						
		運動健康学		1					15						
		健康教育論	1							15					
		臨床薬理学		1						15					
保健看護学の専門となる領域	基礎看護	保健看護学入門	1				30								必修 9 単位
		看護活動論	1				30								
		人間理解と看護	1				30								
		ヘルスアセスメント	1				30								
		看護方法論Ⅰ(生活援助)	1				30								
		看護方法論Ⅱ(看護過程)	2					60							
		看護方法論Ⅲ(医療技術)	2						60						
		看護方法論Ⅳ(癒しと看護)		1						15					
	ライフステージと保健看護	ライフステージと看護	2				30								必修 4 単位
		性と生殖Ⅰ	1					30							
		性と生殖Ⅱ	1						30						
		女性と健康		2					30						
		学齢期の保健		2						30					
	健康障害と保健看護	健康と看護	2					60							必修 11
		慢性期看護論Ⅰ	1						30						
		慢性期看護論Ⅱ	1							30					
		慢性期看護論Ⅲ	1							30					
		急性期看護論Ⅰ	1						30						
		急性期看護論Ⅱ	1							30					
		急性期看護論Ⅲ	1							30					

左の科目を含め合計 31 単位以上

授業科目		単位数		1～4年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
保健看護学の専門となる領域	健康障害と保健看護	リハビリテーション看護論	1							30				単位
		終末期看護論	2							60				
		高齢者の健康		2							30			
		リエゾン精神看護学Ⅰ		1							15			
		リエゾン精神看護学Ⅱ		1									15	
	生活と保健看護	生活の場と看護	2					60						必修 11 単位
		家族と看護	2						60					
		在宅看護論	1							15				
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	1							30				
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	1								30			
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	1							30				
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	1							30				
		保健医療経済論	1										15	
		国際保健論	1										15	
	臨地実習	早期体験実習	1			45								必修 28 単位
		基礎看護実習Ⅰ	1				45							
		基礎看護実習Ⅱ	2					90						
		保健看護実習A(母性)	2								90			
		保健看護実習B(小児)	2									90		
		保健看護実習C(老年)	3									135		
		保健看護実習D(精神)	2									90		
		慢性期看護実習	3									135		
		急性期看護実習	3									135		
		在宅看護実習	2								90			
		統合実習Ⅰ	1					45						
		統合実習Ⅱ	1										45	
		公衆衛生看護実習Ⅰ	2								90			
		公衆衛生看護実習Ⅱ	3									135		
	総合保健看護	保健看護管理論	2								30			必修 7 単位
		保健看護管理演習	1									30		
		保健看護研究Ⅰ	1							30				
		保健看護研究Ⅱ	3									90		
		保健看護英語		1									15	
		看護教育論		1									15	
		国際交流活動		1	30									
		地域交流活動		1	30									
合 計													126単位以上	

左の科目を含め合計 70 単位以上

平成30年度入学生用(看護師充実コース)

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教 養 と 人 間 学 の 領 域	人間の理解	こころの科学		2		30									選択2単位以上
		人と倫理		2	30										
		文学		2	30										
		人間と文化		2	30										
	社会の理解	現代の家族問題		2	30										選択2単位以上
		生活の科学と健康		2	30										
		経済学		2	30										
		国家・社会と法		2		30									
	科学の理解	保健看護の物理学		2	30										必修1単位・選択2単位以上
		保健看護の生物学		2		30									
		生命と遺伝		2	30										
		食の科学		2	30										
		食の科学演習		1		30									
		運動の科学	1				30								
		保健・スポーツ		1		30									
	コミュニケーション	英語Ⅰ	2				60								必修6単位・選択2単位以上
		英語Ⅱ	2					60							
		英会話		2	60										
		英書講読		1	30										
		中国語		2	60										
		情報処理演習	1				30								
		情報科学		1		30									
		感性と芸術		1		30									
		医療コミュニケーション	1											30	
		医療入門:ケア・マインド教育		2	60										
	教養セミナー		2				60								2単位必修
保 健 看 護 学 の 基 盤 と なる 領 域	人間と生命倫理	発達心理学		1		30									必修2単位
		人間関係論	1					30							
		生命倫理	1					30							
		医療哲学		1									15		
		精神療法(心理療法)		1										15	
	保健と福祉	疫学	2								30				必修10
		保健統計学	2							30					
		公衆衛生学	1					15							
		産業保健論	1						15						
		環境保健論		1					15						
	社会福祉概論		1					15							

左の科目を含め合計25単位以上

必修6単位・選択2単位以上

2単位必修

必修2単位

必修10

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
保健看護学の基盤となる領域	保健 と 福祉	社会福祉活動論	1						15						単位
		リハビリテーション	1						30						
		保健行政論	1										15		
	健康 と 病態	健康科学	2					30							必修 14 単位
		身体の構造と機能	2					60							
		基礎病態学	1					30							
		慢性期病態学Ⅰ	2						60						
		慢性期病態学Ⅱ(小児)	1						30						
		急性期病態学	2						60						
		総合病態学	1								30				
		終末期医療	1								15				
		メンタルヘルス学	1						30						
		病態栄養学		1						15					
		救急医療(災害医療含む)		1						15					
		基礎薬理学	1							15					
		運動健康学		1						15					
		健康教育論		1							15				
		臨床薬理学		1							15				
保健看護学の専門となる領域	基礎 看護	保健看護学入門	1				30								必修 9 単位
		看護活動論	1					30							
		人間理解と看護	1				30								
		ヘルスアセスメント	1					30							
		看護方法論Ⅰ(生活援助)	1					30							
		看護方法論Ⅱ(看護過程)	2						60						
		看護方法論Ⅲ(医療技術)	2							60					
		看護方法論Ⅳ(癒しと看護)		1							15				
	ライフ ステージ と 保健看護	ライフステージと看護	2					30							必修 4 単位
		性と生殖Ⅰ	1						30						
		性と生殖Ⅱ	1							30					
		女性と健康		2						30					
		学齢期の保健		2								30			
	健康 障害 と 保健 看護	健康と看護	2						60						必修 11
		慢性期看護論Ⅰ	1							30					
		慢性期看護論Ⅱ	1								30				
		慢性期看護論Ⅲ	1								30				
		急性期看護論Ⅰ	1							30					
		急性期看護論Ⅱ	1								30				
		急性期看護論Ⅲ	1								30				

左の科目を含め合計 31 単位以上

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
保健看護学の専門となる領域	健康 障害と 保健 看護	リハビリテーション看護論	1							30					単位	左の科目を含め合計70単位以上
		終末期看護論	2								60					
		高齢者の健康		2								30				
		リエゾン精神看護学Ⅰ		1								15				
		リエゾン精神看護学Ⅱ		1										15		
	生活 と 保健 看護	生活の場と看護	2						30						必修 7単位	
		家族と看護	2							60						
		在宅看護論	1								15					
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	1								30					
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	1								30					
		保健医療経済論		1										15		
		国際保健論		1										15		
	臨地 実習	早期体験実習	1				45								必修 23単位	
		基礎看護実習Ⅰ	1					45								
		基礎看護実習Ⅱ	2						90							
		保健看護実習A(母性)	2									90				
		保健看護実習B(小児)	2										90			
		保健看護実習C(老年)	3										135			
		保健看護実習D(精神)	2										90			
		慢性期看護実習	3										135			
		急性期看護実習	3										135			
		在宅看護実習	2									90				
		統合実習Ⅰ	1						45							
		統合実習Ⅱ	1											45		
	総合 保健 看護	保健看護管理論	2										30		必修 7単位	
		保健看護管理演習	1											30		
		保健看護研究Ⅰ	1								30					
		保健看護研究Ⅱ	3										90			
		保健看護英語		1										15		
		看護教育論		1										15		
		国際交流活動		1	30											
		地域交流活動		1	30											
合 計															126単位以上	

平成30年度入学生用(保健師コース)

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教 養 と 人 間 学 の 領 域	人間の理解	こころの科学		2		30									選択2単位以上
		人と倫理		2		30									
		文学		2		30									
		人間と文化		2		30									
	社会の理解	現代の家族問題		2		30									選択2単位以上
		生活の科学と健康		2		30									
		経済学		2		30									
		国家・社会と法		2		30									
	科学の理解	保健看護の物理学		2		30									必修1単位・選択2単位以上
		保健看護の生物学		2		30									
		生命と遺伝		2		30									
		食の科学		2		30									
		食の科学演習		1		30									
		運動の科学	1				30								
		保健・スポーツ		1		30									
	コミュニケーション	英語 I	2				60								必修6単位・選択2単位以上
		英語 II	2					60							
		英会話		2		60									
		英書講読		1		30									
		中国語		2		60									
		情報処理演習	1				30								
		情報科学		1		30									
		感性と芸術		1		30									
		医療コミュニケーション	1											30	
		医療入門:ケア・マインド教育		2		60									
	教養セミナー		2				60								2単位必修
保 健 看 護 学 の 基 盤 と なる 領 域	人間と生命倫理	発達心理学		1			30								必修2単位
		人間関係論	1					30							
		生命倫理	1					30							
		医療哲学		1										15	
		精神療法(心理療法)		1										15	
	保健と福祉	疫学	2								30				必修11
		保健統計学	2							30					
		公衆衛生学	1					15							
		産業保健論	1						15						
		環境保健論	1						15						
		社会福祉概論	1					15							

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
保健看護学の基盤となる領域	保健 と 福祉	社会福祉活動論	1						15						単位 必修 15 単位 左の科目を含め合計 31 単位以上	
		リハビリテーション	1						30							
		保健行政論	1										15			
	健康 と 病態	健康科学	2					30								必修 15 単位
		身体の構造と機能	2					60								
		基礎病態学	1					30								
		慢性期病態学Ⅰ	2						60							
		慢性期病態学Ⅱ(小児)	1						30							
		急性期病態学	2						60							
		総合病態学	1								30					
		終末期医療	1								15					
		メンタルヘルス学	1						30							
		病態栄養学		1						15						
		救急医療(災害医療含む)		1						15						
		基礎薬理学	1							15						
		運動健康学		1						15						
		健康教育論	1								15					
		臨床薬理学		1							15					
保健看護学の専門となる領域	基礎 看護	保健看護学入門	1					30							必修 9 単位	
		看護活動論	1						30							
		人間理解と看護	1					30								
		ヘルスアセスメント	1						30							
		看護方法論Ⅰ(生活援助)	1						30							
		看護方法論Ⅱ(看護過程)	2							60						
		看護方法論Ⅲ(医療技術)	2								60					
		看護方法論Ⅳ(癒しと看護)		1								15				
	ライフ ステージ と 保健看護	ライフステージと看護	2					30							必修 4 単位	
		性と生殖Ⅰ	1						30							
		性と生殖Ⅱ	1								30					
		女性と健康		2							30					
		学齢期の保健		2								30				
	健康 障害 と 保健 看護	健康と看護	2						60						必修 11	
		慢性期看護論Ⅰ	1							30						
		慢性期看護論Ⅱ	1								30					
		慢性期看護論Ⅲ	1								30					
		急性期看護論Ⅰ	1							30						
急性期看護論Ⅱ		1								30						
急性期看護論Ⅲ		1								30						

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
保健看護学の専門となる領域	健康障害と保健看護	リハビリテーション看護論	1							30					単位
		終末期看護論	2								60				
		高齢者の健康		2								30			
		リエゾン精神看護学Ⅰ		1								15			
		リエゾン精神看護学Ⅱ		1										15	
	生活と保健看護	生活の場と看護	2						30						必修 11 単位
		家族と看護	2							60					
		在宅看護論	1								15				
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	1								30				
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	1									30			
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	1								30				
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	1								30				
		保健医療経済論	1											15	
		国際保健論	1											15	
	臨地実習	早期体験実習	1				45								必修 28 単位
		基礎看護実習Ⅰ	1					45							
		基礎看護実習Ⅱ	2						90						
		保健看護実習A(母性)	2									90			
		保健看護実習B(小児)	2										90		
		保健看護実習C(老年)	3										135		
		保健看護実習D(精神)	2										90		
		慢性期看護実習	3										135		
		急性期看護実習	3										135		
		在宅看護実習	2									90			
		統合実習Ⅰ	1						45						
		統合実習Ⅱ	1											45	
		家庭訪問実習	1									45			
		公衆衛生看護実習	4										180		
	総合保健看護	保健看護管理論	2									30			必修 7 単位
		保健看護管理演習	1											30	
		保健看護研究Ⅰ	1								30				
		保健看護研究Ⅱ	3										90		
		保健看護英語		1										15	
		看護教育論		1										15	
		国際交流活動		1	30										
		地域交流活動		1	30										
合 計															126単位 以上

左の科目を含め合計70 単位以上

左の科目を含め合計 70 単位以上

平成29年度及び平成28年度入学生用(看護師充実コース)

授 業 科 目		単位数	1~4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教 養 と 人 間 学 の 領 域	人間の理解	こころの科学		2		30							選択2単位以上
		人と倫理		2		30							
		文学		2		30							
		人間と文化		2		30							
	社会の理解	現代の家族問題		2		30							選択2単位以上
		生活の科学と健康		2		30							
		経済学		2		30							
		国家・社会と法		2		30							
	科学の理解	保健看護の物理学		2		30							必修1単位・選択2単位以上
		保健看護の生物学		2		30							
		生命と遺伝		2		30							
		食の科学		2		30							
		食の科学演習		1		30							
		運動の科学	1				30						
		保健・スポーツ		1		30							
	コミュニケーション	英語 I	2				60						必修6単位・選択2単位以上
		英語 II	2					60					
		英会話		2		60							
		英書講読		1		30							
		中国語		2		60							
		情報処理演習	1				30						
		情報科学		1		30							
		感性と芸術		1		30							
		医療コミュニケーション	1									30	
		医療入門:ケア・マインド教育		2		60							
	教養セミナー		2				60						必修2単位
保健看護学の基盤となる領域	人間と生命倫理	発達心理学		1		30							必修2単位
		人間関係論	1					30					
		生命倫理	1					30					
		医療哲学		1								15	
		精神療法(心理療法)		1								15	
	保健と福祉	疫学	2						30				必修10
		保健統計学	2					30					
		公衆衛生学	1					15					
		産業保健論	1					15					
		環境保健論		1				15					
	社会福祉概論		1					15					

左の科目を含め合計 25 単位以上

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
保健看護学の基盤となる領域	保健と福祉	社会福祉活動論	1						15						単位
		リハビリテーション	1						30						
		保健行政論	1										15		
	健康と病態	健康科学	2					30							必修 14 単位
		身体の構造と機能	2				60								
		基礎病態学	1				30								
		慢性期病態学Ⅰ	2					60							
		慢性期病態学Ⅱ(小児)	1					30							
		急性期病態学	2					60							
		総合病態学	1							30					
		終末期医療	1							15					
		メンタルヘルス学	1					30							
		病態栄養学		1				15							
		救急医療(災害医療含む)		1				15							
		基礎薬理学	1					15							
		運動健康学		1				15							
		健康教育論		1						15					
		臨床薬理学		1						15					
保健看護学の専門となる領域	基礎看護	保健看護学入門	1				30								必修 9 単位
		看護活動論	1				30								
		人間理解と看護	1				30								
		ヘルスアセスメント	1				30								
		看護方法論Ⅰ(生活援助)	1				30								
		看護方法論Ⅱ(看護過程)	2					60							
		看護方法論Ⅲ(医療技術)	2					60							
		看護方法論Ⅳ(癒しと看護)		1						15					
	ライフステージと保健看護	ライフステージと看護	2				30								必修 4 単位
		性と生殖Ⅰ	1					30							
		性と生殖Ⅱ	1						30						
		女性と健康		2						30					
		学齢期の保健		2							30				
	健康障害と保健看護	健康と看護	2					60							必修 11
		慢性期看護論Ⅰ	1						30						
		慢性期看護論Ⅱ	1							30					
		慢性期看護論Ⅲ	1							30					
		急性期看護論Ⅰ	1						30						
		急性期看護論Ⅱ	1							30					
		急性期看護論Ⅲ	1							30					

左の科目を含め合計 31 単位以上

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
保健看護学の専門となる領域	健康障害と保健看護	リハビリテーション看護論	1							30					単位	左の科目を含め合計70 単位以上
		終末期看護論	2								60					
		高齢者の健康		2								30				
		リエゾン精神看護学Ⅰ		1								15				
		リエゾン精神看護学Ⅱ		1										15		
	生活と保健看護	生活の場と看護	2						30						必修 7 単位	
		家族と看護	2							60						
		在宅看護論	1								15					
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	1								30					
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	1								30					
		保健医療経済論		1										15		
		国際保健論		1										15		
	臨地実習	早期体験実習	1					45							必修 23 単位	
		基礎看護実習Ⅰ	1					45								
		基礎看護実習Ⅱ	2						90							
		保健看護実習A(母性)	2									90				
		保健看護実習B(小児)	2										90			
		保健看護実習C(老年)	3										135			
		保健看護実習D(精神)	2										90			
		慢性期看護実習	3										135			
		急性期看護実習	3										135			
		地域保健実習	1							45						
		在宅看護実習	1									45				
		統合実習Ⅰ	1						45							
		統合実習Ⅱ	1											45		
	総合保健看護	保健看護管理論	2									30			必修 7 単位	
		保健看護管理演習	1										30			
		保健看護研究Ⅰ	1								30					
		保健看護研究Ⅱ	3										90			
		保健看護英語		1										15		
		看護教育論		1										15		
		国際交流活動		1	30											
		地域交流活動		1	30											
合 計															126単位以上	

平成29年度及び平成28年度入学生用(保健師コース)

授 業 科 目			単位数		1~4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教 養 と 人 間 学 の 領 域	人間の理解	こころの科学		2		30									選択2単位以上
		人と倫理		2	30										
		文学		2	30										
		人間と文化		2	30										
	社会の理解	現代の家族問題		2	30										選択2単位以上
		生活の科学と健康		2	30										
		経済学		2		30									
		国家・社会と法		2		30									
	科学の理解	保健看護の物理学		2	30										必修1単位・選択2単位以上
		保健看護の生物学		2		30									
		生命と遺伝		2	30										
		食の科学		2	30										
		食の科学演習		1		30									
		運動の科学	1				30								
		保健・スポーツ		1		30									
	コミュニケーション	英語Ⅰ	2				60								必修6単位・選択2単位以上
		英語Ⅱ	2						60						
		英会話		2	60										
		英書講読		1	30										
		中国語		2	60										
		情報処理演習	1				30								
		情報科学		1		30									
		感性と芸術		1	30										
		医療コミュニケーション	1											30	
		医療入門:ケア・マインド教育		2	60										
	教養セミナー		2				60								必修2単位
保健看護学の基盤となる領域	人間と生命倫理	発達心理学		1		30									必修2単位
		人間関係論	1					30							
		生命倫理	1					30							
		医療哲学		1									15		
		精神療法(心理療法)		1										15	
	保健と福祉	疫学	2							30					必修11
		保健統計学	2						30						
		公衆衛生学	1					15							
		産業保健論	1						15						
		環境保健論	1						15						
		社会福祉概論	1					15							

左の科目を含め合計25単位以上

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
保健看護学の基盤となる領域	保健 と 福祉	社会福祉活動論	1						15						単位	左の科目を含め合計 31 単位以上	
		リハビリテーション	1						30								
		保健行政論	1										15				
	健康 と 病態	健康科学	2					30									必修 15 単位
		身体の構造と機能	2				60										
		基礎病態学	1				30										
		慢性期病態学Ⅰ	2					60									
		慢性期病態学Ⅱ(小児)	1						30								
		急性期病態学	2					60									
		総合病態学	1							30							
		終末期医療	1							15							
		メンタルヘルス学	1					30									
		病態栄養学		1					15								
		救急医療(災害医療含む)		1					15								
		基礎薬理学	1						15								
		運動健康学		1					15								
		健康教育論	1							15							
		臨床薬理学		1						15							
保健看護学の専門となる領域	基礎 看護	保健看護学入門	1				30								必修 9 単位		
		看護活動論	1					30									
		人間理解と看護	1				30										
		ヘルスアセスメント	1					30									
		看護方法論Ⅰ(生活援助)	1					30									
		看護方法論Ⅱ(看護過程)	2						60								
		看護方法論Ⅲ(医療技術)	2							60							
		看護方法論Ⅳ(癒しと看護)		1							15						
	ライフ ステージ と 保健看護	ライフステージと看護	2					30							必修 4 単位		
		性と生殖Ⅰ	1						30								
		性と生殖Ⅱ	1							30							
		女性と健康		2							30						
		学齢期の保健		2								30					
	健康 障害 と 保健 看護	健康と看護	2						60						必修 11		
		慢性期看護論Ⅰ	1							30							
		慢性期看護論Ⅱ	1								30						
		慢性期看護論Ⅲ	1								30						
		急性期看護論Ⅰ	1							30							
急性期看護論Ⅱ		1								30							
急性期看護論Ⅲ		1									30						

授 業 科 目			単位数		1～4 年次		1年次		2年次		3年次		4年次		備 考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
保健看護学の専門となる領域	健康障害と保健看護	リハビリテーション看護論	1							30					単位
		終末期看護論	2							60					
		高齢者の健康		2							30				
		リエゾン精神看護学Ⅰ		1							15				
		リエゾン精神看護学Ⅱ		1									15		
	生活と保健看護	生活の場と看護	2						30						必修 11 単位
		家族と看護	2						60						
		在宅看護論	1							15					
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	1							30					
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	1							30					
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	1							30					
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	1							30					
		保健医療経済論	1										15		
		国際保健論	1										15		
	臨地実習	早期体験実習	1				45								必修 28 単位
		基礎看護実習Ⅰ	1				45								
		基礎看護実習Ⅱ	2					90							
		保健看護実習A(母性)	2								90				
		保健看護実習B(小児)	2								90				
		保健看護実習C(老年)	3								135				
		保健看護実習D(精神)	2								90				
		慢性期看護実習	3								135				
		急性期看護実習	3								135				
		地域保健実習	1						45						
		在宅看護実習	1								45				
		統合実習Ⅰ	1					45							
		統合実習Ⅱ	1										45		
		家庭訪問実習	1								45				
		公衆衛生看護実習	4									180			
	総合保健看護	保健看護管理論	2								30				必修 7 単位
		保健看護管理演習	1									30			
		保健看護研究Ⅰ	1							30					
		保健看護研究Ⅱ	3								90				
		保健看護英語		1									15		
		看護教育論		1									15		
		国際交流活動		1	30										
		地域交流活動		1	30										
合 計															126単位 以上

左の科目を含め合計70 単位以上

左の科目を含め合計 70 単位以上

別表 2

授 業 科	先修条件として指定する授業科目
保健看護研究Ⅱ	保健看護研究Ⅰ
保健看護実習 A（母性）	性と生殖Ⅰ、性と生殖Ⅱ
保健看護実習 B（小児）	慢性期看護論Ⅱ、急性期看護論Ⅱ、終末期看護論
保健看護実習 C（老年）	慢性期看護論Ⅱ、終末期看護論
保健看護実習 D（精神）	急性期看護論Ⅱ、終末期看護論
慢性期看護実習 急性期看護実習	慢性期看護論Ⅲ、急性期看護論Ⅲ、終末期看護論
在宅看護実習	在宅看護論
統合実習Ⅱ	保健看護管理論、1年～4年前期までの全実習科目
公衆衛生看護実習	公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護方法論Ⅰ、 公衆衛生看護方法論Ⅱ

○ 2年生までのすべての科目を履修していること。

必修科目・1年次

運動の科学	25
英語Ⅰ	26
情報処理演習	27
教養セミナー	28
健康科学	29
身体の構造と機能	30
基礎病態学	31
保健看護学入門	32
看護活動論	33
人間理解と看護	34
ヘルスアセスメント	35
看護方法論Ⅰ（生活援助）	36
ライフステージと看護	37

(前期) 1 年次・必修

【概要・目標】

本授業では、体育・スポーツ教育での学びや協調性、自主性等を生かし、仲間同士による助け合いを通して、スポーツの楽しさだけでなく、達成感、爽快感を創出することを目標とします。実施するスポーツ種目はバレーボール、バスケットボール（ポートボール）、バドミントンなどで、これらのスポーツ種目を8人～12人グループ単位の対戦形式で行います。

また、最近話題になっている健康運動についても紹介し、各自の健康の維持・増進に効果的な運動・スポーツを実践するとともに、健康の維持・増進に必要な運動の基礎的理論を学びます。

【授業内容・スケジュール】

- 1) ガイダンス（授業の内容・進め方について）
- 2) 体力・運動能力チェック
- 3) スポーツ実技1（団体戦：ポートボール）
- 4) スポーツ実技2（団体戦：バスケットボール）
- 5) スポーツ実技3（団体戦：バスケットボール）
- 6) スポーツ実技4（団体戦：バレーボール）
- 7) スポーツ実技5（団体戦：バレーボール）
- 8) スポーツ実技6（団体戦：バレーボール）
- 9) 健康運動（イージーダンス）
- 10) 健康運動・スポーツ実技1（フリスビーゲーム）
- 11) 健康運動・スポーツ実技2（フリスビーゲーム）
- 12) 健康運動・スポーツ実技3（ドッジボール）
- 13) 健康運動・スポーツ実技4（団体戦：バドミントン）
- 14) 健康運動・スポーツ実技5（団体戦：バドミントン）
- 15) まとめと評価

【評価】

試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、発表（0%）、提出物（0%）、出席状況（20%）、参加態度（20%）、その他（0%）

【教科書】

使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【推薦参考図書】

適宜、提示します。

【その他】

動きやすい服装、シューズで参加して下さい。

(通年) 1 年次・必修

【概要・目標】

この授業の目的は、環境問題を扱ったテキストを用いて、英語 4 技能を養成することである。単に語彙を習得したり構文を理解したりするだけでなく、CLIL のコンセプトに基づき、我々人類がどうあるべきかをテーマにクリティカル・シンキング力を養う。そして言語的知識および運用力の基盤を育成するとともに、総合的な英語発信能力の向上を目指す。

【授業内容・スケジュール】

- 1) オリエンテーション (授業の概要、受講上の注意点など)
 - 2) 3) Unit 1 Introduction to Environmental Issues
 - 4) 5) Unit 2 Climate Change
 - 6) 7) Unit 3 Energy
 - 8) 9) Unit 4 Waste
 - 10) 11) Unit 5 Unit 1-4 Review
 - 12) 13) Unit 6 Population Growth
 - 14) 前期のまとめ
 - 15) 前期目標到達度確認
 - 16) 前期を振り返って
 - 17) 18) Unit 7 Pollution
 - 19) 20) Unit 8 Water
 - 21) 22) Unit 9 Deforestation
 - 23) 24) Unit 10 Unit 6-9 Review
 - 25) 26) Unit 11 Hydroelectricity
 - 27) 28) Unit 12 Solar Panels
 - 29) 後期のまとめ
 - 30) 後期目標到達度確認
-

【評価】

試験 (60%)、レポート (20%)、授業参加・貢献度 (20%) で総合評価する。

【教科書】

Adam Murray, Anderson Passos. 『Our World Today』 南雲堂, 2019.

【推薦参考図書】

適宜紹介する

【その他】

全授業回数の 3 分の 1 以上の欠席は失格、遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回分とカウントする。毎回必ず辞書 (電子辞書可) を持参すること。なおスマートフォンや携帯電話の使用は認めず、辞書なしの受講は欠席とみなすので注意すること。

(前期) 1 年次・必修

【概要・目標】

情報化社会においてはコンピュータに対する知識やその基本的な操作方法の修得が必要不可欠なものとなってきている。本演習の到達目標は、①コンピュータ環境に慣れること、②各種のアプリケーションを活用できるようになること、③インターネットの活用とそのモラルについて理解することにある。毎回の演習を通じて、コンピュータ・リテラシーについての基本的な理解をしてもらいたい。なお、この授業は 40 人単位の 2 クラスに分けて演習形式で行う。

【授業内容のスケジュール】

- 1) コンピュータの基本操作とインターネットの活用
- 2) ワードプロソフトの活用 1—Word2013 の基礎
- 3) ワードプロソフトの活用 2—文書の作成
- 4) ワードプロソフトの活用 3—表の作成
- 5) ワードプロソフトの活用 4—実践
- 6) プレゼンテーションソフトの活用 1—PowerPoint2013 の基礎
- 7) プレゼンテーションソフトの活用 2—スライドの作成
- 8) プレゼンテーションソフトの活用 3—独自のスライド作成
- 9) プレゼンテーションソフトの活用 4—発展
- 10) 表計算ソフトの活用 1—Excel2013 の基礎
- 11) 表計算ソフトの活用 2—表の作成
- 12) 表計算ソフトの活用 3—グラフの作成
- 13) 表計算ソフトの活用 4—データベースの活用と関数の利用
- 14) 個別課題への取り組み
- 15) 個別課題の完成

【評価】

最終課題 (80 点満点) に、普段の授業での取り組みの係数 (0.75 から 1.25) を掛けて 100 点満点で評価する。

【教科書】

「身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2013&情報モラル」 noa 出版

「文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶ Office 活用術」 noa 出版

「情報倫理ハンドブック」 noa 出版

【推薦参考図書】

情報科学教室や図書館に備えてあるコンピュータ関連の本のうちで、書名に "Windows"、"Office"、"Word"、"Excel" 等が含まれているもの。

【その他】

第 1 回で配布する授業進行用シラバスを授業前に読み、必ず持参すること。そのシラバスやテキストを忘れた場合、大幅な減点対象となることもある。

(通年) 1 年次・必修

【概要・目標】

看護職は、その業務を自ら工夫し判断する力を持つことを求められている。しかるに学内では、定期試験の直前に教科書のどこを覚えたらよいか聞きに来る学生が絶えない。なんたることか。君たちは変わらなければならない。

ここに、自ら問題を発見し、自らその解決を図る時間を用意する。5～6人のグループに分かれ、教員の見守る中で学生たちが自らの興味関心を発掘し、解決すべき課題をたて、その解決を図る。時間はたっぷりある。紆余曲折結構。議論が過ぎての喧嘩も結構。教員を巻き込むのも構わない。すべては君たちに掛かっている。

知恵を絞ろう。議論をしよう。何を探せばいいか、どうまとめたらいいか。判断に間違いはないか。知りたいことが分かったか。

最後は、成果を発表する。短い時間に過不足なく人に伝えるには、工夫が必要だ。しかし、こじんまりした発表はいらない。途中経過で結構。ただ、君たちが今しなければならないことが骨身に応えるほど分かったかどうか、それだけを期待する。

【授業内容・スケジュール】

- 1) オリエンテーション、配属（前期）
- 2) ～ 13) 前期テーマ（課題 1, 課題 2）による討論
- 14) ～ 15) 前期発表会
- 16) 配属（後期）
- 17) ～ 28) 後期テーマ（課題 1, 課題 2）による討論
- 29) ～ 30) 後期発表会

【評価】

出欠状況、授業への積極的参加度

【教科書】

【推薦参考図書】

【その他】

(後期) 1 年次・必修

【概要・目標】

人間の健康についての多面的な考究に必要な視点、知識、研究手法等を習得する。すなわち、今日的な健康課題として、人間の尊厳にかかわる健康の概念、基本的人権としての健康権、社会環境の変化に伴う健康問題の変遷、教育、保健・医療、福祉の統合とヘルスプロモーションの展開等について学際的に理解する。

【授業内容・スケジュール】

- 1 生命維持と健康—生理学的理解—
 - ① 生理学からみた健康
 - ② 生命表に見る健康課題の変遷
 - ③ 感染症対策から生活習慣病予防へ — 一次予防と二次予防 —
 - ④ 生涯を通じての健康づくり
- 2 精神発達と健康—大脳生理学と発達心理学—
 - ⑤ 人間らしさの生理学的基礎
 - ⑥ 発達段階と発達課題—健康な「こころ」を育てるために—
 - ⑦ 発達段階に応じた精神保健
 - ⑧ 自殺の年次推移とその背景にあるとみられる諸要因
- 3 健康の社会的側面
 - ⑨ 狩猟・採集社会、農耕社会から工業化、頭脳集積型社会へ
 - ⑩ 人口問題の変遷—少子・高齢化が提起する課題
 - ⑪ 少子化対策と高齢社会対策
 - ⑫ 社会の組織的努力と個人の自助努力・自己責任
- 4 環境と生体の相互作用
 - ⑬ 生態系の営み
 - ⑭ 疾病の発症・進展への各種要因のかかわり
 - ⑮ 新しい環境問題—地球環境問題

【評価】

筆記試験 (80%)、毎時間のミニレポート (20%)

【教科書】

城・宮下・武田編 「エビデンスにもとづく公衆衛生学」 培風館 2017

その他、必要に応じ資料配布

【推薦参考図書】

適宜紹介する

【その他】

身体の構造と機能	上 松 右 二 教授 水 越 正 人 教授 森 岡 郁 晴 教授 柳 川 敏 彦 教授
(通年) 1 年次・必修	
【概要・目標】	
講義と実習を通して構造(解剖)と機能(生理)を関連づけながら、正常な人体の成り立ちを理解する。疾病や病態の理解のためには、正常な人体の構造・機能に関する正確な知識を習得することが必要となる。(オムニバス方式)	
(上松教授) 内分泌器(前期)、消化器・代謝(前期)、神経組織(後期)	
(水越教授) 人体：オリエンテーション・細胞と組織(前期)、循環器(後期)	
(森岡教授) 骨格・筋(前期)、血液・生体防御機構(後期)	
(柳川教授) 呼吸器(前期)、腎(後期) 男性・女性生殖器(後期)	
上記の構造と機能について疾患の発生に関連する知識を整理し、後の病態学の学習のための知識とする。	
【授業内容のスケジュール】	(担 当)
【前期】	
骨格・筋	森 岡
人体：オリエンテーション・細胞と組織	水 越
呼吸器	柳 川
消化器	上 松
内分泌器	上 松
組織実習	全 員
【後期】	
循環器	水 越
神経	上 松
血液・生体防御機構	森 岡
泌尿器・腎	柳 川
生殖器	柳 川
※系統解剖学実習見学(1 / 2 回)	全 員
【評価】	
筆記試験(80%)、出席状況(10%)、提出物(レポート等)(10%)	
前期・後期にそれぞれの講義内容について筆記試験を行い、評価は通年で判定する。	
【教科書】	
エルン N. マーブ 著「人体の構造と機能」医学書院 2015 年(第4版)	
改訂の場合は発行最新版を使用	
【その他】	

基礎病態学

上 松 右 二 教授
水 越 正 人 教授
村 垣 泰 光 教授*
西 尾 真智子 教授*

(後期) 1 年次・必修

【概要・目標】

人体の正常についての知識（身体の構造と機能）をもとに、その異常（疾患）の病因と発生機序を理解し、各種病態の理解に必要な基礎知識を習得する。

【授業内容のスケジュール】

(担 当)

1) ～ 4)

(病理学総論) 人体の正常についての知識をもとに、疾患の基礎病態である炎症、腫瘍、免疫機構、循環障害、代謝障害などの総論を学習する。

(村 垣)

5) ～ 8)

(微生物学) 感染性の原因となる微生物の特徴を理解するとともに、感染に伴う生体反応としての臨床的症候についても学習する。

(西 尾)

9) ～ 15)

(病理学各論) 各種疾患の基礎病態を総論の知識をもとに学習する。

(上 松, 水 越)

【評価】

筆記／口頭試験 (90%)、出席状況 (10%)

【教科書】

講義プリント

【推薦参考図書】

- 1) 「標準病理学」第5版 医学書院 2015
- 2) 小熊恵二、堀田博「コンパクト微生物学」南江堂 2015
- 3) 本田武司編「はじめの一步のイラスト感染病・微生物学」羊土社 2011
- 4) 平野朝雄、富安斉「神経病理を学ぶ人のために」医学書院 2003
- 5) 渡辺照男編「カラーで学べる病理学」ヌーベルヒロカワ 2014

【その他】

【概要・目標】

概要：保健看護は、保健や医療のみならず高齢者や障害者に関わる福祉とのつながりを深めながら、その人を中心に専門家と連携し、健康上の相談や助言、教育指導に関わり、生活を支えていくという広い視野の中にあることを学ぶ。
また、看護の本質や看護の独自性について学ぶ。看護の歴史的経緯をふまえ、看護学を構築する重要概念を理解する。

目標：1) 保健看護の考え方を学ぶ。

2) 看護に関わる歴史的事象をふまえて、生活と健康、社会と看護とのつながりを学び、看護の役割拡大について考える。

3) 看護学を構築する4つの重要概念を学び、人間の生活と健康との関連を考える。

4) 看護学における基本的概念と看護倫理を理解し、看護の本質を考える。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 保健看護について
- 2) ～3) 看護概念の変遷
- 4) ～5) 看護概念の構成要素
- 6) ～7) 看護の本質 1
- 8) ～10) 看護の本質 2
- 11) ～12) 看護の本質 3
- 13) 看護倫理
- 14) 看護職者の教育とキャリア開発
- 15) まとめ

【評価】

筆記試験 (70%)、レポート (20%)、グループワーク等の参加状況 (10%)

【教科書】

日本看護協会監修「2019 年度版 看護者の基本的責務」日本看護協会出版会
茂野香おる他「系統看護学講座 1 看護学概論 第 16 版」医学書院 2016

【推薦参考図書】

F. ナイチンゲール「看護覚え書 (対訳)」うぶすな書院 1998

V. ヘンダーソン「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 2016

その他随時紹介する

【その他】

(後期) 1 年次・必修

【概要・目標】

概要：看護の機能と役割を学び、看護活動の目標、対象、看護と社会との関わりなどについて学習する。また、看護の見方・考え方の基盤として看護理論を学習するとともに、看護倫理の課題を理解し、それらを実践に活用する方法を考察する。さらに、医療において避けて通ることのできない人の死と看護について学習する。

- 目標：1) 看護活動の目標、対象、看護と社会との関わりについて理解を深める。
2) 看護の役割と機能について理解する。
3) 看護の理論と看護実践の関係について理解する。
4) 看護実践における行動の指針となる看護倫理について考える。
5) 看護において重要である人の死についての理解を深める。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 看護活動論とは
- 2) 看護の役割と機能
- 3) ～7) 看護理論
- 8) ～10) 医療をめぐる死・死の準備教育
- 11) ～13) 看護倫理
- 14) 医療安全
- 15) まとめ

【評価】

筆記試験 (70%)、レポート (20%)、グループワーク等の参加状況 (10%)

【教科書】

茂野香おる他「系統看護学講座 1 看護学概論 第 16 版」医学書院 2016
筒井真優美編「看護理論 看護理論 20 の理解と実践への応用 第 2 版」南江堂 2015

【推薦参考図書】

随時紹介する

【その他】

看護学生フォーラム等

人間理解と看護

坂 本 由希子 准教授
岩 根 直 美 講師
中 島 珠 生 助教
米 島 望 助教
野々口 陽子 助教

(前期) 1 年次・必修

【概要・目標】

概要：この科目は、看護の対象である人を理解するための基礎的な理論を学習し、看護の立場から人間をどう理解するかを探究する。そして、看護実践を行なう際に共通する基本的な看護技術である感染防止対策の基本、コミュニケーション技術、環境を整える技術を習得する。また、これらの学習を通して、看護活動とは何かを自ら探究しようとする力を養う。

- 目標：1) 人間理解の基礎的理論を理解する。
2) 保健看護の視点で人間を探究することができる。
3) 看護活動に共通する看護技術について理解できる。
4) 感染防止対策の基本を理解し、手洗いの技術が習得できる。
5) 対象とのよい人間関係を形成するためのコミュニケーションについて理解し、基礎的な技術が習得できる。
6) 保健看護の視点から人間と環境との関連について理解し、環境を整える基礎的な技術が習得できる。

【授業内容のスケジュール】

- 1) ガイダンスおよび看護技術の基本 / 人間の欲求と看護とのかかわり
- 2) ～ 3) 感染防止対策の基本と手洗い技術
- 4) ～ 7) 人間関係を発展させる技術
- 8) ～ 9) 人間と環境のかかわり
- 10) 効率的で安楽な動きを作り出す技術 (ボディメカニクス)
- 11) ～ 14) 環境を整える基本的技術
- 15) まとめ

【評価】

筆記試験 (70%)、技術試験 (20%)、レポート・出席や演習などの学習態度 (10%)

【教科書】

坪井良子・松田たみ子編「考える基礎看護技術 I・II 第3版」ヌーヴェルヒロカワ
任和子他編「根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版」医学書院

【推薦参考図書】

三上れつ・小松万喜子編「演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版」ヌーヴェルヒロカワ
阿曾洋子・井上智子・氏家幸子著「基礎看護技術 第7版」医学書院
川島みどり著「改訂版 実践的看護マニュアル 共通技術編」看護の科学社
吉田みつ子・本庄恵子編著「写真でわかる 実習で使える看護技術」インターメディカ
志自岐康子他編「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」メディカ出版
その他 (講義の中で紹介)

【その他】

学習サポート: 実習室において自己学習と技術指導を受けることができます。(曜日などの詳細は別途)

ヘルスアセスメント

岩 根 直 美	講師
坂 本 由希子	准教授
中 島 珠 生	助教
米 島 望	助教
野々口 陽 子	助教

(後期) 1 年次・必修

【概要・目標】

この科目では、対象者の健康状態をアセスメントするための基礎的知識とアセスメントテクニックを学ぶ。アセスメントテクニックとしては、問診、視診、触診、打診、聴診、測定器具を用いた方法を学ぶ。さらに、生理的側面と心理・社会的側面の関係をふまえ、収集した情報からのアセスメントの方法を学ぶ。

- 目標
- 1) 対象者の健康状態をアセスメントするための全身の系統的見方がわかる。
 - 2) 問診、視診、触診、聴診、打診、測定器具を用いた方法を用い必要な情報を得ることができる。
 - 3) 得られた情報から、その意味を考えることができる。
 - 4) 判断のために必要な情報を考えることができる。
-

【授業内容のスケジュール】

- 1) ヘルスアセスメントとは
 - 2) ～6) バイタルサインズのアセスメント(講義と演習)
呼吸・循環(血圧・脈拍)・体温
 - 7) ～12) フィジカルアセスメントテクニック(講義と演習)
問診・視診・触診・打診・聴診
身体各部の計測
 - 13) 食事と栄養に関するアセスメント
 - 14) 排泄に関するアセスメント
 - 15) 意識障害と神経系のアセスメント
-

【評価】

試験(80%)、授業への参加態度(10%)、提出物(10%)をもって評価する。

【教科書】

松尾ミヨ子他編「ナースিং・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント」第5版 メディカ出版

【推薦参考図書】

- 1) 三上 れつ 他編「ヘルスアセスメント」第2版 南江堂
 - 2) 藤崎郁「フィジカルアセスメント完全ガイド」第3版 学習研究社
 - 3) 阿部幸恵「症状別病態生理とフィジカルアセスメント」照林社
-

【その他】

学習サポート

実習室において、自己学習と技術指導を受けることができます。(曜日などの詳細は別途)

看護方法論Ⅰ（生活援助）

坂 本 由希子 准教授
岩 根 直 美 講師
中 島 珠 生 助教
米 島 望 助教
野々口 陽子 助教

（後期）１年次・必修

【概要・目標】

概要：あらゆる健康レベルにある人々の生活過程を理解し、人々が安全で安楽な生活を行うための基礎的な援助技術を習得する。看護技術の習得は、人間への尊厳を土台として、手順や方法だけでなく専門的な知識をふまえて、状況を判断する能力が必要であり、根拠に基づいた実践が行えるように学習する。

- 目標：１） ボディメカニクスや体位変換および移動について学び、それらを整える技術を習得する。
- ２） 休息や睡眠、また運動や活動について学び、それらを整える技術を習得する。
- ３） 身体の清潔について学び、それらを整える技術を習得する。
- ４） 栄養と食事について学び、それらを整える技術を習得する。
- ５） 排泄について学び、それらを整える技術を習得する。

【授業内容のスケジュール】

- １） ガイダンスおよび人々の生活過程の特徴
- ２）～４） 運動と活動・睡眠と休息に関する技術
- ５）～９） 衣生活と清潔に関する技術
- １０）～１１） 栄養と食生活に関する技術
- １２）～１４） 排泄に関する技術
- １５） まとめ

【評価】

筆記試験（70%）、技術試験（20%）、レポート・出席や演習などの学習態度（10%）

【教科書】

坪井良子・松田たみ子編「考える基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 第3版」ヌーヴェルヒロカワ
任和子他編「根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第2版」医学書院

【推薦参考図書】

三上れつ・小松万喜子編「演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版」ヌーヴェルヒロカワ
阿曾洋子・井上智子・氏家幸子著「基礎看護技術 第7版」医学書院
川島みどり著「改訂版 実践的看護マニュアル 共通技術編」看護の科学社
吉田みつ子・本庄恵子編著「写真でわかる 実習で使える看護技術」インターメディカ
志自岐康子他編「ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版」メディカ出版
その他（講義の中で紹介）

【その他】

学習サポート：実習室において自己学習と技術指導を受けることができます。（曜日などの詳細は別途）

ライフステージと看護

井 上 みゆき 教授
辻 あさみ 教授
山 口 雅 子 教授
藤 本 由美子 特任教授

(後期) 1 年次・必修

【概要・目標】

健康な人の身体的・精神的・社会的発達を理解するために、それぞれのライフステージにおける特徴と発達課題を学び、健康を守る生活支援や看護の役割を理解する。

1. 人間を生涯発達の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。
2. ライフステージにおける各期の特徴と発達課題を身体的・精神的・社会的側面から理解する。
3. 個人が主体的に健康を守り、望ましい発達や適応を促進する生活ができるよう支援する保健看護について学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

(担当)

1) ライフステージと看護

山口

(1)人間の発達とは (2)ライフステージと発達課題

2) ～6) 母性看護における発達の特徴と健康への看護

山口

(1) リプロダクティブヘルス/ライツ

(2) 母性看護の対象の理解

(3) 母性の健康課題・発達課題

7) ～9) 小児期における成長・発達の特徴と生活支援

井上

(1) 乳児期の成長・発達と生活支援

(2) 幼児期の成長・発達と生活支援

(3) 学童期の成長・発達と生活支援

10) ～12) 成人期における発達の特徴と健康への看護

辻

(1)成人期の特徴と成人を取り巻く状況 (2)成人期にある人の健康

(3)成人期にある人を看護するための基本的な考え方

(4)成人期にある人の健康状態に応じた看護

13) ～15) 老年期における成長・発達の特徴と健康への看護

藤本

(1)老年期の特徴 (2)発達課題と危機 (3)健康問題と看護

【評価】 小児看護：事前学習課題・講義への自主的参加・試験

筆記試験 評価責任者：山口雅子教授

【教科書】

新道幸恵他 「母性看護学①母性看護学概論」メヂカルフレンド社

二宮啓子他 「小児看護学概論—子どもと家族に寄り添う援助 改訂第3版」南江堂

林直子監修 「成人看護学 成人看護学概論 改訂第2版」南江堂

北川公子他 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」医学書院

【推薦参考図書】

服部祥子「生涯人間発達論」医学書院 2000

舟島なをみ「看護のための人間発達学」医学書院 1995

必修科目・2年次

英語Ⅱ	39
人間関係論	40
生命倫理	41
保健統計学	42
公衆衛生学	43
産業保健論	44
社会福祉概論	45
社会福祉活動論	46
リハビリテーション	47
慢性期病態学Ⅰ	48
急性期病態学	49
メンタルヘルス学	50
慢性期病態学Ⅱ（小児）	51
基礎薬理学	52
看護方法論Ⅱ（看護過程）	53
看護方法論Ⅲ（医療技術）	54
性と生殖Ⅰ	55
健康と看護	56
慢性期看護論Ⅰ	57
急性期看護論Ⅰ	58
リハビリテーション看護論	59
生活の場と看護	60
家族と看護	61

(通年) 2 年次・必修

【概要・目標】

この授業の目的は、リスニングとスピーキングに特化した DVD 教材を用いて、言語スキルのみならずクリティカル・シンキング力を養成することである。また英語でプレゼンテーションおよび質疑応答を行うことにより、自らの意思や論理的思考を適切に伝達するとともに、他者の意思を的確に把握する総合的なコミュニケーション能力を向上させる。さらに将来専門職に就いてさまざまな人たちと意思疎通を図る際に、授業で培った言語運用能力を活用できることを願う。

【授業内容・スケジュール】

- 1) オリエンテーション (授業の概要、受講上の注意点など)
- 2) 3) 4) Unit 1 Healthy Lives
- 5) 6) 7) Unit 2 Technology Today and Tomorrow
- 8) 9) 10) Unit 3 Culture and Tradition
- 11) 12) 13) Unit 4 A Thirsty World
- 14) 前期のまとめ
- 15) 前期目標到達度確認
- 16) 前期を振り返って
- 17) 18) 19) Unit 5 Inside the Brain
- 20) 21) 22) Unit 6 Let's Eat!
- 23) 24) 25) Unit 7 Our Active Earth
- 26) 27) 28) Unit 8 Wonders from the Past
- 29) 後期のまとめ
- 30) 後期目標到達度確認

【評価】

試験 (60%)、プレゼンテーション (20%)、授業参加・貢献度 (20%) で総合評価する。

【教科書】

Becky T. Chase 他『Pathways: Listening, Speaking and Critical Thinking (Level 2)』Second Edition.
National Geographic Learning, 2019.

【推薦参考図書】

適宜紹介する

【その他】

全授業回数の 3 分の 1 以上の欠席は失格、遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回分とカウントする。毎回必ず辞書 (電子辞書可) を持参すること。なおスマートフォンや携帯電話の使用は認めず、辞書なしの受講は欠席とみなすので注意すること。

【概要・目標】

現代は人間関係を築くのが難しい時代だと考えられている。また、人間関係で悩んでいる人の数も年々増加していることが知られている。ここでは、人間関係の諸相を、自己理解、対人認知、コミュニケーションといった観点から検討する。とくに、「なぜ人間関係がうまくいかないのか」、「なぜうまく伝えられないのか」に関わる講義や実践を通して、医療の場に求められているコミュニケーションのあり方について考えてみたい。

【授業内容のスケジュール】

担当

1) 集団の影響	2) 同調	石井／石井
3) 集団的意思決定の規範	4) 集団的意思決定の罫	石井／石井
5) 対人的意思決定とゲーム理論	6) 社会的ジレンマ	石井／石井
7) チームワークとリーダーシップ		石井
8) 記号論・コミュニケーション論の基礎	9) (発表関連の調整)	増田／増田
*10) 非言語コミュニケーション	*11) 自己理解	(増田)／(増田)
*12) 自己開示・自己呈示	*13) ポライトネス	(増田)／(増田)
*14) 誤解	15) 心理学的な説得的コミュニケーション	(増田)／増田

※尚、*印が付された計 5 回分は、学生グループ(原則 16 名)が実質 70 分間授業を実施する。

【評価】

石井担当回(50 点満点)と増田担当回(50 点満点)の合算で評価する。期末試験及び再試験を含め、両教員の担当授業は独立しているので注意すること

【石井担当回】筆記試験(70%)、授業への参加状況(30%)により総合的に評価する。

【増田担当回】

期末試験(持ち込みなし)における個人得点(48 点満点)に、発表担当グループが受け取る「学生担当授業成果係数」(最低 0.50 から最高 1.50)を掛けた数値の小数点以下第 1 位を四捨五入した整数値を素点とする(50 点を超過した点数は切り捨て)。

●期末試験は問題選択式記号選択式試験であり、24 問出題される。但し、正答 1 問 4 点加点、誤答 1 問 4 点減点である。*印が付された回から各 4 問、他の 2 回から合わせて 4 問出題されるが、うち 2 問は授業を担当したグループの出題リスト(20 問作成が条件)から採用されるが、採用問題は事前には通知されない。原則的には、授業内容の指導は担当グループの学生が行う。

●「学生担当授業成果係数」は、自グループが担当した回に関連する 4 問のうち、他グループ学生の選択率 2 位と 3 位の問題の正答率のそれぞれ 4 分の 1 の値を合算したものである。

【教科書】【推薦参考図書】

【石井担当回】使用しない。【増田担当回】。以下の 3 点は必携である。

必携①中西雅之「人間関係を学ぶための 11 章」くろしお出版 2000

必携②岡本真一郎「言語の社会心理学」中央公論新社(中公新書) 2013

必携③堀田秀吾「なぜ、あの人の頼みは聞いてしまうのか?」筑摩書房(ちくま新書) 2014

【その他】【増田担当回】年度始めのオリエンテーションで配布されるシラバスや掲示の指示に注意すること。オフィスアワーは「授業準備」に限り、各グループに割り当てられた制限時間のみである。

【概要・目標】

近代医学・医療の急激な進歩に伴って表面化してきた人間の生と死をめぐる諸問題を俎上に載せ、基本的人権としての生存権、生活権、健康権とともに、医療の場における患者の自決権が如何に保障されるべきかについて考究し、医療の担い手の基本的な資質として求められる患者の人権を尊び守る態度の涵養を図る。

【授業内容・スケジュール】

- i. 竹中が担当する前半は、いわば「基礎編」、あるいは「理論編」である。7 回の授業で以下の事柄を講述する予定である。
 1. 倫理（学）的思考もしくは判断の基礎
 - 1-1. 倫理的葛藤と倫理（学）の必要性
 - 1-2. 応用倫理学としての生命倫理：規範倫理学と応用倫理学
 - 1-3. 善さ・正しさとは：規範倫理学の諸理論の概説
 2. 医療倫理と生命倫理学
 - 2-1. 医療の倫理の伝統
 - 2-2. 生命倫理学の誕生
 3. 看護に携わる者の倫理
 - 3-1. 看護職の歴史と位置
 - 3-2. 看護職特有の倫理
- ii. 武田が担当する後半は、医療の場で遭遇する倫理問題について論究する。
 - 1 生命倫理の展開―医療の担い手の職業倫理と患者の権利
 - 2 世界保健憲章や経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約等にみられる「健康権」の概念と全ての人に認められる権利としての「自決権」の尊重
 - 3 アメリカおよびナチス・ドイツにみられた「優生思想」と生命倫理
 - 4 尊厳死と安楽死をめぐる課題
 - 5 ヒトの誕生と生殖医療
 - 6 障害者をめぐる課題
 - 7 日常診療における医療者と患者のコミュニケーション
 - 8 経済発展と生命尊重―事例からみた企業の社会的責任

【評価】

武田：筆記試験（80%）、毎時間のミニレポート（20%）

竹中：試験（80%）、授業への参加（ミニレポートを含む）（20%）

【教科書】

必要に応じ資料プリント配布

【推薦参考図書】

特に教科書や参考書は指定しないが、授業時にできるだけ数多くの文献を紹介する。（竹中）
適宜紹介する。（武田）

【その他】

【概要・目標】

保健医療分野では、対象者から得られる様々な情報を整理・分析することで健康上の問題を把握して、その原因を探り、明らかになった原因を除去する対策を講じて解決を図ることが必要である。本講義では、情報を科学的に整理・分析する上で必要な統計学の知識や技術を習得する。また、各種の保健統計のうち、人口動態統計および疾病統計から得られる指標をもとに、出生や死亡の動向、健康水準の現状などについて解説する。

【授業内容のスケジュール】

(担 当)

- | | |
|-------------------------------------|----|
| 1) 人口静態統計 (国勢調査)、人口動態統計 (その 1 : 出生) | 黒田 |
| 2) 人口動態統計 (その 2 : 死亡) | 黒田 |
| 3) 人口動態統計 (その 3 : 乳児死亡、妊産婦死亡)、生命表 | 黒田 |
| 4) 人口動態統計 (その 4 : 死産、婚姻と離婚)、患者調査 | 黒田 |
| 5) 受療行動調査、国民生活基礎調査 | 黒田 |
| 6) 国民健康・栄養調査 | 黒田 |
| 7) 保健医療の実践と統計学 | 宮井 |
| 8) 母集団と標本 (全数調査と標本調査) | 宮井 |
| 9) データの性質と尺度水準 | 宮井 |
| 10) 記述統計と基本統計量 | 宮井 |
| 11) 母集団の推定 (点推定と区間推定) | 宮井 |
| 12) 仮説検定の手順と結果の解釈 | 宮井 |
| 13) 平均値の差の検定 | 宮井 |
| 14) 割合の差の検定 | 宮井 |
| 15) 相関と回帰 | 宮井 |

【評価】

授業は講義形式を主とするが、コンピュータを使った演習も取り入れる

評価方法は、受講態度(10%)、小テストまたは小レポート(10%)、筆記試験(80%)による

【教科書】

授業時に資料を配付する

【推薦参考図書】

大木秀一 著「基本からわかる看護統計学入門」医師薬出版株式会社 2014

対馬栄輝 著「SPSSで学ぶ医療系データ解析」東京図書 2011

【その他】

(前期) 2 年次・必修

【概要・目標】

地域社会で生活している人々の健康の現状や課題を把握し、それらに影響を及ぼしている社会の諸要因を理解するとともに、疾病を予防し健康を増進する対策を理解することを目標とする。

集団の健康に関連した指標である人口動態統計や人口動態統計などについて学習し、国民の健康の現状と課題を理解する。さらに、健康増進対策（健康日本 21（第 2 次））や感染症対策、結核対策、エイズ対策、がん対策、難病対策、食品保健などについて学習する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 公衆衛生とは
- 2) 健康に関連した指標
- 3) 国民の健康の現状と課題
- 4) 生活習慣病と健康増進対策（健康日本 21（第 2 次））
- 5) 感染症対策
- 6) 予防接種、結核対策、エイズ対策
- 7) がん対策
- 8) 難病対策、食品保健

【評価】

評価方法は、受講態度（10%）、小レポート（10%）、筆記試験（80%）による。

【教科書】

一般財団法人厚生労働統計協会 編「国民衛生の動向」（最新版）

【推薦参考図書】

武田眞太郎、宮下和久 著「公衆衛生学 四訂版」培風館 2010

岸玲子、古野純典、他 編「NEW 予防医学・公衆衛生学 改訂第 3 版」南江堂 2012

医療情報科学研究所 編「公衆衛生がみえる 2016－2017」メディックメディア 2016

【その他】

(後期) 2 年次・必修

【概要・目標】

成人期にある人々の多くは企業等で働いている。この時期の保健活動には労働と職場に密着した活動が重要である。産業保健の分野では、職場における保健活動を進める体制を理解し、事業者や労働者と協力して健康障害への対策を展開できる基礎知識を習得する。さらに、産業保健分野の専門職としての技能を有する衛生管理者として労働者の健康管理に必要な知識や技術を広く習得する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 産業保健総論
- 2) 産業保健組織
- 3) 労働衛生管理業務の概要 (その1、健康管理)
- 4) 労働衛生管理業務の概要 (その2、作業環境管理)
- 5) 労働衛生管理業務の概要 (その3、作業管理)
- 6) 労働法規と労働衛生行政
- 7) 産業保健指導論
- 8) まとめ

【評価】

授業は講義形式を主とするが、発表などの演習も取り入れる。

評価方法は、レポート (20%)、筆記試験 (80%) による。

【教科書】

池田智子編 「産業看護学」講談社 2016

【推薦参考図書】

中央労働災害防止協会 編「衛生管理(上)-第1種用-」中央労働災害防止協会 2015
日本産業衛生学会近畿地方会 編「産業医学実践講座 改訂第2版」南江堂 2006
法研 編「職域における保健と医療実践ハンドブック」法研 2007
中央労働災害防止協会 編「労働衛生のしおり 平成28年度」中央労働災害防止協会2016
河野啓子著 「産業看護学」日本看護協会出版会

【その他】

(前期) 2 年次・必修

【概要・目標】

社会保障には、年金や医療のように社会に生きる者の大半を対象とする制度と、いわゆる「社会的弱者」とされる児童や高齢者等、対象を一定の範囲に絞った制度との 2 種類があります。同じ社会保障の枠内ですが両者の制度を支える原理はまったく異なるといえます。そして後者の制度は、「社会福祉制度」と呼ばれています。

この講義では、社会保障における社会福祉制度を対象として、その理念を考察しつつ、具体的な現状と課題点について検討していきます。最終的には、医療職を目指す者として、現在の社会福祉制度に対しての具体的な批判と、それに対する対策を指摘できる知識の習得をはかることを目的とします。

【授業内容・スケジュール】

- 1) ガイダンスと総論
- 2) 貧困に対する対策
①生活保護法 ②論点と課題
- 3) ～ 4) 高齢者に対する福祉
①高齢者のための福祉法制 ②介護保険法
- 5) 児童・家族福祉
①児童のための福祉法制 ②児童虐待防止法
- 6) 障害者福祉
①障害者のための福祉法制 ②障害者総合支援法 ③障害者差別解消法
- 7) まとめ
(上記内容は講義の進捗状況等により変更する可能性があります。)

【評価】

試験 (80%)、レポート (0%)、小テスト (0%)、発表 (0%)、提出物 (10%)、出席状況 (5%)、参加態度 (5%)、その他 (0%)

【教科書】

久塚純一・山田省三編『社会保障法解体新書〔第4版〕』法律文化社 2015

久塚純一・森田慎二郎・金川めぐみ編『チャレンジ現代社会と福祉』法律文化社 2012

【推薦参考図書】

授業中に適宜指示する。

【その他】

医療職に携わるみなさんにとって、社会福祉は是非学んでおいていただきたい領域です。積極的な姿勢で講義に参加されることを望みます。講義内容でわからないことがあれば、直接またはメールにて連絡してください。

(前期) 2 年次・必修

【概要・目標】

現在、世界に類を見ない速度で少子・高齢化が進んでいる我が国において、社会福祉の重要性は増大している。特に、急増する高齢者の介護の分野においては、その理念や制度のあり方を根本から問い直す、大きな転換期を迎えている。

本講義では、社会福祉を支える制度や理論を学ぶとともに、社会福祉の各分野における先駆的な実践事例を紹介する。

机上の論理にとどまらず、社会福祉活動を行う上で必要な力を身につけることを目標とする。

【授業内容・スケジュール】

1. オリエンテーション
2. 我が国の社会福祉を取り巻く状況
3. パーソンセンタードケア「古い文化」と「新しい文化」
4. 社会福祉の新しい潮流—小規模多機能ケアと共生ケア
5. ボランティアと社会福祉—実践的ボランティア論
6. スウェーデンに学ぶ社会福祉—これからの社会福祉のあり方
7. まとめ—ほんとうの社会福祉とは

【評価】

レポート

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【推薦参考図書】

大熊由紀子 『「寝たきり老人」のいる国いない国』 ぶどう社 1990 年

トム・キットウッド 『認知症のパーソンセンタードケア』 筒井書房 2005 年

【その他】

(後期) 2 年次・必修

【概要・目標】

我が国において、医療の発展などにより高齢者と障害者の数が増え、臓器別医療に偏らない障害医学の視点に立った医療需要が増えています。リハビリテーション（リハ）医学はその障害医学を包括し、患者の「能力」「活動性」を向上し、ひいては生活の質を改善する事を目的とします。実際の看護でもリハの重要度が増えているので、その理解が重要となっています。講義を通じてリハの具体的な手法を学び、看護への応用を理解してもらいます。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 総論（障害学）
- 2) 運動生理学
- 3) 急性期リハビリテーションの意義
- 4) 内部障害（循環・呼吸・腎・免疫）
- 5) 安静臥床の弊害と運動の意義
- 6) 理学療法
- 7) 作業療法
- 8) 言語療法と高次脳機能障害
- 9) 2 次的障害の予防（褥瘡、拘縮、静脈血栓など）
- 10) 嚥下（摂食）、排泄、移動と FIM
- 11) 中枢性疾患（脳血管障害、脳性麻痺）
- 12) 運動器疾患（筋・神経疾患、骨関節疾患）
- 13) 看護とリハビリテーション 1
- 14) 看護とリハビリテーション 2

【評価】

筆記試験

【教科書】

久保俊一、田島文博編集「イラストと写真でわかる実践装具療法-装具の選択と疾患別使用例」
公益社団法人日本リハビリテーション医学会編集「リハビリテーション医学・医療 コアテキスト」医学書院 2018

【推薦参考図書】

上田敏、千野直一、大川嗣雄編「リハビリテーション基礎医学」医学書院 1994

【その他】

【概要・目標】

成人において長期間の治療・管理が必要とされる慢性疾患の基礎的病態について、臓器別に病因、症状、検査、治療、予後の特徴を理解する。また、身体の回復機序や疾病改善のためのライフスタイル修正策を学び、それらを踏まえた生活指導と看護上の問題解決能力を習得する。

【授業内容のスケジュール】

(担当)

(水越、橋爪)

- 1) ～3) 呼吸器疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 呼吸器感染症、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全
- 4) ～9) 循環器疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 心不全、不整脈、虚血性心疾患、弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患、血管疾患、血圧異常
- 10) ～13) 消化器疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸疾患、肝胆膵疾患
- 14) ～15) 代謝性疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症
- 16) ～17) 内分泌疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 視床下部下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
- 18) ～20) 腎疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 腎不全、慢性腎臓病、糸球体腎炎、続発性腎疾患
- 21) ～23) 血液疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患
- 24) ～26) 膠原病・アレルギー
(総論) 症候学、診断学 (各論) 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎/皮膚筋炎、強皮症、血管炎、シェーグレン症候群、薬剤アレルギー、アナフィラキシー、花粉症
- 27) ～28) 感染症
(総論) 症候学、診断学 (各論) 細菌性疾患、真菌性疾患、ウイルス性疾患
- 29) ～30) 神経疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 脱髄性疾患、神経筋接合部疾患、筋疾患、神経系感染症

【評価】

筆記試験 (80%)、授業への参加 (10%)、レポート (10%)

【教科書】

浅野嘉延、吉山直樹 編「看護のための臨床病態学」南山堂

【推薦参考図書】

系統看護学講座「成人看護学」医学書院
新体系看護学全書「疾病の成り立ちと回復の促進」メジカルフレンド社

【その他】

急性期病態学

上 松 右 二 教授
神 人 正 寿 教授*
西 村 好 晴 教授*
原 勲 教授*
山 田 宏 教授*

(通年) 2 年次・必修

【概要・目標】

身体の構造・機能、基礎病態学の知識をもとに、各種急性疾患の病因、症状、診断、治療について看護に必要な知識を学習する。急激に変化する緊急疾患、周手術期の患者の症状を理解し、その治療、看護への知識を習得する。実際の症例提示を通してより効果的に学ぶ（オムニバス方式）。

【授業内容のスケジュール】

- 1) ～ 7) 神経外科：神経診断学，頭部外傷，脳血管障害 I・II，脳腫瘍 I・II，水頭症等
 - 8) ～ 11) 消化器外科：胃癌，消化性潰瘍，大腸癌，イレウス，肝癌，胆石症，膵癌等
 - 12) ～ 14) 麻酔科：麻酔に必要な生理学，麻酔薬と筋弛緩薬，麻酔法等
 - 15) ～ 18) 循環器・呼吸器・乳腺外科：先天性心疾患，弁疾患，不整脈，心臓腫瘍・外傷，
虚血性心疾患，血管疾患，呼吸器疾患，乳腺疾患
 - 19) ～ 22) 皮膚科：皮膚疾患の基礎と代表的疾病（炎症、角化異常、感染、腫瘍等）
 - 23) ～ 26) 整形外科：診断学・治療学総論，脊椎・脊髄疾患，四肢骨折，関節疾患・外傷
 - 27) ～ 30) 泌尿器科：症候と検査，悪性腫瘍，尿路性器感染症と尿路結石症，排尿障害
-

【評価】

筆記試験（90%）、出席状況（10%）

【教科書】

講義プリント

【推薦参考図書】

- 1) 北村聖編：臨床病態学 I 第 2 版 ニューヴェルヒロカワ 2013
 - 2) 馬場元毅：絵でみる脳と神経 第 4 版 医学書院 2018
 - 3) 後藤秀実監修：症状からみた消化器疾患の診断と治療 第 1 版 診断と治療社 2006
 - 4) 太城力良編：「新・麻酔看護マニュアル」メディカ出版 2003
 - 5) 高崎眞弓：「イラスト麻酔科」文光堂 2003
 - 6) 龍野勝彦：「心臓外科エキスパートナーシング」南江堂 2004
 - 7) 小柳仁著「心臓にいい話」新潮新書 2006
 - 8) 正岡昭監修，藤井義敬編：呼吸器外科学 南山堂 2009
 - 9) 坂元吾衛・野口昌邦監修：乳腺疾患の臨床 金原出版 2006
 - 10) 古川福実編著：皮膚科典型アトラス 560 日本医事新報社 2008
 - 11) 石川 治，古川福実，伊藤雅章編著：ナースの実践皮膚科学 中外医学社 2005
 - 12) 久保俊一他編：「図解整形外科」金芳堂 2006
 - 13) 中村利孝，松野丈夫監修：「標準整形外科学第 1 3 版」医学書院 2016
 - 14) 土方浩美編：「整形外科看護アップデート」照林社 2002
 - 15) 栗田孝・八竹直監修，奥山明彦編：TEXT 泌尿器科学 第 3 版 南山堂 2005
 - 16) 西沢理：New 泌尿器科学 第 2 版 南江堂 2007
-

(前期) 2 年次・必修

【概要・目標】

【概要】こころの問題にかかわる様々な知識を学び、そこから精神の「障がい」とは何かを考え、理解し、一人ひとりに応じた援助を行うための知識と態度を養う。

【目的】病院および地域社会における精神保健・看護活動に必要な心構えと知識を修得する。

- 1) 精神の健康および「障がい」とは何かを学ぶ。
 - 2) 精神医療の現状を学ぶ
 - 3) 精神看護に必要な基礎的知識を学ぶ。
 - 4) 精神看護に必要な人権意識および倫理感を培う。
-

【授業内容のスケジュール】

- 第 1 講：精神看護の役割 / 日本の精神医療の現状と課題
- 第 2 講：精神の健康・不健康とは何か
- 第 3 講：危機理論・ストレス理論
- 第 4 講：心のはたらきを考えるための諸理論-①
- 第 5 講：心のはたらきを考えるための諸理論-②
- 第 6 講：家族・集団とこころの健康問題
- 第 7 講：様々な精神症状
- 第 8 講：「精神障害」の診断と分類
- 第 9 講：統合失調症の理解
- 第 10 講：気分[感情]障害の理解
- 第 11 講：神経症性障害・ストレス関連障害・解離性障害の理解
- 第 12 講：パーソナリティ障害・摂食障害の理解
- 第 13 講：薬物依存・アルコール依存の理解
- 第 14 講：精神科薬物療法
- 第 15 講：まとめ
-

【評価】

筆記試験

【教科書】

武井 麻子他「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎 (最新版)

【推薦参考図書】

【その他】

(後期) 2 年次・必修

【概要・目標】

小児の最大の特徴は成長と発達である。小児の特性を考慮し、臓器別に小児に特徴な急性疾患および慢性疾患についての病態と治療について解説する。栄養の基礎となる母乳、人工乳、離乳食の概念や予防接種、小児の事故、虐待など小児に関わる関連領域についてもできる限り言及する。

目的：小児の特性について習熟すること

目標：1. 小児科学および小児保健学の理解

2. 成長・発達の理解

3. 正常と病態の理解

【授業内容のスケジュール】

- 1) 小児の特性、成長、発達
- 2) 感染症 ウイルス性疾患、細菌性疾患
- 3) 小児の栄養 母乳と人工乳、離乳食
- 4) 新生児
- 5) 内分泌
- 6) 代謝
- 7) 血液・悪性腫瘍
- 8) 循環器 先天性心疾患、後天性心疾患
- 9) 腎臓
- 10) 膠原病
- 11) 免疫・アレルギー
- 12) 神経・筋
- 13) 消化器
- 14) 呼吸器
- 15) 精神疾患・心身症・その他

【評価】

試験 (80%)、小テスト (0%)、発表 (0%)、提出物 (レポート等) (10%)、出席状況 (10%)、参加態度 (0%)、その他 (0%)

【教科書】

小児看護学 (I) 小児看護学総論 小児臨床看護総論 (医学書院)

小児看護学 (2) 小児臨床看護各論 (医学書院)

【推薦参考図書】

子育て支援のための小児保健学 (日本小児医事出版社)

ナースとコメディカルのための小児科学 (日本小児医事出版社)

【その他】

発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 (医学書院)

(後期) 2 年次・必修

【概要・目標】

薬物を臨床応用するための基本的な薬理作用の概念が理解できるようになるために、すべての薬物に共通する生体と薬物の相互作用について学ぶ。

【授業内容・スケジュール】

薬理学総論

- 1) 薬とは?、薬品名
- 2) 薬物の作用点、薬物の投与経路
- 3) 薬物の体内動態・薬効に影響を及ぼす因子
- 4) 薬の相互作用・有害作用、医薬品と法令

薬理学各論 (1)

- 5) 抗感染症薬
 - 6) 抗がん薬
 - 7) 免疫治療薬
 - 8) 抗アレルギー薬・抗炎症薬
-

【評価】

筆記試験

【教科書】

吉岡充弘 他：系統看護学講座「薬理学」医学書院

【推薦参考図書】

加藤隆一：「臨床薬物動態学」南江堂
田中千賀子 他：「NEW 薬理学」南江堂
渡邊裕司 監訳：「臨床薬理学」丸善

【その他】

看護方法論Ⅱ（看護過程）

水 田 真由美 教授
坂 本 由希子 准教授
岩 根 直 美 講師
中 島 珠 生 助教
米 島 望 助教
野々口 陽 子 助教

（前期）2年次・必修

【概要・目標】

概要：対象の看護上の問題を査定し、問題を解決していく方法論の一つである看護過程について学ぶ。看護過程の展開に必要な基礎的な理論を学び、そして、さまざまな事例を用いて演習を行い、問題解決への方法と実践力を養う。

- 目標：1) 看護過程の構成要素およびそれぞれの要素についての理解ができる。
2) 看護過程で活用されている理論についての理解ができる。
3) 看護過程の理論を活かして事例を展開することができる。
4) 臨床でよくみられる看護問題を理解し、それらに対する具体的な解決方法を習得する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 看護過程の概要と構成要素
- 2)～5) アセスメント・看護問題の明確化
- 6)～7) 全体像、看護診断
- 8)～9) 看護計画立案
- 10)～11) 実施と評価、看護記録
- 12)～15) 紙上事例の展開
- 16)～30) 看護問題と解決方法
(発熱、便秘・下痢、呼吸困難、褥瘡、嚥下障害等の症状を有する患者の看護、および巻法、吸入、吸引、包帯法等の演習)

【評価】

筆記試験（80%）、授業への参加状況（10%）、提出物（10%）

【教科書】

三上れつ著「実践に役立つ看護過程と看護診断 第2版」ヌーヴェルヒロカワ
高木永子著「看護過程に沿った対症看護 第4版」学研
矢田昭子・秦美恵子編集「基準看護計画 第3版」照林社

【推薦参考図書】

その他 随時紹介する

【その他】

学習サポート

実習室において自己学習と技術指導を受けることができます。（曜日などの詳細は別途）

看護方法論Ⅲ（医療技術）

水 田 真由美 教授
坂 本 由希子 准教授
岩 根 直 美 講師
中 島 珠 生 助教
米 島 望 助教
野々口 陽 子 助教

（後期）2年次・必修

【概要・目標】

医療において患者が安全・安楽に診療を受けられ、最大の治療効果が得られるように、患者を援助するための基礎的知識・技術を学ぶ。また、診療を受ける患者の心理や苦痛を理解し、援助ができる能力を習得する。基礎看護実習室での演習を中心に教授・学習活動を行う。

目標

- 1) 感染予防に必要な知識・技術を学び、実践することができる。
- 2) 診察および検査時の看護の役割を理解し、必要な看護技術を習得する。
- 3) 薬物療法における看護を学び、与薬管理、注射等の技術を習得する。
- 4) 医療を受ける患者および家族の心理や苦痛を理解し、援助できる基本姿勢を身につける。

【授業内容のスケジュール】

- 1) ～ 5) 感染予防に関する技術
- 6) ～ 9) 診察と検査時の看護
- 10) ～ 12) 導尿
- 13) ～ 25) 薬物療法と看護
- 26) ～ 30) 総合学習

【評価】

筆記試験（70%）、技術試験（20%）、提出物（10%）

【教科書】

- 1) 「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」
- 2) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」
※上記1) 2) は1年次に購入したものを使用
- 3) 林 陸郎 編著「看護学生のための臨床検査」第2版 メヂカルフレンド社

【推薦参考図書】

その他、随時紹介する

【その他】

学習サポート

実習室において、自己学習と技術指導を受けることができます。（曜日などの詳細は別途）

性と生殖Ⅰ

山口 雅子 教授
岩橋 尚幸 助教*
吉村 康平 助教*
小林 智子 助教*

(前期) 2 年次・必修

【概要・目標】

「産科婦人科学」の内容のうち母性看護実習や看護師・保健師・助産師に必要な基礎的医学知識に関し、妊娠を扱う「産科」、女性生殖器の疾患を中心に扱う「婦人科」に分けて医学部教員 3 人が講義を行います。看護を行う上で、患者さんが病気のために性機能の一部または全部を失った時に疾患に対するケアのみでは無く、ライフステージに応じた「セクシュアリティ」の支援が必要になるケースがあり、「性と生殖」に関する正しい知識を持つことが看護師・保健師・助産師として求められます。

「性と生殖」に関する正しい知識を持つことは、自らの「セクシュアリティ」を見つめ直す機会に繋がります。また妊娠・出産は「病気では無い」と一般に言われますが、現実には妊娠・出産で時として妊婦さんは命を失う場合もあります。人間の存在の根幹に関わる「性と生殖」について、講義を通して考える機会となれば幸いです。

【授業内容のスケジュール】

<婦人科> (1~8)

- 1) 女性生殖器の解剖、産婦人科診察・検査 (岩橋)
- 2) 女性の性周期とホルモン (岩橋)
- 3) 思春期・更年期 (岩橋)
- 4) 婦人科感染症 (性感染症を含む) (吉村)
- 5) 子宮の疾患、がん検診と HPV ワクチン (吉村)
- 6) 卵巣の疾患、絨毛性疾患 (吉村)
- 7) 婦人科手術と術後管理、化学療法と緩和ケア (吉村)
- 8) 避妊と不妊、人工妊娠中絶と母体保護法 (岩橋)

<産科> (9~14)

- 9) 妊娠の成立 (岩橋)
- 10) 正常妊娠 (岩橋)
- 11) 正常分娩 (小林)
- 12) 異常妊娠 (小林)
- 13) 異常分娩 (小林)
- 14) 産科手術と術後管理 (小林)
- 15) まとめ (山口)

【評価】

筆記試験 (産科 40 点、婦人科 60 点)、授業への参加状況から総合的に評価します。

【教科書】

講義プリント

【推薦参考図書】

「病気がみえる Vol.9 婦人科・乳腺外科」第 3 版 MEDIC MEDIA

「病気がみえる Vol.10 産科」第 3 版 MEDIC MEDIA

健康と看護

井 上 みゆき 教授
藤 本 由美子 特任教授
前 馬 理 恵 教授
藤 森 由 子 講師

(前期) 2 年次・必修

【概要・目標】

(小児看護学)

小児看護を実践するための基礎知識と子どもの成長発達と発達を促進する看護を学修する。

(精神看護学)

精神看護実践のための基礎知識として、人のこころの理解のための諸理論や成長発達、それにまつわるメンタルヘルス問題について学ぶ。

(在宅看護学)

健康障害を持つ地域生活者とその家族を理解し、療養者や家族を支える看護の役割と保健医療福祉の連携について学ぶ。

(老年看護学)

加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を学び、高齢者の健康問題と看護を学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

1) ～8) (小児看護学) 井上

- 1) 小児看護の対象・目的・役割と責務・歴史的変遷と課題
- 2) 子どもの人権：子どもの権利・倫理的配慮・生命倫理
- 3) 子どもを取り巻く環境と対策・小児看護における発達理論
- 4) ～8) 乳児期～学童期・思春期の成長・発達と看護

9) ～15) (精神看護学) 藤森

- 1) 精神看護の目的と役割
- 2) 精神保健医療の歴史と法制度
- 3)～5) 精神看護を理解するために必要な知識
- 6)～7) ライフサイクルと発達課題、起こりやすいメンタルヘルスの問題Ⅰ、Ⅱ

16) ～23) (在宅看護学) 前馬

- ・健康障害を持ち地域で生活する療養者と家族の現状
- ・在宅で療養する人々の生活を支える看護の役割と地域における支援体制や社会資源

24) ～30) (老年看護学) 藤本

- ・心身の加齢変化と健康アセスメント
 - ・高齢者の健康問題と生活を整える看護
-

【評価】

精神・在宅・老年：筆記試験 90%、出席状況 10%で評価する

小児：筆記試験 70%、授業への主体的参加度・事前学習課題 30%

評価責任者：前馬理恵教授

【教科書】

二宮啓子編集：小児看護概論「子どもと家族に寄り添う援助」改訂版第3版 南江堂

二宮啓子編集：小児看護技術「子どもと家族の力を引き出す技」改訂版第3版 南江堂

武井麻子他「系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護①、②」

臺 有桂他編：「地域療養を支えるケア」第6版 メディカ出版

北川公子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院

【推薦参考図書】

随時紹介します。

慢性期看護論Ⅰ

井 上 みゆき 教授
辻 あさみ 教授
藤 森 由 子 講師
山 口 昌 子 講師
上 田 伊津代 助教

(後期) 2 年次・必修

【概要・目標】

それぞれのライフステージにあつて、健康障害が慢性的な経過をたどる人の生活環境や疾患の特性を理解し、家族を含めた治療環境の調整や自己管理へ導く看護について学ぶ。

1. 慢性的に経過する疾患の特性を理解する。
 2. 慢性的に経過する疾患をもちながら生活している療養者や家族の特性を理解する。
 3. 慢性的に経過する疾患をもちながら生活している療養者や家族に対する看護の基本的な知識及びケア技術を学ぶ。
 4. 治療環境の整備及び自己管理への導く看護について学ぶ。
 5. 疾患をもちながらも生活の質の向上を目指す看護について学ぶ。
-

【授業内容のスケジュール】

- | | | |
|-------|--------------------------|---------|
| 1) | 慢性期看護の概論 | (成人：辻) |
| 2)～9) | 慢性期にある成人期の人々の特徴と理解 | (成人：辻) |
| | 慢性期にある成人期の人々への看護援助 | (成人：辻) |
| | 成人期にあるがん患者の看護 | (成人：辻) |
| | 内分泌疾患をもつ人々への看護 | (成人：上田) |
| | 循環器疾患をもつ人々への看護 | (成人：山口) |
| | 腎疾患をもつ人々への看護 | (成人：山口) |
| | 難病・自己免疫疾患をもつ人々への看護 | (成人：山口) |
| 10) | 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 | (小児：井上) |
| 11) | 慢性疾患をもって生きる子どもと家族の支援 | (小児：井上) |
| 12) | 子どもの入院・治療・検査・処置のプレパレーション | (小児：井上) |
| 13) | 精神疾患の回復過程とセルフケア | (精神：藤森) |
| 14) | 看護に必要な精神状態の査定 | (精神：藤森) |
| 15) | 状態像の理解と看護 | (精神：藤森) |
-

【評価】

小児：試験 50%、授業参加状況・事前学習課題 50%

成人：試験 90%、授業参加状況 10%

精神：試験 90%、授業参加状況 10%

評価責任者：辻あさみ教授

【教科書】

大西和子編集：成人看護学「成人看護学概論」 第2版 NOUVELLE HIROKAWA

鈴木志津枝編集：成人看護学「慢性期看護論」 第3版 NOUVELLE HIROKAWA

二宮啓子編集：小児看護概論「子どもと家族に寄り添う援助」改訂版第3版 南江堂

二宮啓子編集：小児看護技術「子どもと家族の力を引き出す技」改訂版第3版 南江堂

武井麻子他「系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護①、②」

【推薦参考図書】

必要であれば講義の中で提示する。

【その他】

急性期看護論Ⅰ

井 上 みゆき 教授
池 田 敬 子 准教授
服 部 園 美 准教授
川 井 美 緒 助教
寒 川 友起子 助教

(後期) 2 年次・必修

【概要・目標】

急性期疾患あるいは慢性疾患の急性増悪や手術などにより、急性経過を経る疾患を有する人に対して緊急時に求められる看護について学び、必要なケア技術を習得する。

1. 急性の健康障害をもつ成人の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、援助方法を学修する。
2. 子どもが急性期疾患に罹患したときに出現する症状に対する看護を学修する。
3. 急性期にある高齢者の病態変化を理解し、それに応じた看護を学修する。

【授業内容のスケジュール】

(担 当)

- | | |
|--------------------------|-----------|
| 1)～2) 急性期の状況にある人の特徴と理解 | 池 田・川井・寒川 |
| (1) クリティカルな状態にある患者の看護 | |
| (2) ストレス・コーピング理論、危機理論と援助 | |
| 3)～9) 急性期の状況にある成人患者の看護援助 | |
| (3) 易感染性状態の患者に対する看護援助 | |
| (4) 虚血性心疾患(心筋梗塞)患者の看護 | |
| (5) 脳血管障害患者の看護 | |
| (6) ICU 入室患者の看護 | |
| (7)～(9) 周術期にある患者の特徴とその看護 | |
| 10) 子どもの心身のアセスメント | 井 上 |
| 11) 急性期の特徴と症状別看護 | |
| 12) 病棟で子どもの安全を守る | |
| 13) 高齢者の急性期の特徴とその看護 | 服 部 |
| 14) 急性期における高齢者のせん妄ケア | |
| 15) 急性期における高齢者のうつ病ケア | |

【評価】

成人看護・高齢者看護：定期試験（90％）、受講態度（10％）をもとに評価する。

場合によってはレポートを学期内に課すこともある。

小児看護：事前学習課題（50％）、講義への自主的参加・試験（50％）をもとに評価する。

【教科書】

二宮啓子編集：小児看護概論「子どもと家族に寄り添う援助」改訂版第3版 南江堂

二宮啓子編集：小児看護技術「子どもと家族の力を引き出す技」改訂版第3版 南江堂

雄西智恵美編；成人看護学「周手術期看護論」第3版ヌーヴェルヒロカワ

池松裕子編；成人看護学「急性期看護論」ヌーヴェルヒロカワ

野崎真奈美；成人看護学「成人看護技術」最新版 南江堂

【推薦参考図書】

奥野茂代、大西和子編：老年看護学第4版 ヌーヴェルヒロカワ

【その他】

リハビリテーション看護論

井 上 みゆき 教授
辻 あ さ み 教授
池 田 敬 子 准教授
服 部 園 美 准教授
藤 森 由 子 講師

(後期) 2 年次・必修

【概要・目標】

身体的・精神的・社会的な側面に健康障害をもつ人々の生活の自立や社会復帰に向けて、人々の生活の質を高めることを目指したリハビリテーション看護について、保健・医療・福祉の総合的見地から学ぶ。個々のライフステージの特性を踏まえ、社会資源を活用し、生活能力を最大限に生かすためのリハビリテーション看護の知識・技術を習得する。

【授業内容のスケジュール】

(担 当)

- | | | |
|---------|---|------|
| 1) | リハビリテーションの意味・歴史・対象 | 服 部 |
| 2)～4) | 成人期にあるリハビリテーションを必要とする人の看護
健康機能障害回復と看護、障害受容と生活の再構築 | 辻・池田 |
| 5)～6) | 障害とは何か、子どものハビリテーション【habilitation】
身体障害児・発達障害児のリハビリテーション看護の実際 | 井上 |
| 7) | リハビリテーション看護の独自性と専門性 | 服部 |
| 8) | アセスメントするための基本的な評価ツール、高齢者の評価ツール | |
| 9) | 急性期・回復期・維持期・終末期リハビリテーションの看護 | |
| 10) | 地域、在宅リハビリテーションの看護の実際 | |
| 11) | 精神科リハビリテーションと看護 | 藤 森 |
| 12)～13) | 精神科リハビリテーションの実際 | |
| 14) | 地域生活を支える看護活動 | |
| 15) | 精神障がいと共に生きる～当事者の語りから～ | |

【評価】

試験 (90%)、授業への参加態度 (10%)

小児看護：事前学習課題・講義への自主的参加 50%・試験 50%

精神：課題 (50%)、授業と演習への参加 (50%)

【教科書】

二宮啓子編集：小児看護概論「子どもと家族に寄り添う援助」改訂版第3版 南江堂

二宮啓子編集：小児看護技術「子どもと家族の力を引き出す技」改訂版第3版 南江堂

武井麻子他「系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護①、②」

【推薦参考図書】

落合英美子監修：「リハビリテーション看護」，メヂカルフレンド社，2015

【その他】

生活の場と看護

岩 村 龍 子 教授
石 井 敦 子 講師
岡 本 光 代 講師

(前期) 2 年次・必修

【概要・目標】

本科目では、人々の生活の場である地域で展開される看護（地域看護）について、特に個人・集団・地域の健康レベルの向上を目指して取り組む公衆衛生看護活動の実績やこれまでの発展経緯から、その基本的な考え方や方法の特徴、および看護職が果たす役割について学ぶ。

- 1) 地域における看護活動の理念や目的を理解する。
- 2) 地域における看護活動の変遷を理解する。
- 3) 地域における看護活動の場と対象の特性、展開方法を理解する。
- 4) 地域において看護職が果たす役割を理解する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) ～ 2) 生活の場である地域で展開する看護とは
- 3) 地域における看護活動の歴史
- 4) ～ 5) ヘルスケアシステムの中で機能する看護
- 6) 地域における人的資源
- 7) 公衆衛生看護の目的、対象
- 8) ～ 10) 公衆衛生看護の展開方法とその特徴
- 11) ～ 12) 地域特性の把握
- 13) ～ 14) 地域保健演習準備
- 15) ～ 22) 保健所・市町村での看護活動の実際（地域保健演習）
- 23) ～ 24) 地域保健演習まとめ
- 25) ～ 26) 学校での看護活動
- 27) 地域における看護職の役割
- 28) ～ 29) 援助事例を素材としたワーク
- 30) まとめ

【評価】

筆記試験（60%）、レポート（30%）、出席状況および授業・演習への参加態度など（10%）により評価する。ただし、筆記試験は 6 割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第 3 版」日本看護協会出版会

【推薦参考図書】

適宜紹介する

【その他】

家族と看護

岩 村 龍 子 教授
前 馬 理 恵 教授
石 井 敦 子 講師
岡 本 光 代 講師
谷 野 多見子 講師
藤 田 美 佳 非常勤講師

(後期) 2 年次・必修

【概要・目標】

家族の形態や機能は社会の影響を受けながら変化していくことを歴史的視座から学ぶ。家族が直面している健康問題に対して、家族が主体的に問題解決できるように家族のセルフケア能力を高めるための家族看護の機能を学ぶ。

- 1) 家族看護とは何かを理解する。
- 2) 家族を理解するための諸理論を学ぶ。
- 3) 家族支援の方法・内容について理解する。

【授業内容のスケジュール】

(担当)

- | | | |
|-----------|---------------------------|----|
| 1) ～ 2) | 家族の概念 家族看護学とは | 前馬 |
| 3) ～ 4) | 家族看護理論 | 前馬 |
| 5) ～ 6) | 家族看護の実践 <要介護高齢者の家族への支援> | 谷野 |
| 7) ～ 8) | 家族支援の方法 <地域における家族への支援> | 岩村 |
| 9) ～ 10) | 家族看護の実践 <成人期の家族への支援> | 岡本 |
| 11) ～ 12) | 家族看護の実践 <乳幼児がいる家族への支援> | 岡本 |
| 13) ～ 14) | 家族看護の実践 <病児がいる家族への支援> | 岡本 |
| 15) ～ 20) | 多様化する家族 | 藤田 |
| 21) ～ 22) | 家族看護の実践 <精神障がい者の家族への支援> | 石井 |
| 23) ～ 24) | 家族看護の実践 <多問題を抱える家族への支援> | 岩村 |
| 25) ～ 26) | 家族看護の実践 <障がい児・者がいる家族への支援> | 前馬 |
| 27) ～ 28) | 家族看護の実践 <難病患者の家族への支援> | 谷野 |
| 29) | 家族看護の実践 <終末期患者の家族への支援> | 谷野 |
| 30) | 家族看護における看護者の役割 | 前馬 |
-

【評価】

筆記試験 (75%)、レポート (15%)、出席状況および授業への参加態度など (10%) により評価する。ただし、筆記試験は 6 割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第 3 版」日本看護協会出版会
宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学各論 1 第 3 版」日本看護協会出版会
臺有桂他編「地域療養を支えるケア第 6 版」メディカ出版

【推薦参考図書】

鈴木和子・渡辺裕子共著「家族看護学・理論と実践」日本看護協会出版会

【その他】

必修科目・3年次

疫学	63
総合病態学	64
終末期医療	65
性と生殖Ⅱ	66
慢性期看護論Ⅱ	67
慢性期看護論Ⅲ	68
急性期看護論Ⅱ	69
急性期看護論Ⅲ	70
終末期看護論	71
公衆衛生看護活動論Ⅰ	72
公衆衛生看護活動論Ⅱ	73
公衆衛生看護方法論Ⅰ	74
公衆衛生看護方法論Ⅱ	75
在宅看護論	76
保健看護管理論（～4年次）	77
保健看護研究Ⅰ	78
保健看護研究Ⅱ（～4年次）	79

疫学

宮 井 信 行 教授

森 岡 郁 晴 教授

(前期) 3 年次・必修

【概要・目標】

健康づくりを中心とした予防活動を行うには、有効性を科学的に評価することが必要である。この講義では、集団の健康状態の現状を科学的に把握する方法である疫学について、疾病頻度の測定、対象集団の選定、疫学研究と倫理、記述疫学や分析疫学などの研究方法に関する理論と手法を修得する。

【授業内容のスケジュール】

(担 当)

1)	疫学総論	宮 井
2)	疾病頻度の測定 (有病率、罹患率、死亡率)	宮 井
3)	記述疫学研究	宮 井
4)	分析疫学研究(1) 生態学的研究・横断研究	宮 井
5)	分析疫学研究(2) コホート研究	宮 井
6)	分析疫学研究(3) 症例対照研究	宮 井
7)	リスクとその比較 (相対危険、寄与危険)	宮 井
8)	介入研究	宮 井
9)	疫学研究とエビデンス	宮 井
10)	疫学的因果関係、信頼性と妥当性	森 岡
11)	誤差・偏りとその制御	森 岡
12)	スクリーニング	森 岡
13)	臨床と疫学	森 岡
14)	疫学と倫理	森 岡
15)	まとめ	森 岡

【評価】

評価方法は、受講態度(10%)、小テスト(10%)、筆記試験(80%)による

評価責任者：宮井教授

【教科書】

(宮井) 授業時に資料を配付する

(森岡) 車谷典男, 松本泉美 編「看護学生のための疫学・保健統計」建帛社 2016

【推薦参考図書】

大木秀一 著「基本からわかる看護疫学入門 第2版」医師薬出版株式会社 2012

木原正博 他訳「疫学－医学的研究と実践のデザイン」2010

田中平三、能勢隆之 編「はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第2版」南江堂 2010

【その他】

総合病態学

上 松 右 二 教授
水 越 正 人 教授
山 上 裕 機 教授*
山 田 宏 教授*
橋 爪 俊 和 非常勤講師

(通年) 3 年次・必修

【概要・目標】

(概要) 急性期病態学・慢性期病態学Ⅰで学んだ知識をもとに臨床実習に入り、急性変化する緊急疾患、慢性期疾患の患者を実際に経験し、その診断と治療の知識を習得し、その疾病の病態を深く理解する。(オムニバス方式)

【授業内容・スケジュール】

- 1) ～ 3) 急性神経疾患Ⅰ・Ⅱ, 神経疾患患者の看護と対応
 - 4) ～ 6) 消化器癌(食道癌, 胃癌, 大腸癌, 肝臓癌)の標準治療
 - 7) ～ 9) 腰部脊柱管狭窄症, 脊椎・脊髄損傷, 四肢骨折・外傷の治療と管理
 - 10) ～ 12) 心不全、不整脈の病態と治療
 - 13) ～ 15) 循環器疾患の病態と治療
 - 16) ～ 18) 糖尿病の管理
 - 19) ～ 20) 呼吸器疾患の病態と治療
-

【評価】

筆記試験／口頭試験(90%)、出席状況(10%)

【教科書】

講義プリント等

[内科学関係]

浅野嘉延、吉山直樹 編「看護のための臨床病態学」南山堂

【推薦参考図書】

[神経外科学関係]

北村聖編：臨床病態学Ⅰ 第2版 ヌーヴェルヒロカワ 2013

馬場元毅：絵でみる脳と神経 医学書院 2018

[消化器外科学関係]

すべて講義担当者が資料を用意する。希望者には資料のCDを配布する。

[整形外科関係]

久保俊一他編：「図解整形外科」 金芳堂 2006

中村利孝、松野丈夫監修：「標準整形外科学第13版」医学書院 2016

土方浩美編：「整形外科看護アップデート」照林社 2002

大谷清、角谷ヨシ子：「脊髄損傷患者のケア ベッドサイドナーシング」医学書院 1991

[内科学関係]

下条文武、斉藤康編：「ダイナミックメディシン3」西村書店 2003

【概要・目標】

終末期の患者とその家族に対するケアの必要性和特殊性を理解する。終末期には救命を目的とした医療ではなく、患者・家族の QOL(Quality of life)の向上をはかる医療を提供するべきである。「緩和ケアとは生命にかかわる疾患に直面している患者と家族の痛みやその他の身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな問題を予防し、評価し治療することで生活の質を改善する」という WHO（世界保健機構）の定義に基づいて緩和ケアを理解する。また終末期に出現する諸症状を理解し、正しい評価を行い、治療の計画・実施を行うための方法論を学ぶ。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 終末期医療／緩和医療の概説および歴史
- 2) 末期患者特にがん患者の持っている Total Pain（全人的苦痛）について
- 3) 終末期患者に出現する症状
- 4) 癌性疼痛、適正な医療用麻薬の使用
- 5) 終末期医療／緩和医療における患者・家族の心理とそれに対する援助
- 6) 終末期における療養場所
- 7) 死別に伴う家族の悲嘆等に対するケア
- 8) 死生学
- 9) 終末期の倫理と医学的決断過程(厚生労働省終末期ガイドラインについて)
- 10) チーム医療の形成と重要性を認識する

【評価】

筆記試験

【教科書】

特にありません

【推薦参考図書】

Kim K. Kuebler, Patricia H. Berry, Debra E. Heidrich 著 鳥羽研二監訳「エンドオブライフ・ケア 終末期の臨床指針」医学書院 2004

世界保健機関編 武田文和訳 「がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケアーがん患者の生命へのよき支援のために」金原出版株式会社 1993

世界保健機関編 武田文和訳 「がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法—第 2 版」金原出版株式会社 1996

柏木哲夫 今中孝信監修 「死をみとる 1 週間」 医学書院 2002

【その他】

性と生殖Ⅱ

(本年度は開講しない)

山 口 雅 子 教授
藤 田 和佳子 講師
竹 内 康 子 助教
森 下 智 美 非常勤講師

(前期) 3 年次・必修

【概要・目標】

性と生殖Ⅰで学んだ知識をもとに、母性看護を実践するために必要な基礎的知識と看護技術を習得する。

1. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児期のアセスメントに必要な知識と看護技術を学ぶ。
2. 母乳育児支援の基本的な知識について理解する。
3. 母性看護過程の特徴について理解し、事例に添って看護過程をする。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 妊娠期の看護
- 2) 分娩期の看護
- 3) 産褥期の看護
- 4) 新生児期の看護
- 5) 帝王切開術（術前・術中・術後）の看護
- 6) 母乳育児支援
- 7) 母性看護学の理論と実践を支える概念
- 8) 母性看護過程事例展開（演習） 必要な情報収集と情報の整理
- 9) 母性看護過程事例展開（演習） アセスメント
- 10) 母性看護過程事例展開（演習） 看護課題の抽出と看護計画の立案
- 11) 母性看護過程事例展開（演習） 実施・評価
- 12～13) 母性看護技術（演習） 妊娠期・分娩期・産褥期・授乳の援助 (全教員)
- 14～15) 母性看護技術（演習） 新生児期・リラクゼーション技術 (全教員)

【評価】

筆記試験（80%）、授業への参加態度と提出物（20%）から総合的に評価する

【教科書】

授業開講までに掲示にて指示する。

【推薦参考図書】

その他、適宜紹介する。

(前期) 3 年次・必修

【概要・目標】

健康障害が慢性的経過をたどる小児と疾患を持つ高齢者の生活環境や疾患の特性を理解し、家族を含めた治療環境の調整や自己管理へ導く看護について学修する。

1. 慢性的に経過する小児と高齢者の疾患の特性を理解する。
2. 慢性的に経過する疾患を持ちながら生活している小児や高齢者とその家族の特性を理解する。
3. 慢性的に経過する疾患を持ちながら生活している小児や高齢者とその家族に対する看護の基本的な知識及びケア技術を学修する。
4. 小児と高齢者の治療環境の整備及び自己管理への導く看護について学修する。
5. 疾患を持ちながらも生活の質の向上を目指す小児と高齢者の看護について学修する。
6. 慢性的な経過をたどる疾患をもつ子どもと高齢者の看護を事例から学修する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 慢性疾患を持つ子どもの看護 (総論)
- 2) 1 型糖尿病・腎疾患・アレルギーの子どもの発達年齢にあったセルフケア能力の育成
- 3) 慢性疾患のある子どもへの患者主体・地域 (園・学校) 連携支援
- 4) 長期入院児の退院支援と在宅看護・外来看護
- 5) 慢性疾患を持つ高齢者の看護 (総論)
- 6) ～10) 慢性疾患を持つ高齢者と家族への看護
- 11) 摂食・嚥下障害を持つ高齢者と家族への看護
- 12) 療養生活への支援 (受療形態、検査、治療)
- 13) ～15) 認知症高齢者および家族への看護

【評価】

試験 (90%)、授業への参加態度 (10%)

【教科書】

奈良間美保他：「系統看護学講座 小児看護学 1. 2」医学書院

【推薦参考図書】

北川公子他：「系統看護学講座 老年看護学」医学書院

【その他】

慢性期看護論Ⅲ

辻 あさみ 教授
山 口 昌 子 講師
池 田 敬 子 准教授
上 田 伊津代 助教
川 井 美 緒 助教
寒 川 友起子 助教
楠 岡 雅 助教

(前期) 3 年次・必修

【概要・目標】

慢性的に経過する健康障害を有し、生涯にわたった生活のコントロールを必要とする成人期の人々をモデルとして、健康障害が生活環境と相互に影響しながら生じることを理解し、その障害のアセスメント方法やセルフマネジメントを推進する看護方法について学習する。また、疾病の認知と受容、ソーシャルサポート、QOL の向上につながる看護援助の方法について学習する。

1. 慢性的な健康障害をもつ人々の機能障害と生活との関連を理解する。
2. 慢性的な健康障害をもつ人々のセルフマネジメント支援に必要な知識・技術を習得する。
3. 慢性的な健康障害をもつ人々や家族の QOL を維持・向上させる看護の知識を習得する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) ～ 9) 慢性的な健康障害をもつ人々への看護 (成人：辻、山口、上田、楠岡)
呼吸器疾患をもつ人々の看護
消化器疾患をもつ人々の看護
血液・造血器疾患をもつ人々の看護
放射線治療を受ける人への看護
がん化学療法を受ける人への看護
- 10) ～ 11) 慢性的な健康障害をもつ人々の看護過程の展開
(成人：辻、山口、池田、上田、川井 寒川、楠岡)
- 13) ～ 15) 慢性的な健康障害をもつ人々の看護技術演習 (1～3)
(成人：辻、山口、池田、上田、川井、寒川、楠岡)

【評価】

筆記試験 80%、演習 15%、授業への取り組み 5%

【教科書】

大西和子編集：成人看護学「成人看護学概論」 第2版 NOUVELLE HIROKAWA
鈴木志津枝編集：成人看護学「慢性期看護論」 第3版 NOUVELLE HIROKAWA

【推薦参考図書】

講義の中で提示する。

【その他】

【概要・目標】

(小児看護)

急性期看護論Ⅰで学んだ症状を緩和する看護を基盤にし、急性疾患・外傷・手術などにより、急性経過をたどる子どもの看護と技術について学修する。

(精神看護)

急性期状態にある精神障害／精神疾患を持つ人々の状態像やセルフケアの特徴とその看護について学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

(担 当)

1)～6) 急性疾患・外傷・手術などにより、急性経過をたどる子どもへの看護技術 井上

- (1) 手術を受ける子どもの看護
- (2) ハイリスク新生児の看護
- (3) 子どもの一次救命処置に関する看護
- (4) 子どもの点滴固定・血液検査処置に関する看護
- (5) 尿検査(採尿バック)・与薬に関する看護
- (6) 骨髄検査・腰椎検査・エピペンに関する看護

7)～15) 精神障害/疾患を持つ患者の看護

藤森

- (7) 統合失調症を持つ人の看護①
- (8) 統合失調症を持つ人の看護②
- (9) 気分障害を持つ人の看護
- (10) 依存症を持つ人の看護
- (11) 神経症圏の疾患を持つ人の看護
- (12) 精神科薬物療法と看護
- (13) 精神看護におけるリスク管理
- (14) 事例演習①
- (15) 事例演習②

【評価】

小児：試験 (小テスト含む) 50% 課題 40% 授業への参加状況 10%

精神：試験 40%、課題 50%、授業への参加状況 10%

【教科書】

奈良間美保編「小児看護学 1、2」 医学書院

出口禎子編「ナースンググラフィカ精神看護学①②」

【推薦参考図書】

中井久夫「看護のための精神医学」第2版 医学書院 2004

武井麻子「精神看護学ノート」第2版 医学書院 2005

【その他】

急性期看護論Ⅲ

池 田 敬 子 准教授
辻 あさみ 教授
山 口 昌 子 講師
川 井 美 緒 助教
寒 川 友起子 助教
上 田 伊津代 助教
楠 岡 雅 助教

(前期) 3 年次・必修

【概要・目標】

成人期の人々の健康に急激な変化が生じる周手術期に焦点を当て、周手術期における身体的、あるいは心理・社会的な状況の特徴を理解し、その状況に応じた援助方法について学修する。特に、各機能障害をもつ手術患者が、麻酔や手術侵襲に対して順調な回復過程を辿るために、どのような術前・術後の看護が必要なのかについて学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

- 1)～ 8)脳神経系に障害をもつ患者の周手術期看護
- 呼吸器系に障害をもつ患者の周手術期看護
- 循環器系に障害をもつ患者の周手術期看護
- 消化器系に障害をもつ患者の周手術期看護
- 運動器系に障害をもつ患者の周手術期看護

池田・川井・寒川

- 9)～11)急激に変化する状況にある患者の看護演習(1)～(3)
- 12)～15)急激に変化する状況にある患者の看護過程の展開(演習)

池田・辻・山口・川井・寒川・上田・楠岡

【評価】

筆記試験(80%)、演習(15%)、授業に取り組む姿勢(5%)

【教科書】

池松裕子編；成人看護学「急性期看護論」ヌーヴェルヒロカワ

雄西智恵美編；成人看護学「周手術期看護論」第3版ヌーヴェルヒロカワ

【推薦参考図書】

山勢博彰編；成人看護学「救急看護論」ヌーヴェルヒロカワ 最新版

その他、講義の中で提示する。

【その他】

終末期看護論

井 上 みゆき 教授
辻 あさみ 教授
服 部 園 美 准教授
藤 森 由 子 講師

(前期) 3 年次・必修

【概要・目標】

終末期にある人々の QOL の維持・改善、倫理的問題など、ライフステージの特徴をとらえながら、家族を含めた終末期看護の知識・技術・態度について学ぶ。

- 1) 終末期看護の概念について理解する。
- 2) 終末期にある小児とその家族に対し、「その子どもらしく生きるため」のケアについて学修する。
- 3) 終末期にある成人期の人とその家族の特徴を理解し、その人らしさを尊重した人生の最期を過ごせるよう支援する看護について学ぶ。
- 4) 人生の最終段階にある高齢者が、その人らしく人生の最後まで尊厳をもって生きることを支えるケアについて学修する。
- 5) 終末期にある精神疾患をもつ人の状態像やセルフケアの特徴とその看護について学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

(担 当)

- | | | |
|--------|--|----|
| 1) | 終末期看護にかかわる概念：終末期とは何か、緩和ケア、意思決定、倫理原則 | 井上 |
| 2～3) | 小児期にある終末期患者の看護 その子どもらしく生きるために | 井上 |
| | 2) 子どもの死の概念の発達と子ども・家族・医療者の協働意思決定 | |
| | 3) 子どもの緩和ケアに関する事例検討 | |
| 4～10) | 終末期にある成人期の人とその家族への看護 | 辻 |
| | 終末期にある成人期の人とその家族の特徴、告知とインフォームドコンセント、意思決定支援、症状マネジメント、緩和ケア、家族への看護とグリーフケア | |
| 11～13) | 高齢期にある終末期患者の身体心理社会的側面の変化 | 服部 |
| | 病院から在宅への移行期におけるケア、高齢者向け施設におけるケア | |
| | 臨死期のケア・エンゼルケア | |
| 14～15) | 精神疾患を持つ人の身体合併症と看護 | 藤森 |
| | 精神疾患を持つ人の終末期における問題と看護 | |

【評価】

試験 90%、授業参加状況 10%

小児：試験 40%、レポート 40%、事例検討での講義内容 20%

評価責任者：辻あさみ教授

【教科書】

小笠原和枝編集：エンドオブライフケア看護学 基礎と実践、ヌーヴェルヒロカワ、2018

【推薦参考図書】

講義の中で適宜紹介する。

公衆衛生看護活動論Ⅰ

岩 村 龍 子 教授
石 井 敦 子 講師
岡 本 光 代 講師

(前期) 3 年次・必修

【概要・目標】

公衆衛生看護活動の対象の特性、ライフステージ別、健康レベル別にどのような公衆衛生看護活動が展開されているかを学ぶ。

- 1) 公衆衛生看護活動における対象の特性を理解する。
- 2) ライフステージ別、健康レベル別の公衆衛生看護活動を理解する。
- 3) 病院・施設における看護と地域における看護の継続、連携のあり方について理解する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 公衆衛生看護活動の基本と対象のとらえ方
- 2) 公衆衛生看護活動の展開方法
- 3) ～ 4) 母子保健活動
- 5) 成人・高齢者保健活動
- 6) 難病保健活動
- 7) ～ 8) 感染症保健活動
- 9) 精神保健福祉活動
- 10) ～ 11) 健康危機管理
- 12) 地域における人的資源
- 13) 公衆衛生看護管理
- 14) 公衆衛生看護活動の現状と課題
- 15) 病院・施設における看護と地域における看護の連携

【評価】

筆記試験 (90%)、出席状況および授業への参加態度など (10%) により評価する。ただし、筆記試験は 6 割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第 2 版」日本看護協会出版会
宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学各論 1 第 2 版」日本看護協会出版会
宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学各論 2 第 3 版」日本看護協会出版会

【推薦参考図書】

適宜紹介する。

【その他】

【概要・目標】

本科目は公衆衛生看護実習Ⅰと連動して展開する。地域住民の健康の向上を目指し、既存資料や実習で収集した地域の健康に関する多角的な情報をもとに地域診断を行うことで健康課題を明らかにし、その健康課題の解決・改善に向けた活動計画を立案する。これらの一連の過程を通して、地域生活集団（コミュニティ）を対象とした地区活動の展開方法を学ぶ。

- 1) 地域の健康課題を抽出するための情報収集の方法を理解する。
- 2) 収集した情報のアセスメント方法について理解する。
- 3) 地区活動の一環として実施する家庭訪問の技術について理解する。
- 4) 地域の健康課題の解決・改善に向けた活動計画・保健計画のあり方、計画の策定方法について理解する。
- 5) 地域生活集団（コミュニティ）の健康課題に対応する地区活動の展開方法を理解する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 地区活動の展開 1（地区活動の目的・方法、基本的な考え方）
- 2) 地区活動の展開 2（地域診断の考え方、方法）
- 3) ～ 5) 地域診断（演習：既存資料からの情報整理、実習での情報収集計画作成）
- 6) ～ 7) 家庭訪問
- 8) ～ 11) 地域診断（演習：実習で収集した情報の整理とアセスメント）
- 12) 地区活動の展開 3（活動計画立案）
- 13) ～ 15) 活動計画立案・発表（健康課題に対応する保健事業・活動の計画作成）

【評価】

筆記試験（60%）、演習内容・記録（30%）、出席状況および参加態度など（10%）により評価する。ただし、筆記試験は 6 割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第 2 版」日本看護協会出版会

【推薦参考図書】

佐伯和子編著 「地域看護アセスメントガイド第 2 版」医歯薬出版株式会社

【その他】

公衆衛生看護方法論Ⅰ

岩 村 龍 子 教授
石 井 敦 子 講師
岡 本 光 代 講師

(前期) 3年次・必修

【概要・目標】

地域で生活する人々の健康課題に即し、個人・集団を対象に展開する公衆衛生看護活動の基盤となる理論・方法を学ぶ。

- 1) 保健指導の目的・方法を理解する。
- 2) 地域における個人・家族および集団への支援の基本を理解する。
- 3) 保健行動の変容について理解する。
- 4) 住民の参加と地区組織活動について理解する。

【授業内容のスケジュール】

(担 当)

- | | | |
|-----------|----------------|----|
| 1) | 公衆衛生看護の支援技術の特性 | 石井 |
| 2) | 保健指導 | 岡本 |
| 3) ~ 4) | 健康相談 | 岡本 |
| 5) ~ 6) | 健康診査 | 岡本 |
| 7) ~ 8) | 健康教育 | 岡本 |
| 9) ~ 10) | 家庭訪問 | 石井 |
| 11) ~ 12) | グループ支援 | 石井 |
| 13) ~ 14) | 地域ケア体制づくり | 石井 |
| 15) | 総括 | 石井 |

【評価】

筆記試験 (60%)、演習内容・記録 (30%)、出席状況および参加態度など (10%) により評価する。ただし、筆記試験は6割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第2版」日本看護協会出版会

【推薦参考図書】

村嶋幸代編集「公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社
木下由美子編著「地域看護学」医歯薬出版

【その他】

【概要・目標】

地域における個別支援からグループ支援への展開、住民が健康課題を認識し主体的に解決に取り組むための支援について学ぶ。また、地域生活集団（コミュニティ）の健康課題に対応する地区活動の展開方法として、住民や関係職種・関係機関との連携・協働による地域ケア体制づくりの活動について学ぶ。

- 1) 地域における個別支援からグループ支援の展開について理解する。
- 2) 地域における集団への健康教育の基本を理解する。
- 3) 地域の健康課題に即した健康教育の計画から実施・評価までの一連の過程を理解する。
- 4) 地域ケア体制づくりにかかわる保健師の役割について理解する。
- 5) 住民や関係職種・関係機関との連携・協働の方法を理解する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 地域における個別支援
- 2) 家族相談支援技術
- 3) ～ 4) 事例演習（家族アセスメント）
- 5) ～ 6) 事例演習（家庭訪問）
- 7) 健康教育
- 8) ～ 12) 事例演習（健康教育）
- 13) 地域診断
- 14) 事業化・施策化
- 15) 総括

【評価】

筆記試験（60%）、演習内容・記録（30%）、出席状況および参加態度など（10%）により評価する。ただし、筆記試験は6割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第2版」日本看護協会出版会

【推薦参考図書】

村嶋幸代編集「公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社
木下由美子編著「地域看護学」医歯薬出版

【その他】

【概要・目標】

在宅療養者と家族を支える在宅看護の方法と実際について学ぶ。さらに、保健医療福祉制度や保健医療福祉機関との連携、および医療機関から在宅への継続看護の意義について学ぶ。

1. 日本における在宅看護の発展過程について理解する。
2. 在宅看護の対象とそのニーズの特徴について理解する。
3. 在宅看護過程の展開と看護サービスの質の管理について理解する。
4. 保健医療福祉機関との連携の意義、保健医療福祉制度について理解する。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 在宅看護の概念、日本における在宅看護の変遷、在宅療養者と家族の特徴
- 2) 地域包括ケアシステムにおける在宅看護
- 3) 病院における地域連携の実際（患者支援センターより）
- 4) 地域療養を支える制度
- 5) 在宅看護過程の展開
- 6) 在宅療養者と家族の捉え方（演習）
- 7) 在宅看護計画（演習）
- 8) 在宅看護における看護サービスの質の管理、在宅看護の課題と展望

【評価】

筆記試験（90%）、出席状況および授業への参加態度など（10%）により評価する。ただし、筆記試験は6割以上の得点を必要とする。

【教科書】

臺有桂他編「地域療養を支えるケア第5版」メディカ出版

【推薦参考図書】

木下由美子編著「在宅看護論」医歯薬出版株式会社
阿曾洋子編「在宅ケアの援助技術第3版」ヌーヴェルヒロカワ
系統看護学講座 統合分野「在宅看護論」医学書院

【その他】

【概要・目標】

看護管理（マネジメント）の基本的概念を理解し、安全で質の高い看護サービスが提供するために必要な知識を多角的に学習する。

1. 看護管理（マネジメント）、看護サービス管理に関する基礎的概念と看護管理過程について学ぶ。
2. 看護管理（マネジメント）に必要な知識と技術について学ぶ。
3. 看護における人的資源活用論について学ぶ。
4. 現代の健康観連産業において看護職が果たす役割とそれを効率的・効果的に実現するための看護管理の在り方について考える。

＊臨地実習を通して、学習を深める。

【授業内容・スケジュール】

- 1) A. 看護管理（マネジメント）の概要
(1) 看護管理の基本概念 (2) 看護管理過程
- 2) ～4) B. マネジメントに必要な知識と技術
(1) リーダーシップとフォロワーシップ (2) モティベーション
(3) 組織のしくみとマネジメント (4) 組織の調整・変革
- 5) ～6) C. 保健看護サービスを取り巻く保健医療福祉制度と政策
(1) 医療制度の現状と看護行政、看護政策 (2) 介護保健制度と看護サービス
- 7) ～8) D. 医療安全と情報管理
(1) リスク・マネジメントとセーフティマネジメント (2) 情報管理
- 9) ～10) E. 人的資源活用
(1) 現任教育とキャリア開発 (2) 人材マネジメント
- 11) ～14) F. 看護管理過程の実際
(1) 組織のアセスメント (2) 組織の目標と計画化
(3) 看護提供体制の組織化 (4) 行動化（指揮） (5) 統制（サービスの評価）
- 15) G. これからの保健看護管理の課題

【評価】

レポート

【教科書】

系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理, 医学書院, 2018

【推薦参考図書】

井部俊子監修：ナースのための管理指標 MaIN, 医学書院, 2010
ステファン・P・ロビンス：組織行動のマネジメント, ダイヤモンド社, 2009
上泉和子：看護ユニットマネジメント, 医学書院, 2006
角田由佳：看護師の働き方を経済学から読み解く, 医学書院, 2007
松村啓史：ナイチンゲールに学ぶときめきの経営学, メディカ出版, 2007

【その他】

【概要・目標】

保健看護学を学んだ者として自己教育能力や探究精神を高めていけるように自ら動機づけをし、明らかになっていない現象に対して科学的に分析できるようになることが大切である。この講義では、保健看護研究を实践する上で必要となる量的・質的研究の方法、文献の活用、計画書の作成、データ収集と統計処理、論文の作成、倫理規範などに関する知識を深めるとともに、研究の各段階の具体的な進め方の実際について修得できるようにする。

【授業内容のスケジュール】

1) 保健看護研究総論	宮井
2) 研究テーマと仮説の設定	宮井
3) 研究計画の立案、計画書作成	宮井
4) 量的研究の方法(1): 研究方法とデザイン	宮井
5) 量的研究の方法(2): 対象集団の選定	宮井
6) 量的研究の方法(3): データの収集方法(実験研究・準実験的研究・調査研究)	宮井
7) 量的研究の方法(4): データの統計処理と図表の作成	宮井
8) 質的研究の方法(1): 看護における質的研究の必要性・意義	岩村
9) 質的研究の方法(2): 質的研究の種類と特徴	岩村
10) 質的研究の方法(3): データの収集方法	岩村
11) 質的研究の方法(4): データの分析方法	岩村
12) 研究成果のまとめと論文作成	宮井
13) 文献の活用と方法	宮井
14) 文献検索の演習(医学中央雑誌などを用いて)	宮井
15) 研究の倫理規範	宮井

【評価】

受講態度(10%)、小テスト(10%)、レポート(10%)、筆記試験(70%)で総合的に判断する
※評価責任者 宮井教授

【教科書】

授業時に資料を配付する

【推薦参考図書】

坂下玲子 著「系統看護学講座 別巻 看護研究」医学書院 2016

大木秀一 著「基礎からわかる看護疫学入門―第2版」医師薬出版株式会社 2012

グレッグ美鈴 他編著「よくわかる質的研究の進め方・まとめ方―第2版」医歯薬出版株式会社 2016

【その他】

3 年次（後期）～4 年次（通年）・必修

【概要・目標】

この科目は「保健看護研究Ⅰ」で学んだ基礎的な知識や研究手法を生かして、自らの疑問や関心を解決する方法を取得するものである。研究は知識や結果だけでなく、研究過程そのものが重要である。種々の日常場面での素朴な疑問や関心を研究課題に高める観察力と着想、その課題に最もふさわしい研究手法の選択、研究計画書の作成、計画的な実施、などの過程を学ぶ。さらに、研究結果に考察を加え、学内やあるいは学外での発表、さらにそれをふまえた報告書や論文の作成ができ、ひいてはそれが将来の職場や社会で活かせるようになることを目的としている。

【授業内容のスケジュール】

授業はゼミナール形式で行う。

1. 研究課題の決定
2. 研究計画書の作成
3. 研究の実施
4. 研究のまとめ
5. 報告書や論文の作成

【評価】

出席状況、研究態度、報告書により総合的に判断する。

【教科書】

特になし

【推薦参考図書】

必要があれば適宜紹介する。

【その他】

必修科目・4年次

医療コミュニケーション	81
保健行政論	82
保健看護管理論（～4年次）	77
保健看護管理演習	83
保健看護研究Ⅱ	79

※ 保健看護管理論及び保健看護研究Ⅱは3年次必修科目に掲載

【概要・目標】

患者が医療に求めているのは納得である。単なる治療では医学的情報と技術を与えることはできても納得は与えられない。納得を与えるのは看護である。正しい看護によって医療コミュニケーションが成立することができる。本講義では、医療の中での看護の意味を考える。

また、医療従事者と患者との関係、医療スタッフ同士の対人関係、そして患者と家族・友人との関係を構築するのに必要なコミュニケーションの理論、すなわち、言語による説明と理解のメカニズム、コミュニケーションの動機、コミュニケーションとアイデンティティについて理解を深め、実践に生かせるようにする。

【授業内容・スケジュール】

担当者

1) 2) 医療と人間	有田
3) 4) 循環器病の変貌から未来を見据えて	有田
5) 6) 臨床の視点－医療人と患者（家族）のふれあい	有田
7) 8) インフォームド・コンセント：臨床の現場から	有田
9) 10) 比喩(メタファーとメトニミー)による未知・既知の事象の理解	増田
11) レトリックによる説得的コミュニケーション	増田
12) ナラティブの心理学：なぜ語るのか	増田
13) 14) 会話分析とエスノメソドロジー、自己とフェイス	増田
15) 流言とリスク・コミュニケーション	増田

【評価】

2名の担当者が50点満点で個別に評価したものの合算が最終成績として報告される。

【有田担当分】筆記試験（70%）、授業への参加態度（10%）、提出物（20%）

【増田担当分】ショートペーパー課題（7回出題中3回提出）もしくは、期末試験の選択制を原則とするが、それぞれの50%の合算という第3の選択肢もある。詳細は、増田担当初回の第9講で配布される授業運営用シラバスを参照のこと。

評価責任者：増田匡裕教授

【教科書】

特になし

【推薦参考図書】

【有田担当分】中村雄二郎「臨床の知とは何か」岩波新書

【増田担当分】2年次配当「人間関係論」を参照。また、授業運営用シラバスを参照のこと。

【その他】

【有田担当分】座学の講義形式でなく、課題を与えて自ら考える講義形態で行う。

【増田担当分】ショートペーパー課題は「まとめ」ではなく「理論を用いて現実の事例を分析する応用課題」であることに留意すること。尚、2021年度はショートペーパー課題を主とするが、2020年度は、2019年度「人間関係論」のように学生が講義・試験を実施する形態に変更する予定である。

保健行政論

松 本 政 信 非常勤講師
池 田 和 功 非常勤講師
小 野 美 樹 非常勤講師
雑 賀 博 子 非常勤講師
土生川 洋 非常勤講師
和 田 安 彦 非常勤講師

(前期) 4 年次・必修

【概要・目標】

地域保健法において位置づけられた保健所の役割について理解するとともに、地域における関係機関の役割についても理解を深める。

また、地域の衛生行政に関する法規についても学び、将来の地域保健の担い手として実践するための基礎知識を習得する。

【授業内容・スケジュール】

- | | |
|----------------|---------------------------------|
| 1 地域保健法の概要 | く 松本 政信 (和歌山県湯浅保健所長) > |
| 2 結核対策 | く 雑賀 博子 (和歌山県岩出保健所長) > |
| 3 精神保健福祉行政 | く 小野 美樹 (和歌山県福祉保健部健康局医務課課長補佐) > |
| 4 たばこ対策と公衆衛生行政 | く 池田 和功 (和歌山県新宮保健所長) > |
| 5 食品保健 | く 和田 安彦 (和歌山県田辺保健所長) > |
| 6 感染症対策 | く 土生川 洋 (和歌山県御坊保健所長) > |
| 7 これからの保健所像 | く 松本 政信 (和歌山県湯浅保健所長) > |
-

【評価】

筆記試験

【教科書】

一般財団法人厚生労働統計協会編「国民衛生の動向」(最新版)

【推薦参考図書】

- 吉田修(監修)禁煙科学 文光堂 2007
 - 結核予防会「医師・看護職のための結核病学シリーズ」第1巻、第2巻、第3巻①、第4巻②、第5巻
 - 重松逸造「日本の疫学 第1版」医療科学社 2006
 - 融道男・中根允文・小見山実監訳「ICD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン」医学書院 最新版
 - 柳川洋・児玉 和紀(監訳)「疫学公衆衛生研究の潮流」一般財団法人日本公衆衛生協会 2004
 - 「DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引き」医学書院
 - 岸玲子監修、NEW 予防医学・公衆衛生学 改訂第4版、南江堂
 - 津田敏秀著、市民のための疫学入門、緑風出版
-

【その他】

(通年) 4 年次・必修

【概要・目標】

概要：統合実習Ⅱにあたって、学生は主体的に選択した実習分野の活動を目標化し、活動後の評価・考察を通して管理的な視点が成長するように学ぶ。

目標：1) 選択した分野の実習活動のレディネスを学生自ら設定する（事前）。

2) 実習後、学生は、評価・考察を通して学び得た保健看護管理の問題意識を概念化する。

3) 概念化した学習成果をプレゼンテーションし、共有する。

4) 保健看護管理における看護職者の責務・権限・自律性を理解する。

【授業内容のスケジュール】

1) 事前ガイダンス

- ・実習方法の概要および関連する実習施設や受け入れ状況について説明を受ける。

2) 主体的学習活動の計画立案について

- ・保健看護管理に関する問題意識を明確にする。
- ・学習活動を具体的に目標化し、実習施設を選択する。
- ・実習計画を立案し、実習施設との交渉及び調整を図る。

3) 事後について

- ・目標化した学習活動の結果について評価・考察する。
- ・学生主権による学習成果発表の場を企画し、ディスカッションを通して管理的視野を広げる。
- ・個々にレポートを作成する。

4) 演習の時期・時間は、別途通知する。

【評価】

演習目標に沿って、レポートおよびワークショップ等の参加状況を総合して評価する。
(個人のレポートには、演習自己評価表を添付して提出すること)

【教科書】

特に設定していないが授業資料および参考文献を活用すること

【推薦参考図書】

随時紹介する

【その他】

学習サポート：統合実習Ⅱ、事前事後の学習活動については、担当教員との報告・連絡・相談等でレディネスを高めるようにする。

選択科目

《1～4年次》	
こころの科学	85
人と倫理	86
文学	87
人間と文化	88
現代の家族問題	89
生活の科学と健康	90
経済学	91
国家・社会と法	92
保健看護の物理学	93
保健看護の生物学	94
生命と遺伝	95
食の科学	96
食の科学演習	97
保健・スポーツ	98
英会話	99
英書講読	100
中国語	101
情報科学	102
感性と芸術	103
医療入門：ケア・マインド教育	104
国際交流活動	105
地域交流活動	106
《1年次》	
発達心理学	107
《2年次》	
環境保健論	108
病態栄養学	109
救急医療（災害医療含む）	110
運動健康学	111
女性と健康	112
《3年次》	
健康教育論	113
臨床薬理学	114
看護方法論Ⅳ（癒しと看護）	115
女性と健康	116
学齢期の保健	117
高齢者の健康	118
リエゾン精神看護学Ⅰ	119
《4年次》	
医療哲学	120
精神療法（心理療法）	121
リエゾン精神看護学Ⅱ	122
保健医療経済論	123
国際保健論	124
保健看護英語	125
看護教育論	126

(後期) 1～4 年次・選択

【概要・目標】

心理学は教育・医療・福祉の対人援助職に必須であり、例えば社会福祉士は「心理学理論と心理的支援」という科目を必ず受講している。本学医学部でも「心理学」は必修である。従って、他職種連携を目指すためには必要な素養である。昨年度はいくつかの分野を重点的に紹介したが、今年度はオーソドックスな概論の講義を行う。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 心の生物学的基盤(第 2 章)
- 2) 意識と二重路線の心(第 3 章)
- 3) 生得要因、獲得要因、人間の多様性(第 4 章)
- 4) 生涯を通じての発達(第 5 章)
- 5) 感覚・知覚(第 6 章)
- 6) 学習(第 7 章)
- 7) 記憶(第 8 章)
- 8) 中間試験：テキストのみ持ち込み可。追試なし。書面で事由を説明可能な欠席(事前・事後報告)、及び第 7 回開始時点での事前申告による受験回避の場合は、期末試験の点数で代用。
- 9) 中間試験講評：書面で事由を説明できない欠席者の今後の受験は認められず、不合格。
- 10) 思考と言語(第 9 章) ※1 月 20 日以降、3 週連続で月・金 5 時限目開講予定。
- 11) 知能(第 10 章)
- 12) 動機づけと仕事(第 11 章)
- 13) 情動とストレスと健康(第 12 章)
- 14) パーソナリティ(第 13 章)
- 15) 心理学の生い立ち、クリティカル・シンキング、科学的心理学(序章及び第 1 章)

【評価】

中間試験(第 8 回:12 月 13 日 5 時限目施工予定)48 点満点、期末試験(定期試験スケジュール)48 点満点。試験形式は、両方とも、問題選択式記号選択式試験(24 点満点)と問題選択式論述式試験(24 点満点)の 2 部構成である。これに加えて、授業初めに予習小テストを抜き打ちで 2 度実施する(各 6 点満点)。第 1 回の授業で実施される可能性もあるので、毎回予習すること。追試はなく、書面で説明可能な欠席は 3 点扱いとする。合計 108 点満点を絶対評価して成績報告とするが、100 点を超過した点数は切り捨てとする。

※今年度は再試験(48 点)を実施する。中間・期末のいずれか低い方との入れ替えである。但し、中間試験を受験しなかった場合(書面で事由を説明できる場合を除く)は 0 点とする。

【教科書】

マイヤーズ(著)村上郁也(訳)「マイヤーズ心理学 カラー版」西村書店 2015

※必携である。本体 9,500 円と高価であるが、コピーの持ち込みは認められない(持ち込み 2 回まで許可。以降は欠席扱い。試験への持ち込みは本体に限る)。2020 年度の本科目はこれより安価で軽量のテキストが採用される予定である。尚、第 14 章は「人間関係論」の石井先生担当分の予習に使える。

【推薦参考図書】

第 1 回配布予定の授業進行用シラバスを参照のこと。

【その他】

授業に関する質問などは、「オフィスアワー」時間帯(研究室のドアに掲示)でしか対応できない。

(前期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

この講義では、哲学のうちで「倫理」と呼ばれる分野を扱います。わたしたちはふつう、よく生きたいと望んでいます。しかし、「よく生きる」とは、そもそもどういうことなのでしょう。「幸福」であることでしょうか？では、「幸福」とはどのようなことなのでしょう？また、自分の「幸福」と社会全体の正義との関係は？以上のような問題を考えるために、授業では、様々な倫理的な思考法、学説を紹介するとともに、具体的な状況を設定するので、その場合に実際にどのように考え行動するかを自分なりに考えてもらいたいと思います。

【授業内容・スケジュール】

1. イントロダクション
2. 倫理と文化相対主義（善悪は文化によって異なるか）
3. 倫理と文化相対主義（文化による葬儀の形式や生命観の相違）
4. 倫理と文化相対主義（文化横断的な価値観の可能性）
5. 功利主義の考え方（善とは「最大多数の最大幸福」を目指すこと）
6. 功利主義の考え方（安楽死について）
7. 功利主義の考え方（動物の権利について）
8. カントの義務の倫理（善とは幸福を目指すことではなく義務を果たすこと）
9. カントの義務の倫理（自殺はどうして道徳的に誤りか）
10. 社会契約の理論（社会の成立は人々の契約による：古典的社会契約の理論）
11. 社会契約の理論（ロールズの「無知のヴェール」と「正義」：現代の社会契約の理論）
12. 徳の倫理（倫理的であるとはある種の性格（＝徳）をもっていること）
13. ケアの倫理（善とはケアしケアされる関係にあること）
14. 徳の倫理・ケアの倫理の特徴（行為か性格か・自律か依存か）
15. まとめ

【評価】

試験（80%）、授業への参加（ミニレポートを含む）（20%）

【教科書】

プリントを配布します。

【推薦参考図書】

ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』、古牧・次田訳、晃洋書房、2003年
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』、鬼澤忍訳、早川書房、2010年

【その他】

(前期) 1～4 年次・選択

【概要・目標】

この授業の目的は、アメリカの小説家・劇作家である William Saroyan (1908-81) の代表作 *The Human Comedy* を精読し、英文読解力を養成し知の構築を目指すことである。この作品はこれまで 2 度映画化されているが、2015 年に公開されたバージョンはメグ・ライアンが監督・出演し、トム・ハンクスやサム・シェパードをはじめとする、ハリウッドの豪華俳優陣が共演したことでも有名である。

近年大学の教育現場で文学作品が使用される機会は少なくなっているが、本作は短篇で構成され比較的平易な英語で書かれているためそれほど難解ではない。時代背景だけでなく文化との関わりも考察しながらアメリカ文学の魅力に迫る。

【授業内容・スケジュール】

- 1) オリエンテーション (授業の概要、受講上の注意点など)
- 2) Unit 1 Ulysses
- 3) Unit 2 Homer
- 4) Unit 3 The Telegraph Office (I)
- 5) Unit 4 The Telegraph Office (II)
- 6) Unit 5 The Telegraph Office (III)
- 7) Unit 6 All the World Will Be Jealous of Me (I)
- 8) Unit 7 All the World Will Be Jealous of Me (II)
- 9) Unit 8 You Go Your Way, I'll Go Mine (I)
- 10) Unit 9 You Go Your Way, I'll Go Mine (II)
- 11) Unit 10 You Go Your Way, I'll Go Mine (III)
- 12) Unit 11 A Song for Mr. Grogan
- 13) Unit 12 If a Message Comes (I)
- 14) 総まとめ
- 15) 目標到達度確認

【評価】

試験 (60%)、レポート (20%)、授業参加・貢献度 (20%) で総合評価する。

【教科書】

森永弘司編著『William Saroyan's Best Stories: From *The Human Comedy*』松柏社, 2018.

【推薦参考図書】

適宜紹介する

【その他】

全授業回数の 3 分の 1 以上の欠席は失格、遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回分とカウントする。毎回必ず辞書 (電子辞書可) を持参すること。なおスマートフォンや携帯電話の使用は認めず、辞書なしの受講は欠席とみなすので注意すること。

(前期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

わたしたちは日常的に、あまり意識することなく、様々な物事を比較・分類し、線引きを行うことで秩序を構築しながら暮らしている。本講義では、我々を含め、世界の様々な地域で暮らす人々が、分類や線引きを行うことで「文化」を作り出していること、またその分類や線引きが、時代とともに不明瞭になったり、変化したりしうることを明らかにする。具体的には、ジェンダー、人間の生死やライフサイクル、人格の問題を取り上げる。それを通じて様々な線引きのあり方を知り、身近な出来事をより抽象的なレベルで考える訓練を行う。また、受講者には講義で扱ったテーマに関連し具体的な事例について調べ、発表を行ってもらおう予定である。

【授業内容・スケジュール】

- 1) イントロダクション：文化・分類・境界
- 2) きたなさの正体 (1) 分類と秩序
- 3) きたなさの正体 (2) 分類と境界
- 4) 人間の生 (1) 妊娠という経験
- 5) 人間の生 (2) 出産という経験
- 6) 人間の死 (1) 伝統的な生と死
- 7) 人間の死 (2) 現代における生と死
- 8) 小括：社会への埋め込み／脱埋め込み
- 9) 身体は誰のものか (1) 人格のありか
- 10) 身体は誰のものか (2) 臓器移植から考える
- 11) 男と女 (1) セックスとジェンダー
- 12) 男と女 (2) 境界に生きる人々
- 13) 聞き取り調査：その手法と目的
- 14) 学生による発表
- 15) まとめ

【評価】

平常点 (50 点)、発表 (50 点) で総合的に評価する。平常点は授業への参加態度、授業毎に提出する小レポートにより評価する。また、発表 (50 点) については、講義で扱ったテーマ関連して具体的な事柄について調べて発表してもらうので、その内容によって評価する。

【教科書】

授業ごとにプリント・資料などを配布する

【推薦参考図書】

波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版』第3版、医学書院、2011年。
浮ヶ谷幸代著『身体と境界の人類学』春風社、2010年。

【その他】

オフィスアワーはもうけないが、質問などは各授業後に随時受けつける。

(前期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

社会的に問題となっている、いじめ・不登校・非行・キレる子・障害児などの子どもの問題、児童虐待・DV・離婚などの家族内の問題及び中高年のうつ・自殺の問題を通して、現代社会における家族問題を探る。このような問題に対して関係機関や地域との連携の中で实际的な支援のあり方を学ぶことにより、問題や課題を抱えた家族への医療人としての臨床的な対応の仕方を身につけることを目標とする。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 家族とは何か(家族の定義、家族の意味)
 - 2) 家族の変遷
 - 3) 発達課題から見た家族の役割
 - 4) いじめと家族問題
 - 5) 不登校と家族問題
 - 6) 情動的問題を抱える児童と家族問題
 - 7) 児童虐待と家族問題(理論編)
 - 8) 児童虐待と家族問題(事例編)
 - 9) 障害児と家族問題
 - 10) 離婚と家族問題
 - 11) 中高年のうつ・自殺と家族問題
 - 12) 家族問題を支える制度や関係機関
 - 13) 家族問題を支援する連携のあり方
 - 14) グループワーク
 - 15) まとめと振り返り
-

【評価】

試験(70%)、レポート(20%)、小テスト(0%)、発表(0%)、提出物(0%)、出席状況(10%)、参加態度(10%)、その他(0%)

【教科書】

教科書の代わりに詳しいレジュメを配ります。

【推薦参考図書】

家族援助論 柏女霊峰+山縣文治編 ミネルヴァ書房

【その他】

【概要・目標】

衣・食・住、空気や水、騒音などの物理的環境、廃棄物などの身近な生活環境と、個人や集団の健康との関わりを概説する。また、生化学的な側面から外部環境が変化した際のヒトの適応を概説する。また、健康で豊かな生活を確保するために衣・食・住などの問題について、自然科学的視点のみならず、社会経済的視点も含めて指摘し、さらには、健康障害を予防する対策を家族・患者などに指導できる能力を養う。

【授業内容のスケジュール】

(担 当)

1) 生活環境と生体	森 岡
2) 生活環境の分類	森 岡
3) 人体の組成と栄養素	太 田
4) 酵素の構造と機能	太 田
5) 代謝経路とその調節 (その1)	太 田
6) 代謝経路とその調節 (その2)	太 田
7) 遺伝子の構造と機能	太 田
8) 生活環境と健康 (その1: 大気)	森 岡
9) 生活環境と健康 (その2: 水)	森 岡
10) 生活環境と健康 (その3: 騒音・振動)	森 岡
11) 生活環境と健康 (その4: 放射線)	森 岡
12) 生活環境と健康 (その5: 住居)	森 岡
13) 生活環境と健康 (その6: 廃棄物)	森 岡
14) 環境衛生検査、生体情報の観察などの実習 (その1)	森 岡
15) 環境衛生検査、生体情報の観察などの実習 (その2)	森 岡

【評価】

講義を学生との対話形式で進めていくので、受講者は主体的に課題に取り組むように期待する。評価方法は、受講態度 (10%)、レポート (10%)、筆記試験 (80%) による。

【教科書】

特になし

【推薦参考図書】

岸玲子、古野純典、他 編「NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第3版」南江堂 2012
武田眞太郎、宮下和久 著「公衆衛生学 四訂版」培風館 2015
石黒伊三雄 監修「わかりやすい生化学 第5版 疾病と代謝・栄養の理解のために」
ヌーヴェルヒロカワ 2016

(後期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

グローバル化の進展のなか、世界の経済は大きな転換期を迎えています。そのため医療関係の仕事に就く若者も、生活や人生の安定のために、経済の基礎を学んでおくことは大切です。

この講義では、「アベノミクス」・「お金」・「豊かさ」・「地方活性化」・「グローバル化」などをテーマに、みなさんの将来を豊かなものにするための経済の基礎を学びたいと思います。

また、この講義では写真や動画などビジュアル資料もたくさん使い、楽しくわかりやすくなるような工夫もしたいと思います。積極的な受講をお待ちしています。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 和歌山県を元気にする経済学
- 2) 「経済成長」と「個人の成長」の関係
- 3) なぜ日本が途上国や危機国を助けるのか
- 4) 「医療」と「お金」の関係：より良い医療制度・より良いQOL
- 5) 経済が発展するための条件
- 6) 好ましい「グローバル化」について考える
- 7) 東京都などの大都市と、和歌山県などの地方都市：地方都市は幸せだ
- 8) 価格が変化するメカニズム：Amazonや楽天ショッピングなどの分析
- 9) 自由で公正な競争により経済は発展する：政府と企業の力学
- 10) 医療保険システムの国際比較：やっぱり日本は恵まれている
- 11) DVD観賞
- 12) 経済成長の光と影：豊かになる者、貧しくなる者
- 13) 日本のエネルギー政策：なぜ原子力発電所が必要だったのか
- 14) 「リーマン・ショック」から復活したアメリカ・日本
- 15) まとめ

※状況に応じて、新たなトピックスをくわえるなど、一部変更することもあります

【評価】

授業への参加態度(50%)、試験(50%)で評価します。

【教科書】

指定しません。毎回資料を配布する予定です。

【推薦参考図書】

講義のなかで随時紹介します。

【その他】

質問・相談は、授業後でもメールでも構いません。

(後期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

生活の中で普通に生じうる法律問題を取りあげて法律を身近に考え、日本国憲法を中心に法の理解とそのために必要な基本的事項の習得を目標とする。

憲法をはじめとする法を、社会統制のひとつとして生きた社会の関連の中でとらえる。そのために、法を抽象的にではなく、具体的な問題に則して重点的に把握し、法学を孤立した体系ではなく、他の社会科学と関連させて理解する。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 法を学ぶ意義
 - 2) 日本国憲法の基本原理、基本的人権総論、統治機構総論
 - 3) 個人の尊厳、幸福追求権
自己決定権とインフォームド・コンセント、ノーマライゼーション、個人情報の保護
 - 4) 法の下での平等
 - 5) 婚姻制度と憲法、相続制度と憲法
 - 6) 思想・良心の自由、学問の自由、信教の自由、政教分離
 - 7) 表現の自由、表現の自由の制限
 - 8) 経済的自由
 - 9) 人身の自由
罪刑法定主義、犯罪と法、医師・看護師の守秘義務
 - 10) 社会権
生存権、教育を受ける権利、労働基本権
 - 11) 国会
 - 12) 内閣
 - 13) 裁判所
 - 14) 地方自治
 - 15) 授業のまとめ
-

【評価】

期末試験(筆答)100%により評価する。授業時間数の3分の2以上出席した者でなければ試験を受けることができない。

【教科書】

『いちばんやさしい憲法[第5版]』、初宿正典ほか、有斐閣
『改訂版 法学への招待状 毎日の生活における法律の役割』、内海朋子、駿河台出版社
『法学六法 '20』、編集代表池田真朗ほか、信山社

【推薦参考図書】

講義の中で紹介します。

【その他】

教科書、六法は必ず持参すること。

(前期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

身体ケアの場面や検査・治療・処置の場面では、物理の原理を用いる事例が多くある。このような物理現象の背景にある基礎的な理論や考え方を身につけて理解すると、看護におけるさまざまな疑問の解決や、今後の改善・改良につなげることができる。本講義では、看護を物理的な視点で捉え、具体的な事例を通して基礎的な考え方や知識の習得を目標とする。

【授業内容・スケジュール】

1. 移動動作に必要な力
2. 体位変換に役立つトルク
3. 安定・不安定（重心の話）、撃力と骨折
4. 牽引（力のつりあい）、作用・反作用、摩擦
5. 温度、体熱の産生と喪失
6. 看護における電気、サイフォンの原理
7. 圧力、ネブライザ
8. 血圧、低圧持続吸引装置の原理
9. 点滴や輸血（液体の落下速度）、比重計（浮力の話）
10. オートクレーブ（加圧蒸気滅菌装置）、酸・アルカリとpH
11. 物質の溶け方、浸透圧
12. 物の見えるしくみ（目とレンズ）
13. ファイバースコープの原理
14. 紫外線、放射線
15. 音波、心拍検査

【評価】

筆記試験（80%）と授業への参加態度（20%）で成績を評価する。

【教科書】

平田雅子著「完全版 ベッドサイドを科学する〔改訂第3版〕」学研メディカル秀潤社 2018

【推薦参考図書】

中野正博著「看護・医療技術者のためのたのしい物理」日本理工出版会 1990
前田昌信著「看護にいかす物理学（第3版）」医学書院 1989

【その他】

高等学校までの履修等に依らず、誰もが興味を持てるように配慮する。

(前期) 1～4 年次・選択

【概要・目標】

医療、看護を学ぶということは、ヒトという生命体と向き合いその心理や身体機能を理解することによって他ならない。ヒトの体は様々な組織で形成されており、さらに組織は細胞から、細胞はタンパク質や脂質などの分子から形成されている。即ち、ヒトの身体がどのように形成され機能しているのかを深く理解するためには、細胞、分子レベルでの生物学の知識が必要となってくる。

この講義では、細胞生物学、分子生物学の分野に力点をおきながら、生き物としてのヒトを理解するために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。また、保健師助産師看護師国家試験の対策となるよう、可能な限り国試出題基準に含まれる「人体の構造と機能」の範囲に即した内容を講義する予定である。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 生物の基礎構造 ～化学進化と生命の誕生、生体を構成する有機物
- 2) 細胞の構造 ～原核生物と真核生物、細胞内小器官、細胞骨格
- 3) エネルギー産生と代謝 ～糖、脂質、アミノ酸の代謝
- 4) 細胞分裂 ～有糸分裂と減数分裂
- 5) 遺伝子とタンパク質 ～DNAの複製と転写、翻訳

高校レベル以上の内容も扱うが、上記内容に興味があれば高校時の生物履修は必要でない

【評価】

授業への参加態度とレポートで総合的に判断する。

【教科書】

教科書は使わない。授業時に配付する資料と板書を元に授業を進める。

【推薦参考図書】

エッセンシャル細胞生物学 第4版 南江堂

【その他】

(後期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

生命科学は近年急速に進展し、遺伝、成長、運動など様々な生命現象が分子のレベルで説明できるようになりつつあります。このことはヒトを対象とした医学の進歩にも大きく貢献してきました。本科目では、生命を支える遺伝子について何がわかっていて何がわかっていないかを皆さんが理解し、現代の医療が抱える様々な問題について自ら考える際の助けになるよう、これまでに世界中で展開されてきた関連する研究の成果を簡潔にまとめ、系統的に整理して講義します。

【授業内容・スケジュール】

1. 生命は細胞と遺伝子に宿る
2. 遺伝子とメンデルの法則
3. 細胞の運命 (ES細胞とiPS細胞)
4. 遺伝子操作 I
5. 遺伝子操作 II
6. シグナル伝達 (生と死を分けるもの)
7. 遺伝子の複製
8. 遺伝子の発現
9. 遺伝子の変異と修復
10. 遺伝的多様性と疾患
11. がんと遺伝子
12. 免疫と遺伝子
13. 細菌とウイルス
14. 心と遺伝子
15. 遺伝子に関する最新のトピックス

【評価】

レポート (80%)、授業への参加態度 (20%)

【教科書】

毎時間配布する資料に沿って講義を進める。

【推薦参考図書】

「利己的な遺伝子」リチャード・ドーキンス著 紀伊國屋書店
「生化学辞典」東京化学同人
「医学大辞典」南山堂／電子版アリ

【その他】

質問は随時受け付ける。メールでの問い合わせは hirais@wakayama-med.ac.jp まで。

(前期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

食生活は、人間の生きる糧であり、心を充たす食文化の世界でもある。健康増進法が制定された今、一次予防の中で大きな役割を占めるのは食のありようであり、また、食生活の歪みの中での疾病に対しては治療の直接手段ともなる。人体の組成と栄養素を理解し、なお、和歌山の食文化にもふれ、ライフスタイルおよび疾病治療のための食事について学生と共に考える。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 人体の組成と栄養素・糖質、脂質
- 2) 人体の組成と栄養素・たんぱく質
- 3) 人体の組成と栄養素・ビタミン、ミネラル
- 4) 栄養素の消化吸収
- 5) 第7次改訂食事摂取基準
- 6) 栄養状態の評価
- 7) 母性の栄養管理
- 8) 乳幼児期の栄養管理
- 9) 高齢期の栄養管理
- 10) 栄養と疾病治療
- 11) 治療食の実際 ①消化器疾患
- 12) 治療食の実際 ②内分泌・代謝疾患
- 13) 治療食の実際 ③循環器疾患
- 14) 治療食の実際 ④腎疾患
- 15) 治療食の実際 ⑤貧血、食物アレルギー

【評価】

試験 (80%)、授業への参加態度 (20%)

【教科書】

脊山洋右・廣野治子「コンパクト栄養学」南江堂

【推薦参考図書】

中村美知子・長谷川恭子 編集「わかりやすい栄養学」廣川書店
小池五郎 代表 「人体の構造と機能〔3〕栄養学」医学書院
石渡和子・伊藤朗 「ライフステージからみた人間栄養学」医歯薬出版
平山宗宏 監修 「母子健康・栄養ハンドブック」医歯薬出版

【その他】

(後期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

人の一生は、乳幼児期から高齢期にいたるまでの各年齢層の栄養素等の特性がある。また、疾病を抱えている時期には、その病態に応じた栄養管理が必要になってくる。ライフサイクルおよび疾病の特性に応じた食事が継続的に摂取されて健康な生活を送ることが可能となり、治療効果も上がる。食事計画・献立作成を基本にデモンストレーションおよび調理実習を実施することにより、実践栄養学を習得する。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 演習についてのガイダンス
- 2) 妊産婦の食事
- 3) 離乳期の食事
- 4) 一般治療食（流動食と分かゆ食・高齢者の食事も含む）
- 5) エネルギーコントロール食（糖尿病の食事）
- 6) たんぱく質コントロール食（慢性腎臓病の食事）
- 7) 脂質コントロール食（脂質異常症の食事）

【評価】

筆記試験 50% 演習課題のレポート 40% 実習態度 10%

【教科書】

脊山洋右・廣野治子「コンパクト栄養学」南江堂
適宜資料を配布する。

【推薦参考図書】

日本糖尿病学会 「糖尿病食事療法のための食品交換表」 文光堂
黒川清 監修 「腎臓病食事交換表」 医歯薬出版
玉川和子・他 編集 「臨床調理」 医歯薬出版
平山宗宏 監修 「母子健康・栄養ハンドブック」 医歯薬出版
香川芳子 監修 「七訂 食品成分表」 女子栄養大学出版部

【その他】

「食の科学」を履修した者に限る。

設備及び教育効果等の見地から、履修者は1班28名にて隔週ごとの2班56名に限る。

履修希望者多数の場合は、その選考方法は「食の科学」の出席状況等を勘案して、総合的に判断して決定することとするが、決定時期は9月となる予定であるので、履修登録においては、このことを考慮していただきたい。

(後期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

本授業では、「運動の科学」で学習した内容をさらに発展させ、運動・スポーツによる身体的体力や健康の維持・増進方法について解説するとともに、各自の健康の維持・増進のための健康運動を実践します。また、日常の身体活動・運動を記録するとともに自身の身体活動量を評価し、自身の健康の維持・増進に必要な運動を科学的に分析するとともに、健康の維持・増進に効果的な運動・スポーツについて検討し、生涯にわたる健康運動プログラムを作成することを目標とします。

【授業内容・スケジュール】

- 1) ガイダンス (授業の内容・進め方について)
 - 2) 健康づくりのための身体活動量について
 - 3) 健康運動の実践1 (バドミントン、卓球、エアロビックダンス等)
 - 4) 健康運動の実践2 (バドミントン、卓球、エアロビックダンス等)
 - 5) 健康運動の実践3 (バドミントン、卓球、エアロビックダンス等)
 - 6) 身体活動・運動の評価1 (日常の身体活動量の評価)
 - 7) 健康運動の実践4 (バドミントン、卓球、エアロビックダンス等)
 - 8) 健康運動の実践5 (バドミントン、卓球、エアロビックダンス等)
 - 9) 健康運動の実践6 (バドミントン、卓球、エアロビックダンス等)
 - 10) 身体活動・運動の評価2 (日常の身体活動量の評価)
 - 11) 健康運動の実践7 (バドミントン、卓球、エアロビックダンス等)
 - 12) 健康運動の実践8 (バドミントン、卓球、エアロビックダンス等)
 - 13) 健康運動の実践9 (バドミントン、卓球、エアロビックダンス等)
 - 14) 身体活動・運動の評価3 (日常の身体活動量の評価)
 - 15) まとめと評価
-

【評価】

試験 (0%)、レポート (30%)、小テスト (0%)、発表 (0%)、提出物 (30%)、出席状況 (20%)、参加態度 (20%)、その他 (0%)

【教科書】

使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【推薦参考図書】

参考資料：健康づくりのための運動指針2006

【その他】

動きやすい服装、シューズで参加して下さい。

英会話

エドワード カラギアニス 非常勤講師
トレーシー ヤマモト 非常勤講師

(通年) 1～4年次・選択

【概要・目標】

中学、高校で修得した英語の文法・構造を向上させ、英語表現能力を身につけ、自ら英語を話すことに重点を置く。

【授業内容のスケジュール】

よく使われる英語表現や日常会話をテキストで学習し、二人もしくはグループで会話練習をします。イラストを見て想像力を働かせ、英文を考えることもあります。文章を作る事は上達と進歩の大きい役割を果たします。

お互いに質問するページでは、日本人が弱点とする文法に重点を置き、自分で表現する能力向上及び英語に自信がつくこととなります。

受動態、使役動詞、関係代名詞、現在分詞/過去分詞などの文法の復習をし、これらの表現を会話練習出来るゲームやビデオを使った学習を行います。

病気の表現、病院での会話を学習します。

【評価】

試験 (40%)、レポート (0%)、小テスト (60%)、発表 (0%)、提出物 (0%)、出席状況 (0%)、参加態度 (0%)、その他 (0%)

【教科書】

Clip Art English A Straightforward Approach Second Edition

Challenge Book #4 Helene Jarmol Uchida

【推薦参考図書】

【その他】

復習は大切なので、復習するように心掛けて下さい。

また、教育効果等の見地から、履修者は40名までとします。履修希望者多数の場合は、抽選により決定しますので、このことを踏まえたうえで履修登録を行ってください。

(前期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

トーマス・ブルフィンチの『ギリシア・ローマの神話』を読みます。

ギリシア・ローマの神話は、西欧の文化に多大な影響を及ぼしました。それは、時代を超えて、文学のみならず美術や音楽を含めたあらゆる芸術の分野にひろがっています。また、神話の根底にある精神は、ヨーロッパという特定の地域に限られるものではなく、すべての人類が共有しているのです。現代のわたしたちも、どこかで見たか聞いたかしたことのある物語ばかりでしょう。このような知識を持っておくと、西欧の小説や絵画だけではなく、日常生活で触れる現代小説やテレビドラマでさえ、鑑賞の仕方が大きく変わることでしょう。

また、身体部位や病気の名前は、その多くが古代ギリシア語やラテン語に由来します。医療の分野を学ばれている皆さんが、英語からでもその一端に触れることは、今後の学習を容易にすることでしょう。

この授業では、英文を正確に読解することを目的としています。授業では和訳をおこないますが、それが最終目標ではありません。単語・文法・構文・文脈のそれぞれがきちんと把握できているかを確認しながら、英語を英語として理解するための練習をおこないます。日本語を経由することなく英文を理解できるようになれば、英語を書いたり話したりするときにも大きな力となります。英文を「前から」理解できるようになれば、おのずと読解の速度もあがってくることでしょう。授業は、基本的な文法事項を確認しながらすすめますので、英語の得意不得意は関係ありません。今後、みなさんがネットニュースを読んだり洋書を楽しんだり、英語から情報を直にインプットするための一つのステップとなることを期待しています。

【授業内容・スケジュール】

- 1) イントロダクション (履修に当たっての注意点や授業の進め方などについて説明します)
- 2) ～14) 読解
- 15) 授業のまとめと解説

【評価】

試験 (60%)、レポート (0%)、小テスト (0%)、発表 (30%)、提出物 (0%)、
出席状況 (0%)、参加態度 (10%)、その他 (0%)

【教科書】

【推薦参考図書】

Thomas Bulfinch 『ギリシア・ローマの神話』開文社出版 (ISBN : 9784875712565)
西村賀子 『ギリシア神話 神々と英雄に出会う』中公新書 (ISBN : 9784121017987)

【その他】

受講者には、授業の予習と復習が求められます。

初回の授業時に、授業の進め方や成績評価について説明しますので、かならず出席してください。

(通年) 1～4年次・選択

【概要・目標】

中国の人々が使用する標準的な中国語（普通語）を聞き、話し、読み、書く能力を総合的に高めることを目指した授業を進める。総じて体系的で平易な説明を心がけ、仕事場や交際場で必要とされる言葉の発音と運用に重点を置いた双方向的、全員参加型の授業を実施する。また、中国語の学習を通して、中国の人々の考え方や中国の文化、習慣・社会に対する理解を深める。特に学部の特徴を考えて、患者さんとの対話がすぐ出来るように、実践的な会話練習を勉強し、日常的な身の回りの事柄についても中国語で表現出来るようにする。下記のプランは基本的なプランであって、上記の内容を授業に繰り込んで行います。

【授業内容・スケジュール】

- 1) ～3) 中国式ローマ字 (ピンイン) 声調、音節のしくみ、母音、子音、あいさつ
- 4) ～6) 動詞「是」、人称代名詞、名前の言い方・尋ね方、実践会話
- 7) ～9) 動詞述語文、疑問文いろいろ、助動詞「想」、連動文、作文練習
- 10) ～12) 量詞、動詞「有」、数字の言い方、助詞「过」、形容詞述語文、実践会話
- 13) ～15) 動詞「在」、方位詞、前置詞「从」「往」「离」、文末の「了」、医療用語
- 16) ～18) 年月日・曜日・時刻・時間の言い方、年齢の言い方・尋ね方、実践会話
- 19) ～21) 時間量の言い方、動詞直後の「了」、比較の言い方、実践会話
- 22) ～24) 可能の表現、方向補語、結果補語、主述述語文、作文練習
- 25) ～27) 二重目的語、様態補語、可能補語、程度補語、医療用語、実践会話
- 28) ～30) 進行表現と持続表現、「是～的」構文、使役表現、存現文、受身表現

【評価】

筆記試験

【教科書】

陳淑梅・劉光赤 著 「わくわくスタディ 実学実用 (初級中国語)」 朝日出版社
必要に応じて、資料を配布する

【推薦参考図書】

適宜、紹介する

【その他】

(後期) 1～4年次・選択

【概要・目標】

[医療情報学入門]

- ・情報通信技術(ICT)の医療・看護への応用事例やこの分野におけるトピックスを学ぶことにより、最近の医療・看護における情報科学・情報技術の重要性を理解する。
- ・医療・看護における情報の意味を知り、情報技術が現代の医療・看護に与えた変化と果たしている役割を理解する。
- ・医療・看護の現場における診療情報の流れやその管理方法について学ぶことにより、その取り扱いに関する患者への配慮と、よりよい看護に向けた実践の方法を考察する。
- ・これらより、情報科学的視点から見た医療・看護を学ぶ。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 医療情報学序論
- 2) 情報科学的に見た病院
- 3) 病院情報システムⅠ (部門システム)
- 4) 病院情報システムⅡ (オーダエントリシステム)
- 5) 病院情報システムⅢ (電子カルテ)
- 6) 看護の情報化
- 7) 地域医療情報システム
- 8) EHR (Electronic Health Record)
- 9) 医療の評価と ICT
- 10) 医療情報の共有と標準化
- 11) 医療における個人情報保護
- 12) 医療における情報セキュリティ
- 13) 国策として進む医療の情報化
- 14) 医療の情報化がめざすもの
- 15) まとめ・グループディスカッション

(内容・順序は変更することがあります)

【評価】

講義時間中のレポート (40%) および筆記試験 (60%)

【教科書】

なし

【推薦参考図書】

- (1) 日本医療情報学会 編：医療情報 第5版 ―医療情報システム編―，篠原出版新社
 - (2) 上泉和子，太田勝正 編：看護情報管理論，日本看護協会出版会
- その他講義中に随時紹介する。

【その他】

(前期) 1～4 年次・選択

【概要・目標】

音楽を中心とする様々な芸術と触れあうことにより、感受性や創造力を培い、心豊かな人間性を養う。同時に、それらの諸芸術を生み出した様々な民族の歴史や文化を知ることにより、幅広い国際理解に努める。それらを基礎として、卒業後様々な世代の患者さんと、芸術（音楽）の話題を通じて心の交流ができるようになることを目指して講義を進めていきたい。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 音楽療法の可能性 1 : 音楽運動療法
- 2) 音楽療法の可能性 2 : 癒しと音楽～大脳辺縁系に与える音楽の作用
- 3) 音楽療法の可能性 3 : 緩和ケア病棟と音楽
- 4) 音楽療法の可能性 4 : ホスピスの歴史と現状
- 5) 聴覚と音楽 1 : 増加している若年世代の難聴
- 6) 聴覚と音楽 2 : 日本人の耳、欧米人の耳
- 7) 喉頭と音楽 : 様々な発声法と生活環境の関連
- 8) 運動と音楽 : 様々なリズム感と生活様式の関連
- 9) 西洋音楽史を 1 年に縮めたら : あなたも 90 分でクラシック音楽がわかる
- 10) 声楽入門 : 西洋音楽史における様々な美しい声楽曲を訪ねて
- 11) 器楽入門 : ロマン派・印象派のピアノ名曲の流れを訪ねて
- 12) J-Pop に見る日本人の音楽的感性
- 13) 明治以降の音楽 : 各世代の患者さんはどのような音楽を聴いてきたか
- 14) まとめ

【評価】

試験 (30%)、レポート (40%)、小テスト (10%)、発表 (0%)、提出物 (0%)、出席状況 (10%)、参加態度 (10%)、その他 (0%)

【教科書】

適宜資料を配布する

【推薦参考図書】

- 田村恵子『余命 18 日をどう生きるか』朝日新聞出版, 2010
岩田誠『脳と音楽』メディカルレビュー社, 2001
田村和紀夫『徹底図解 クラシック音楽の世界』新星出版社, 2012

【その他】

医療入門：ケア・マインド教育

柳 川 敏 彦 教授
山 口 雅 子 教授
水 越 正 人 教授
村 田 顕 也 教授*
竹 山 重 光 准教授*

(通年) 1～4年次・選択

【概要・目標】

医療人を志すものとして知識・技能の習得のみならず、病める人の視点で考えられる人間形成を目指す。また、行政・司法を含めた社会制度について知ることにより、個々の患者の社会的背景、支援の状況についての理解を深める。本講義は、医学部・保健看護学部の共通講義として行い、立場の異なる医療人を志すものとして相互理解を深める。

【授業内容・スケジュール】

＜個別教育目標＞

- 1 医療において病める人の視点で考えることの重要性について述べることができる。
- 2 チーム医療の状況、重要性について述べるができる。
- 3 患者個人として疾患の受け取り方、対応の仕方に多様性があることを説明できる。
- 4 疾病の罹患に伴う精神的、経済的、社会的負担を体験を通して説明できる。
- 5 疾患の対応、支援について多くの職種が関わっていることを述べるができる。
- 6 患者のみでなく、患者の家族への対応、支援の方法について述べるができる。
- 7 疾患について、医療的な支援の状況と限界について述べるができる。
- 8 疾患について、行政からの支援の状況について述べるができる。
- 9 疾患について、地域社会からの支援について述べるができる。
- 10 薬害について理解し、支援について述べるができる。
- 11 地域・僻地医療の現場での取り組みについて説明できる。
- 12 医療行政を含め地方行政の仕組みについて述べるができる。

＜講義項目と担当者＞

本年度の講師については、患者および患者の会、福祉行政、司法、地域医療の実務者をお願いする予定である。詳しい内容については別途明らかにする。

＜学習及び教育方法＞

- 1 講義および患者さんまたは家族の会による体験談。
- 2 WGでは学生をグループに分け、それぞれのテーマを自己学習し、発表、討論を行う。
- 3 最終日には発表会を行う（テーマは別途明らかにする）。

【評価】

授業への出席および授業態度（20%）、WGのレポート（70%）、最終発表（10%）により評価する。

【教科書】

特になし

【推薦参考図書】

特になし

(通年) 1～4 年次・選択

【概要・目標】

(概要)

大学・学部が実施する国際交流活動に参加することで、現地学生あるいは留学生との交流を通して、その国の看護系学生の状況や医療について知り、自分たちの状況や日本の医療、さらには国際保健について考えることを目的とする。

(目標)

- 1) 現地学生あるいは留学生と交流することで、国際的なコミュニケーションに対する関心と能力を深める。
- 2) 海外における医療に関する幅広い知識を得るとともに理解を深める。
- 3) 日本における医療や国際保健について関心を高め、理解を深める。

【授業内容のスケジュール】

大学・学部が実施する国際交流活動に参加し、ポイントを加算していく。1 ポイント当たり概ね 2 時間程度の活動を原則とする。入学から卒業までの間に、通算して 20 ポイントを超えるポイント数を得た場合に、単位を認定する。

主な活動内容とポイントは以下のとおりとする。

- ・ 海外施設の訪問や海外における活動への参加 (5 日間の場合、20 ポイント)
- ・ 留学生の訪問活動 (文化視察など) への参加 (概ね 2 時間につき、1 ポイント)
- ・ 留学生との交流活動 (自治会主催の歓迎会など) への参加 (準備時間を含め、概ね 2 時間につき、1 ポイント)

【評価】

参加状況・活動報告書の提出

【教科書】

【推薦参考図書】

【その他】

活動参加の際は、必ず、事前に活動参加申出書を提出し、終了後に活動報告書を提出すること。参加申出書及び活動報告書の提出がない場合、原則として、活動に参加してもポイント認定がされない。ので、留意すること。

(通年) 1～4 年次・選択

【概要・目標】

(概要)

地域の人々との交流を通して、地域の特性から住民の生活状態や健康問題を理解し、医療に対する住民のニーズを把握することを目的とする。ボランティア活動や本学独自の助成制度である「学生自主カリキュラム」の活動など、自主的な計画・活動・報告を実践することから、チームワーク力や行動力を修得する。

1～4 年次の課外活動から、地域住民の健康状態を把握し、健康管理や疾病予防について地域貢献への姿勢を修得する。

【授業内容のスケジュール】

大学・学部が認定する地域交流活動に参加し、ポイントを加算していく。1 ポイント当たり概ね 2 時間程度の活動を原則とする。入学から卒業までの間に、通算して 20 ポイントを超えるポイント数を得た場合に、単位を認定する。

29 年度にポイントの対象となった活動は以下のとおり。

「オープンキャンパス」、「看護学生フォーラム活動」、「和歌山市精神障害者ボウリング交流大会」「和歌山つぼみの会サマーキャンプ」、「輝け！病気の子どもたちリゾートキャンプ」、「花園地区・梁瀬小学校運動会・梁瀬地区秋祭り」、「ファミリーコンサート」、「バリアフリー映画上映会」「大規模地震時医療活動訓練」

【評価】

参加状況・活動報告書の提出

【教科書】

なし

【推薦参考図書】

なし

【その他】

活動参加の際は、必ず、事前に活動参加申出書を提出し、終了後に活動報告書を提出すること。

参加申出書及び活動報告書の提出がない場合、原則として、活動に参加してもポイント認定がされないで、留意すること。

(前期) 1 年次・選択

【概要・目標】

人生のそれぞれの時期における対人関係はどのように作られ、維持されていくのかを考える上で必要な心理学的知識を学び、応用する力を身につける。特に、身体の発達や社会での位置づけの変化と共に、人間の情報処理の仕方や感情がどのように変わっていくのか、変動する環境にどのように適応していくのかを考える。これは対人援助職には必須の知識である。

この科目は 1 年次配当科目であるが、「人間と生命倫理」の他の選択科目 2 科目が 4 年次配当であるため、2019-2020 年度は本当に本科目が必要な学生を対象にした、専門的なゼミナール形式で実施する。発達心理学の一般的な知識を得たい場合は、「こころの科学」を履修されたい。

【授業内容のスケジュール】

4 月 12 日(5 時限)から 5 月 7 日(3 時限)までに講義 4 回

1) 講義①: 遺伝 2) 講義②: 言語発達 3) 講義③: 愛着 4) 講義④: ジェンダー

6 月 6 日から 7 月 4 日まで原則週 2 回で 1 冊を読むので、各自 5 月中に 4 冊を読破して準備

5) 6) ゼミナール① 「氏か育ちか」をまず遺伝から考える

7) 8) ゼミナール② 子どもの言語発達—では、大人は?

9) 10) ゼミナール③ 愛着研究は何故必要だったのか?

11) 12) ゼミナール④ ジェンダー心理学を男性側から始めると

尚、13)「発表準備確認小テスト、及び発表準備相談会」は 7 月 11 日(1 時限)に開講する。

9 月 2 日(4・5 時限)は夏休みの宿題の発表で、学生がグループで 30 分の発表をする

14) グループ発表: テキスト①関連テーマ「氏か育ちか」及び②関連「言語獲得」

15) グループ発表: テキスト③関連テーマ「3 歳児神話」及び④関連「女性の心理学」

【評価】

課題 1: 各ゼミナール課題図書の手評 4 回。各 12 点(返却時欠席は無効)、合計 48 点満点

課題 2: グループ発表 1 回。48 点満点。

課題 3: 発表準備確認小テスト 1 回。12 点満点(書面あり欠席 9 点、欠席連絡のみ 3 点)

以上 108 点満点で絶対評価(100 点満点超過分切り捨て)で評価するが、「課題 3」終了時点で 30 点未満(60 点満点中)の場合は、グループ発表の資格を喪失し、不合格となる。

※今年度のこの科目は期末試験を実施しない。従って再試験も実施しない。

【教科書】

①安藤寿康「『心は遺伝する』とどうして言えるのか」 創元社 2017

②今井むつみ・針生悦子「言葉をおぼえるしくみ」 ちくま学芸文庫 2014

③ブラム(著)藤澤・藤澤(訳)「愛を科学で測った男」 白揚社 2014

④尾形和男(編)「父親の心理学」 北大路書房 2011

第 4 回授業開始時点で全 4 点を確保していない学生の受講は認められない。尚、2018 年 12 月時点の生協割引前本体価格は以下の通り: ①1,800 円②1,400 円③3,000 円④2,400 円

【推薦参考図書】

マイヤーズ(著)村上郁也(訳)「マイヤーズ心理学 カラー版」西村書店 2015

※本書は 2019 年度「こころの科学」の必携テキストである。本体 9,500 円(割引前)

【その他】授業第 1 回で配布される授業進行用シラバスを読んでいない場合、不合格となることがある。授業に関する質問などは、「オフィスアワー」時間帯(研究室のドアに掲示)でしか対応できない。「オフィスアワー」が利用できない場合は、必ず事前にメールで面会予約を取ること。

【概要・目標】

環境要因による健康障害について学ぶ。職業病や作業関連疾患についての基本的な知識を習得する。作業環境管理、作業管理、健康管理の3管理を主体とした労働衛生管理の考え方をもとに、それらの予防対策を講じるための応用力を身につける。また、性・年齢をはじめとする労働者の多様性を考慮しながら、すべての労働者がより快適に仕事をしていくための考え方を習得する。さらには、職域で課題となっている喫煙対策、2015年から施行されているストレスチェックを含むメンタルヘルス対策についても学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 職域における有害要因と労働衛生管理の概要(総論)
- 2) 有害作業と健康障害(職業病)
- 3) 作業管理とエルゴノミクス
- 4) 労働者の多様性と作業管理
- 5) 職場の喫煙対策
- 6) 心身の作業関連疾患、ストレスチェックについて

【評価】

試験(100%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、発表(0%)、提出物(0%)、出席状況(0%)、参加態度(0%)、その他(0%)

【教科書】

使用しない。プリントを配布する。

【推薦参考図書】

法研 編「職域における保健と医療実践ハンドブック」法研 2007
中央労働災害防止協会 編「労働衛生のしおり 平成31年度」中央労働災害防止協会2019
(最新版は毎年8月頃発行されます)

【その他】

(後期) 2 年次・選択

【概要・目標】

「食の科学」で得た知識をもとに臨床栄養学の概念、食事療法の基準と実際について理解する。一般栄養学、エネルギー制限食、他の治療食の必要性について理解し、各種病態や疾患の治療法と栄養療法を統合的に整理することを目的とする。生活習慣病に代表される疾患の予防についても学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 病態栄養学の概念 食事療法と看護
 - 2) 消化器疾患の食事療法
 - 3) 代謝性疾患の食事療法
 - 4) 糖尿病の食事療法
 - 5) 呼吸・循環器疾患の食事療法
 - 6) 腎疾患の食事療法
 - 7) 感染症、免疫疾患の食事療法
 - 8) アレルギー疾患の食事療法
-

【評価】

試験 (80%)、小テスト (0%)、発表 (0%)、提出物 (レポート等) (10%)、出席状況 (10%)、参加態度 (0%)、その他 (0%)

【教科書】

講義プリント

【推薦参考図書】

系統看護学講座 別巻「栄養食事療法」医学書院
富野康日己編集「症状・疾患別食事指導の看護へのいかしかた」医歯薬出版
武田英二著 「臨床病態栄養学」 文光堂

【その他】

（後期）2 年次・選択

【概要・目標】

救急医学は、症状の緊急性であるプライマリーケアと症状の重篤性であるクリティカルケアからなる急性の病態学、症候学である。救急医学の中には、救急医療システム、蘇生学、外傷学、ショック、多臓器不全、中毒学、熱傷学、集団災害医学などがある。

目標は救急の講義で救急医療における看護の役割を実践できる知識を学び、災害医療では災害訓練に参加し、トリアージおよび災害での看護の役割を学ぶ。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 救急医学総論
- 2) 災害医療
- 3) 心肺蘇生術（BLS と ACLS）
- 4) 外傷の初療と看護
- 5) ショック
- 6) 熱傷と中毒
- 7) 集中治療と看護

【評価】

筆記試験

【教科書】

プリント配布

系統看護学講座 別巻 4 第 4 版、救急看護学、医学書院、2007

【推薦参考図書】

1. 「外傷初期看護ガイドライン JNTEC 改訂第 3 版」日本救急看護学会監修、へるす出版 2014
(ISBN978-4-89269-851-4)
2. 「クリティカルケア看護入門ー “声にならない訴え” を理解する」(NEW STAGE NURSING シリーズ)
卯野木 健 著、ライフサポート社 2008 (ISBN978-4-904084-06-9)
3. 「JRC 蘇生ガイドライン 2015 日本蘇生協議会・日本救急医療財団監修、へるす出版 2016

【その他】

(後期) 2 年次・選択

【概要・目標】

現代社会における労働や生活の場での機械化は便利で快適な生活をもたらした。しかし一方では、身体活動を減少させ、運動不足に伴う様々な弊害を引き起こしている。本講義では、運動中の生理機能の働きや、運動が身体に与えるさまざまな効果を学びながら、運動が健康の保持増進や生活習慣病の予防にどのように関わるかについての基礎的な理解を深めることを目標とする。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 身体運動のメカニズム
- 2) 身体運動とエネルギー代謝
- 3) 身体運動と呼吸循環の応答
- 4) 身体運動による身体の形態的・機能的変化
- 5) 有酸素性作業能力とその評価法
- 6) 健康の保持増進と有酸素運動の効用
- 7) 運動指導の基礎
- 8) 生活習慣病と運動指導の実際

【評価】

受講態度(20%)、小テスト(10%)、筆記試験またはレポート(70%)により総合的に評価する

【教科書】

授業時に資料を配付する

【推薦参考図書】

佐藤祐造 編「特定健診・保健指導に役立つ健康運動指導マニュアル」文光堂 2008

【その他】

女性と健康

山口 雅子 教授
藤田 和佳子 講師
竹内 康子 助教
森下 智美 非常勤講師

(後期) 2年次・選択

【概要・目標】

広く女性の健康を守るために必要な基礎知識と支援を考える力を養う。

授業は、講義で基本的知識を説明した後に、演習（ディスカッション等）で学生が主体的に学習する構成で行う。

1. 生命に関する倫理観や看護観、共感的態度を養う。
2. 母性看護の実践に必要な概念・理論・施策を理解する。
3. 母子保健の動向について学ぶ。
4. リプロダクティブヘルス・ライツについて学ぶ。
5. セクシュアリティについて理解する。
6. 女性のライフステージに伴う女性特有の健康問題について理解する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) オリエンテーション、母子保健の動向
- 2) 母性看護実践を支える概念（ヘルスプロモーション、エンパワメント、ウェルネス）
- 3) 演習
- 4) 母性看護学の基礎となる概念と母性看護に関わる理論（母子相互作用、愛着形成、母親役割）
- 5) 周産期に関わる生命倫理
- 6) 高度生殖補助医療・出生前診断を受ける対象への看護
- 7) 周産期における死
- 8) リプロダクティブヘルス・ライツとセクシュアリティ
- 9) 演習
- 10) 女性のライフステージ特有の健康問題と看護①
- 11) 演習
- 12) 演習
- 13) 女性のライフステージ特有の健康問題と看護②
- 14) 演習
- 15) 演習

【評価】

筆記試験（60%）、授業への参加態度（20%）、提出物（20%）

【教科書】

新道幸恵他著「母性看護学①」メヂカルフレンド社

新道幸恵他著「母性看護学②」メヂカルフレンド社

【推薦参考図書】

適宜紹介する。

(前期) 3 年次・選択／保健師コース必修

【概要・目標】

1 年次に学んだ「健康科学」を基礎にして、健康教育論では健康教育実践者になるために必要なことを習得する。

まず各自の健康観を確認し、健康教育対象者に育てたい健康の概念を明らかにする。実践する際は、対象者の実態を把握、理解し、出てきた課題から目標を設定し、考えや行動をより良い方向に変えるために必要な教育計画を立て、実行、評価するプロセスを理解する。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 健康教育の必要性
健康管理と健康教育
- 2) 健康教育の目標
健康の概念
社会の要請と目標の変遷
生涯を通じての健康づくり
- 3) 健康について考える
各自が考える健康を自由に描き発表する
対象者に育てたい健康を考える
- 4) 健康教育方法
- 5) 健康教育活動の実際 (1) 学校保健
- 6) 健康教育活動の実際 (2) 地域保健・産業保健
- 7) 健康教育の評価 (PDCA サイクル)
計画－実施－評価－改善
健康教育まとめ

【評価】

試験 (60%)、レポート (0%)、小テスト (0%)、発表 (10%)、提出物 (20%)、出席状況 (10%)、参加態度 (0%)、その他 (0%)

【教科書】

資料を配付

【推薦参考図書】

国民衛生の動向 (2 年次に「公衆衛生学」で使用)

城・宮下・武田編「エビデンスにもとづく公衆衛生学」培風館 2017 (1 年次に「健康科学」で使用)

【その他】

1 年次に習った「健康科学」を復習しておくこと

(前期) 3 年次・選択

【概要・目標】

薬理学各論として、疾病の予防・診断・治療に用いられている薬物の適切な臨床使用を補助することができるようになるために、代表的な薬物の効果と有害作用、薬としての位置づけを理解する。

【授業内容・スケジュール】

薬理学各論 (2)

- 1) ～ 2) 中枢神経に作用する薬物
- 3) 末梢神経系に作用する薬物
- 4) ～ 6) 心臓・血管系に作用する薬物
- 7) 呼吸器・消化器・物質代謝に作用する薬物
- 8) 消毒薬、(救急の際に使用される薬物)

【評価】

筆記試験

【教科書】

吉岡充弘 他：系統看護学講座「薬理学」医学書院

【推薦参考図書】

田中千賀子 他：「NEW 薬理学」南江堂
野元正弘 他：「薬がみえる vol.1」Medic Media
弘世貴久 他：「薬がみえる vol.2」Medic Media
福本陽平 他：「薬がみえる vol.3」Medic Media
渡邊裕司 監訳：「臨床薬理学」丸善

【その他】

（前期）３年次・選択

【概要・目標】

健康を維持・促進し、疾病を予防・緩和するための第三の医療として、癒しの智と技法に注目が集まっている。この講義では、看護ケアとしての癒しの技法「ストレスマネジメント」を学ぶ。人々がより良く生きることを目的として、ストレスマネジメントプログラムに参加し、セルフケア技術としての癒しのテクニックを習得するプロセスを、受講者は体験的に学ぶ。考え方の修正やリラクゼーション法の習得といった、認知・行動的介入の理論と実際を、実際に体験しつつ学んでもらいたい。

- 目標 1) 「癒しとは何か」を考え、科学的根拠に基づいた癒しの技法を習得する。
2) 健康の維持・促進、疾病予防・緩和に、癒しの技法を実践できる能力を養う。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 看護における癒しと代替医療
医療行動科学、EBM・EBS、代替医療、スピリチュアリティ
子どもの病気、子どものストレス、患者に必要な癒し、看護師のメンタルヘルス
- 2) 行動科学からみた「癒し」：ストレスマネジメント
ストレスと病気、精神神経免疫学、自律神経系のコントロール、セルフケア
- 3) ストレスマネジメントの理論と実践
セリエの学説、ラザラスの理論、認知行動的介入としてのストレスマネジメント教育
- 4) ストレスマネジメントの実際（１）認知と対処への気づき、修正プログラム
ストレスドック、論理的思考、タイムマネジメント
- 5) ストレスマネジメントの実際（２）リラクゼーション
自律訓練法、イメージ法、催眠、筋弛緩法、瞑想法
- 6) ストレスマネジメントの実際（３）アクティベーション
有酸素運動、アクティベーションと免疫・気分
- 7) ストレスマネジメントの実際（４）ストレス緩衝要因への介入
タフネス性格、ストレス性格（タイプA、タイプC行動パターン）
自尊感情、自己主張、ジェンダーアイデンティティ、ソーシャルサポート

【評価】

試験 70%、提出物 30%

【教科書】

「ストレスしのぎ辞典」、GAS 研究会

【推薦参考図書】

服部祥子・山田富美雄監訳「包括的ストレスマネジメント」医学書院 2006

【その他】

女性と健康

山口 雅子 教授
藤田 和佳子 講師
竹内 康子 助教
森下 智美 非常勤講師

(前期) 3 年次・選択

【概要・目標】

広く女性の健康を守るために必要な基礎知識と方法論を学ぶ。

1. 母性看護の実践に必要な概念・理論・施策を理解する。
2. 生命に関する倫理観や看護観を養う。
3. 思春期・成熟期・更年期・老年期女性の健康と看護について理解する。
4. 母性看護過程の特徴について理解し、事例に添って看護過程を展開する。
5. NICU における看護の特徴を理解する。
6. 地域における母子保健の課題を学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

- 1) オリエンテーション、母性看護学の基礎となる概念 (山口)
- 2) 母性看護実践を支える概念 (ヘルスプロモーション、エンパワメント、ウェルネス) (藤田)
- 3) 母性看護過程 (ウェルネス診断) (藤田)
- 4) 母性看護過程事例展開 (演習) 情報収集と情報の整理 (全教員)
- 5) 母性看護学の理論 (母子相互作用・愛着形成・ボンディング・母親役割獲得過程) (山口)
- 6) 母性看護過程事例展開 (演習) アセスメント (全教員)
- 7) 母性看護過程事例展開 (演習) 看護課題の抽出と看護計画の立案① (全教員)
- 8) 母性看護過程事例展開 (演習) 看護課題の抽出と看護計画の立案② (全教員)
- 9) 母性看護過程事例展開 (演習) 発表 (全教員)
- 10) 母性看護と倫理 (山口)
- 11, 12) 思春期・成熟期・更年期の女性の健康問題と看護 (演習) (藤田・竹内)
- 13) NICU におけるハイリスク児とその家族に対する看護 (NICU 師長)
- 14) 乳児院の役割 (乳児院施設長)
- 15) 地域における子育て支援 (NPO 法人代表)

【評価】

発表 (10%)、授業への参加態度 (40%)、提出物 (50%)

【教科書】

新道幸恵他著「母性看護学①」メヂカルフレンド社
新道幸恵他著「母性看護学②」メヂカルフレンド社

【推薦参考図書】

適宜紹介する。

学齢期の保健

内 海 みよ子 特任教授

宮 井 信 行 教授

五十嵐 裕 子 非常勤講師

(後期) 3 年次・選択

【概要・目標】

発達発育期にある児童・生徒の健康について実態を把握し、学校と家庭・地域社会の役割と連携の重要性を学び、健康教育・健康管理・安全について理解を深める。

- 1) 学校という組織体の中で学校保健の意義と目的を理解する。
- 2) 養護教諭の特性と役割について理解する。
- 3) 健康教育の推進の必要性について、その実際を学習する。
- 4) 救急処置の基本的な意義と、養護教諭の的確な判断と処置方法について学ぶ。
- 5) 地域の特性、学校規模と特色などを踏まえたうえで、学校保健活動の実際を学習する。

【授業内容のスケジュール】

(担 当)

- | | |
|------------------------------|-----|
| 1) 発達発育期にある児童・生徒の現状理解と課題 | 内 海 |
| 2) 学校保健の意義、学校保健の内容、 | 内 海 |
| 3) 学校保健関係職員の役割、保健室の機能 | 内 海 |
| 4)~7) 学校保健活動の実際 | 五十嵐 |
| 学校保健活動の現状と課題 | 五十嵐 |
| 8) 児童生徒の心身の発達と健康 | 内 海 |
| 9) 児童生徒・教職員の健康診断（意義、方法、事後措置） | 宮 井 |
| 10) 環境衛生 | 宮 井 |
| 11) 12) 院内学級における児童生徒の保健 | 内 海 |
| 13) 感染症対策、救急処置、学校安全 | 内 海 |
| 14) 健康教育、健康相談 | 内 海 |
| 15) 学校保健計画・学校保健組織活動 | 内 海 |

【評価】

学習目標達成度（試験、レポート）に基づき評価する

五十嵐：試験（60%）、提出物（30%）、出席状況（10%）

【教科書】

【推薦参考図書】

「新版・養護教諭執務のてびき 第9版」植田誠治・河田史宝他監修 東山書房

「新養護概説＜第8版＞」采女智頭江編集代表 少年写真新聞社

【その他】

【概要・目標】

地域で生活する高齢者の健康を維持するための様々な取り組みについて学ぶ。特に、介護予防や認知症予防、認知症高齢者の支援活動、巡回保健事業などの取り組みについて学ぶ。介護予防教室の企画・実施・評価を通して、一連の過程を理解する。

- 1 高齢者自身の健康維持のための主体的な取り組みを理解する。
- 2 地域における介護予防や認知症予防の活動について学ぶ。
- 3 地域における高齢者の健康維持のための看護職の活動について理解する。
- 4 地域における介護予防活動の実際を学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

(担 当)

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1) 介護予防とフレイル | 服 部 |
| 2) 介護予防施策の動向と概要 | 弓 庭 |
| 3) 地域における巡回保健事業への取り組み | 弓 庭 |
| 4) 地域における認知症予防の取り組み | 弓 庭 |
| 5) 地域における世代間交流の取り組み | 弓 庭 |
| 6) ～ 7) 介護予防教室の企画 | 服 部 |
| 8) ～ 12) 介護予防教室の準備 | 服 部 |
| 13) ～ 14) 介護予防教室の発表 | 弓 庭・服 部 |
| 15) まとめ | 服 部 |

【評価】

授業目標達成度 (60%) 授業・演習への参加態度 (20%)、発表 (10%)、提出物 (10%)

【教科書】

使用しない

【推薦参考図書】

○葛谷雅文, 雨海照祥編集「フレイル-超高齢社会における最重要課題と予防戦略」医歯薬出版会社 2014

○山口春保「認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント」共同医書出版社 2010

【その他】

(後期) 3 年次・選択

【概要・目標】

(概要) リエゾン精神看護とは、一般診療科(身体科)の患者の心の健康問題(抑うつ状態、不安、トラウマ体験など)に対し、精神看護の知識と技術を用いて看護を展開することである。リエゾン精神看護学Ⅰでは、心の健康問題を有する身体疾患を持つ患者の精神状態の査定、介入方法について具体的な事例を用いて学ぶ。

(目標) 患者の精神状態を査定、問題を明確にすることで、患者の精神的諸問題に対し早期発見及び早期介入ができることを目指す。その意義は、精神的諸問題に介入することで患者の不適応を最小限に抑え、身体疾患の治療の長期化を予防することにある。

【授業内容・スケジュール】

- 1) リエゾン精神看護の概要について、コンサルテーションのタイプについて
- 2) ストレスの基礎知識、精神状態の査定
- 3) ① 抑うつ気分が強い患者の看護
- 4) ② 不安が強い患者の看護
- 5) ③ がん患者の精神的諸問題の特徴とその看護
- 6) ④ 周産期のメンタルヘルス
- 7) ⑤ 惨事ストレス、トラウマケア
- 8) 虐待及び Domestic Violence の被害者の身体的アセスメントの方法
法医学の立場から

【評価】

レポート(70%)、授業への参加状況(30%)

【教科書】

随時資料を提示する。

【推薦参考図書】

- ・武用百子編著：リエゾンナースと考える「困りごと」にどうにかかわるか、ナースツールズ，2011.
- ・野末聖香編：リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために，医歯薬出版株式会社，2004.
- ・野末聖香，宇佐美しおり編著：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法，2009.

【その他】

医療哲学

(本年度は開講しない)

(前期) 4 年次・選択

【概要・目標】

人権と倫理とは、コインの裏表である。患者さんが持つものは人権であるし、医療者が持つべきは倫理である。現在の日本においては、科学の論理は、賛成にも反対にも開く危うさをもっている。我々医療従事者は科学の論理の上にどのような規範を乗せればよいか、その都度危うい選択を迫られている。個々の事例について、共に考えたいと思います。

【授業内容・スケジュール】

(担 当)

- 1) 医療における功利主義
- 2) 医療における道徳的義務論
- 3) 医療における徳倫理
- 4)～5) 医療人が考えておくべきこと
- 6)～7) 古代ギリシャにおける生と死
- 8) 生命倫理と人権

【評価】

レポート (80%)、授業への参加状況 (20%)

【教科書】

特になし

【推薦参考図書】

【その他】

精神療法（心理療法）**山 本 明 弘 教授****小 畑 千 晴 非常勤講師****（後期） 4 年次・選択**

【概要・目標】

内外の環境に対する適応の失敗や、対人関係から生じる精神的問題を治療する方法として精神療法がある。それを支持法、表現法、洞察法、訓練法などに分けて、その理論と実際について学ぶ。また保健看護の臨床場面でそれがどのように活かされるか、人との距離のとり方、転移、逆転移などの問題についても精神療法的観点から考えられるようにする。

【授業内容のスケジュール】**（担 当）**

1) 自分の性格を知ろう

山 本

2) 人のタイプを知ろう

山 本

3) クライエント中心療法

小 畑

4) 認知行動療法

小 畑

5) 力動的精神療法

小 畑

6) 表現療法

小 畑

7) その他の精神療法

小 畑

8) リラクゼーション法

山 本

【評価】

レポート

【教科書】

特になし

【推薦参考図書】

【その他】

【概要・目標】

(概要) リエゾン精神看護とは、心の健康問題を有する身体疾患を持つ患者・家族に精神看護の知識と技術を用いて看護を展開することである。またケアにあたっている看護師のメンタルヘルス支援を行いながら、看護師がいきいきと働くための支援も二次的に含む。

リエゾン精神看護学Ⅱでは、看護師が抱えやすい問題について学び、個人が対処能力を高めるための方法について学ぶ。

(目標) 看護師が抱えやすい心理社会的背景について学び、ストレスを低減するための方法を獲得することを目指す。また、社会人基礎力やレジリエンス、セルフコンパッションの概念を理解し、メンタル不調を未然に予防するための方法を獲得することを目指す。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 社会人基礎力、レジリエンス、セルフコンパッションとは何か
- 2) 新人看護師が抱えやすい心理社会的問題
- 3) 職場のメンタルヘルスの諸問題について ① 適応障害、うつ病
- 4) 職場のメンタルヘルスの諸問題について ② 非定型うつ、発達症群
- 5) メンタル不調者のスクリーニングとラインのケアについて
- 6) ストレスマネジメントの方法について
- 7) リラクセーション演習
- 8) 新卒看護師の不安が強い技術演習

【評価】

試験 (70%)、授業への参加状況 (30%)

【教科書】

随時資料を提示する。

【推薦参考図書】

- ・武用百子著：看護現場のメンタルヘルス支援ガイド，日経 BP 社，2016.
- ・五十嵐透子著：リラクセーション法の理論と実際 第2版 ヘルスケア・ワーカーのための行動療法入門，医歯薬出版株式会社，2015.

【その他】

(後期) 4 年次・選択／保健師コース必修

【概要・目標】

社会における医療と保健看護の位置づけを把握するとともに、保健・医療・福祉の諸制度を経済学的側面から概観する。さらに、その問題点を分析し、より良い保健・福祉・医療のあり方を追求するにあたって不可欠な医療経済学の基礎的な理論・考え方、医療技術の経済的評価の方法論とその応用について、具体的な例を紹介しながら学習する。

【授業内容・スケジュール】

【日本の医療の仕組みとその現状】

- 1) 医療費の水準と国際比較
- 2) 医療保険制度
- 3) 診療報酬制度

【医療経済学の基本的な考え方】

- 4) 医療と経済：経済学の基本的概念
- 5) 市場のメカニズムと医療
- 6) 保険のメカニズムと医療
- 7) まとめ

【評価】

筆記試験

【教科書】

プリント配布

【推薦参考図書】

【その他】

国際保健論

森 岡 郁 晴 教授

藤 田 和佳子 講師

中 村 安 秀 非常勤講師

(後期) 4 年次・選択／保健師コース必修

【概要・目標】

国際的な保健状況や国際保健医療活動の専門的基盤知識・技術を修得し、グローバルな視点で活躍できる人材の育成を目的とする。また、医療や保健、文化社会の多様性を理解し、健康課題を広い視野で考え、改めて日本の医療や保健の仕組みを考える機会となることを目指す。

そのため、将来国際的な活動としたいと考える学生に限らず、国際的な活動に興味がない学生の受講も歓迎する。

【授業内容・スケジュール】

- | | |
|---------------------------------|----|
| 1. 国際保健の概要、国際理解 | 森岡 |
| 2. 日本の国際協力 | 森岡 |
| 3. 国際保健指標 | 森岡 |
| 4. 発展途上国のヘルスシステム | 森岡 |
| 5. 母子保健・リプロダクティブヘルス（世界に広がる母子手帳） | 中村 |
| 6. 緊急人道支援（世界から学ぶ支援の国際標準） | 中村 |
| 7. 持続可能な開発目標（SDGS） | 藤田 |
| 8. 日本の国際協力（JICAを中心に） | 藤田 |

【評価】

試験（80%）、レポート（20%）、小テスト（0%）、発表（0%）、提出物（0%）、出席状況（0%）、参加態度（0%）、その他（0%）

【教科書】

指定なし

【推薦参考図書】

国際保健医療学 第3版 杏林書院 2013

【その他】

保健看護英語

上 松 右 二 教授
柳 川 敏 彦 教授
山 本 明 弘 教授

(後期) 4 年次・選択

【概要・目標】

将来における保健・看護業務、論文抄読、論文作成・発表に必要な基本保健看護英語を習得すること
を目標とする。そのために、実際の英語文献を活用し最新の情報や知識を得るとともに、専門用語を
理解し読解力を養うこととする。

【授業内容のスケジュール】

- 1) ～ 3) 臨床実践における英語発表
- 4) ～ 6) 入院時オリエンテーション, 看護技術, 各科で行われる看護の専門用語
- 7) ～ 8) 研究文献の読解

【評価】

上松：レポート(50%)、授業中の参加態度・発表内容 (50%)
柳川：レポート(50%)、授業中の参加態度・発表内容 (50%)
山本：レポート(50%)、授業中の参加態度・発表内容 (50%)
上記により総合的に評価する。

【教科書】

講義の時間に英語文献等を配布し、使用します。

【推薦参考図書】

Maria Spada Symonds, Ros Wright : English for Nursing, Pearson Japan 2013

【その他】

講義の時間には必ず英和辞書を持参して下さい。

(後期) 4 年次・選択

【概要・目標】

人々の多様な健康ニーズに応えるために看護職は、保健・医療・福祉連携の中で看護役割を遂行する能力の習得を求められている。そこで、今日の看護教育の状況に至った社会的背景や制度的な変遷を理解し、看護教育が社会のニーズに合わせて変化していることを学ぶ。また、看護教育を基礎教育と継続教育でとらえ、生涯教育としての教育のあり方や課題を探究する。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 看護教育の概念と目的
- 2) 看護教育の歴史的変遷
- 3) 看護教育制度とその背景
- 4) 看護の継続教育と生涯教育
- 5) 看護教育課程と教育方法①
- 6) 看護教育課程と教育方法②
- 7) 看護教育課程と教育方法③

【評価】

試験 (0%)、レポート (80%)、小テスト (0%)、発表 (0%)、提出物 (0%)、出席状況 (10%)、参加態度 (10%)、その他 (0%)

【教科書】

指定なし

【推薦参考図書】

グレッジ美鈴・池西悦子 編集「看護教育学」南江堂 2009
杉森みど里・舟島なをみ「看護教育学 第6版」医学書院 2016

【その他】

臨地実習

早期体験実習	(1 年次)	128
基礎看護実習Ⅰ	(1 年次)	129
基礎看護実習Ⅱ	(2 年次)	130
統合実習Ⅰ	(2 年次)	131
保健看護実習 A (母性)	(3 ～ 4 年次)	132
保健看護実習 B (小児)	(3 ～ 4 年次)	132
保健看護実習 C (老年)	(3 ～ 4 年次)	133
保健看護実習 D (精神)	(3 ～ 4 年次)	133
慢性期看護実習	(3 ～ 4 年次)	134
急性期看護実習	(3 ～ 4 年次)	135
在宅看護実習	(3 年次)	136
統合実習Ⅱ	(4 年次)	137
公衆衛生看護実習 (4 年生用)	(3 ～ 4 年次)	138
公衆衛生看護実習Ⅰ	(3 年次)	139

1 年次（前期）

【概要・目標】

概要：地域に出向いて見聞きし、そこでのさまざまな体験を通して、地域に暮らす人々がどのような環境の中で「暮らしと健康」を考えているかを探求する。

目標：1) 地域で生活している人々を訪問し、地域に密着した生活のありようを知る。

2) 人々の暮らしから健康をまもる生活の実態を知る。

3) 人々の暮らしをまもる保健・医療・福祉の実態を知る。

4) 体験を通して保健看護への興味・関心が深まる。

【授業内容のスケジュール】

1) 実習は4月に集中で行う。

2) 実習場所

かつらぎ町

3) 実習の前にはオリエンテーションを実施する。

4) 実習終了後にまとめを行う。

5) 詳細は別途説明する。

【評価】

実習目標達成度（60%）、実習への参加態度（20%）、提出物（20%）

【教科書】

なし

【推薦参考図書】

適宜紹介

【その他】

基礎看護実習Ⅰ

水 田 真由美 教授
坂 本 由希子 准教授
岩 根 直 美 講師
中 島 珠 生 助教
米 島 望 助教
野々口 陽 子 助教

1 年次（後期）

【概要・目標】

概要：保健看護を学ぶ基礎として臨地で実習を行う。

この実習では、看護が実践されている場と健康障害を持った人々の治療環境を学び、看護場面の見学や基礎的なコミュニケーションを体験し、主体的に学習する。

- 目標：1) 病院の構造、設備、機能を知ることができる。
2) 健康に障害のある人の入院環境と生活を知り、望ましい療養環境について考えることができる。
3) 病院における看護活動の実際を知り、看護の機能と役割が理解できる。
4) 入院患者および周囲の人々とのコミュニケーションを通して、対象者の理解ができる。
5) 看護への興味・関心を深め、主体的に学習する態度を養うことができる。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 実習時期
後期：1月の1週間
- 2) 実習施設
和歌山県立医科大学附属病院
- 3) 実習の前にはオリエンテーションを実施する。
- 4) 実習終了後にまとめを行う。

【評価】

実習目標に沿って、参加状況・実習記録・レポートを総合して評価する。

【教科書】

なし

【推薦参考図書】

適宜紹介

【その他】

基礎看護実習Ⅱ

水 田 真由美 教授
坂 本 由希子 准教授
岩 根 直 美 講師
中 島 珠 生 助教
米 島 望 助教
野々口 陽 子 助教

2 年次（前期）

【概要・目標】

基礎看護実習Ⅱは、保健看護学の専門領域すべての実習における基盤となり、これから学ぶ専門領域に発展可能な知識・技術を学ぶ。この実習では、健康に障害のある患者を受け持ち、患者の全体像を捉え、個性を理解する。さらに、看護問題の抽出を行い、アセスメントを学び、看護過程を展開するための基礎的能力を養う。また、既習の看護技術を患者との相互関係を通して統合し、日常生活援助を中心に基礎的な技術を習得する。

- 目標
- 1) 看護の対象者の理解ができる。
 - 2) 人間関係形成を通して対象者のニーズを把握することができる。
 - 3) 科学的な思考に基づいたアセスメントを行い、看護上の問題を見出すことができる。
 - 4) 対象者のニーズを満たすために、日常生活における基本的な看護援助ができる。
 - 5) 実施した看護を振り返り、記録ができる。
 - 6) 看護チームの一員としての自覚を持ち、責任ある行動ができる。
 - 7) 看護実践を通して、自らの課題を見出し、主体的な学習ができる。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 実習は、集中で行う。
時期：9月の2週間
施設：和歌山県立医科大学附属病院
- 2) 実習の前にはオリエンテーションを実施する。
- 3) 実習終了後にまとめを行う。

【評価】

実習目標に沿って、参加状況・実習記録・レポートを総合して評価する。

【教科書】

なし

【推薦参考図書】

適宜紹介

【その他】

2 年次（前期）

【目的・目標】

地域で暮らす各発達段階の人々の生活を知り、健康な生活を守るための保健管理や生活環境のあり方について学ぶ。

- 1) 母子が集う場を訪問し、地域で生活する母子がよりよい健康生活をするための環境づくりについて学ぶ。
- 2) 健康な乳幼児の成長発達の状況や、各発達段階の子どもへの生活支援について学ぶ。
- 3) 人々が働く場（企業）を訪問し、働く人々の安全管理を含めた労働環境や作業、健康管理の現状を学び、成人期の人々への健康な生活支援のあり方について考える。
- 4) 地域で活動する高齢者との関わりを通して、様々な健康レベルにある高齢者の生活の場を理解し、健康な生活支援のあり方について考える。
- 5) 地域住民の健康生活を守るための安全な環境のあり方について考える。

【実習方法】

- 1) 実習期間：前期 1 週間
- 2) 実習場所：指定された施設より選択する。
- 3) 方法：実習要項に掲載した実習計画に基づいて行う。

【実習評価】

実習目標達成度（60%）、実習への参加態度（20%）、提出物（20%）

【履修に際しての条件・注意事項】

- ・実習に関する詳細は、実習前オリエンテーションで説明する。
- ・今後の学習の基盤となる貴重な体験となるので、積極的な学習姿勢が必要とされる。

保健看護実習 A (母性)

山 口 雅 子 教授
藤 田 和佳子 講師
竹 内 康 子 助教

3 年次 (後期) ~ 4 年次 (前期)

【概要・目標】

看護の対象を母性の視点から理解し、母児の健康を保持増進して行くための看護を学ぶ。特に周産期の対象理解を深め、必要な知識・技術・態度を養う。

1. 周産期にある対象を身体的特徴、心理的特徴、社会的特徴の側面から理解する。
2. 対象に応じた看護過程を展開する。
3. 看護計画に基づいて看護を実践する。
4. 母児の健康を維持・増進するために必要な保健指導について理解する。
5. 周産期医療におけるハイリスク状態にある児と家族の特徴を理解し、ケアについて学ぶ。
6. 地域における母子保健活動を理解する。
7. 妊産婦・児とその家族を取り巻く現代社会の抱える諸問題を考え、社会的養護が必要な人々への支援を学ぶ。
8. 実習を通して、生命の尊厳や倫理観について自己の考えを深め、母性看護の役割について考える。

【評価】

実習目標達成度 (60%)、実習への参加態度 (20%)、提出物 (20%)

保健看護実習 B (小児)

井 上 みゆき 教授
柳 川 敏 彦 教授

3 年次 (後期) ~ 4 年次 (前期)

【概要・目標】**目的**

看護専門職を目指す実習生として、エビデンスに基づき子どもや家族の成長・発達、健康状態、環境についてアセスメントし、看護実践・評価ができる。

目標

- 1) 子どもの発達の特徴から個別性を理解し、必要な生活援助について学ぶ。
- 2) 子どもの心身および発達の変化を予測し、必要な看護を実践する。
- 3) 基本的な技術とその子どもに適用する能力を習得する。
- 4) 医療的関わりを必要とする子どもの親・家族への看護の必要性について理解する。
- 5) 子ども・家族が必要としている社会資源について学ぶ。
- 6) 子どもに携わる職種を知り、看護の役割を考える。

詳細は実習要綱を参照すること。

【評価】

実習目標達成度 (60%)、実習への参加態度 (20%)、提出物 (20%)

保健看護実習C（老年）**服部園美 准教授**
丸岡朋子 助教**3年次（後期）～4年次（前期）**

【概要・目標】

高齢者の健康・生活について幅広く理解し、高齢者を支える看護の実践を身につける。

- 1) 高齢者の加齢による身体的、精神的、心理的、社会的な特徴を理解し、健康問題や保健上のニーズを見極めることができる。
- 2) 高齢者が利用する在宅や施設サービスの役割や機能を理解し、高齢者が日常生活を自立するための援助について学ぶ。
- 3) 家庭や地域社会における高齢者の生活と健康問題を理解し、生活を支える援助について学ぶ。
- 4) 高齢者に必要な看護を計画し、実施・評価することができる。
- 5) 高齢者を取り巻く看護・医療・保健・福祉の制度や資源について理解し、他職種と連携した看護の役割、活動について学ぶ。
- 6) 高齢者に対し、尊厳のある姿勢や態度を身につけ、看護者としての役割を学ぶ。

【評価】

実習目標達成度（60%）、実習への参加態度（20%）、提出物（20%）

保健看護実習D（精神）**山本明弘 教授**
藤森由子 講師
早川博子 助教**3年次（後期）～4年次（前期）**

【概要・目標】

目的：こころの健康問題をもつことで日常生活に支障をきたした人々を「生活者」として統合的に理解し、既習の知識と技術を用いてその人らしい生活を送れるための基礎的な看護実践能力を養うと同時に、援助の人間関係形成の基本的技術を身につける。

- 目標：1) 対象者の個性を活かした看護過程の展開ができる
- 2) 対象者の状態に応じた日常生活援助ができる
 - 3) 対象者と看護者との治療的関わりについて理解し実践することができる
 - 4) 精神保健医療福祉サービスの連携と看護職の果たす役割について考えることができる
 - 5) 精神保健医療福祉チームの一員としてふさわしい態度を身につける

実習期間：2週間

実習場所：和歌山県立医科大学付属病院 5-東病棟

社会福祉法人一麦会麦の郷 ソーシャルファームピネル

医療法人宮本病院社会復帰施設 多機能型事業所めばえ 地域活動支援センター櫻

詳細は実習要綱を参照のこと。

【評価】

実習目標達成度（60%）、実習への参加態度（20%）、提出物（20%）

慢性期看護実習

辻 あさみ 教授
山口 昌子 講師
上田 伊津代 助教
楠岡 雅 助教

3 年次（後期）～ 4 年次（前期）

【概要・目標】

慢性の病気をもって生きる患者と家族が、健康レベルに応じて生活を調整し、その人らしい QOL を維持・向上できるための看護を実践する基礎的能力を養う。

- 1) 患者の発達段階と発達課題について説明できる。
- 2) 患者の状態を病態、検査や治療から説明できる。
- 3) 患者の A D L の評価に基づいた問題点を抽出できる。
- 4) 患者及び家族に生じている心理的な苦痛とそれに関する要因を説明できる。
- 5) 患者の状態及び治療から生じる身体的苦痛に対応した援助を実施できる。
- 6) 患者及び家族の心理的苦痛に対応した援助を実施できる。
- 7) その人らしさを尊重した方法で、援助を実施できる。
- 8) 患者や家族の反応にとらえて、援助を実施できる。
- 9) 患者及び家族が必要としている社会資源を説明できる。
- 10) 患者及び家族が直面する問題を対処するために、必要な保健医療チームメンバーの役割について説明できる。
- 11) 保健医療チームメンバーと連携して、看護を実施できる。
- 12) 看護職としての専門的な態度を身につけることができる。

【授業内容・スケジュール】

1) 受け持ち患者

原則として、1 名の患者を受け持つ。

実習スケジュールなどの詳細については別途実習要項を配布する。

【評価】

評価の配分は、目標到達（60%）、記録内容（20%）、実習参加状況（20%）で総合評価する。
記録内容には実習記録および提出した事前学習、資料を含む

【推薦参考図書】

適宜紹介する

【その他】

【概要・目標】

手術を受ける患者や家族が、急激な変化を生じる状況に対応し、生命の危機を乗り越え心身両面の回復や社会生活への適応に向けて主体的に取り組むための周手術期看護を実践する基礎的能力を養う。

- 1) ICU や手術室、実習病棟での看護の実際を見学することで、生命の危機的状況にある患者や周手術期にある患者の状況を理解し、それに対応した援助を考えることができる。
- 2) 患者の病態や術式を理解し、予測される患者への身体的・心理的影響を説明できる。
- 3) 患者の麻酔や手術による侵襲、および生体反応について説明できる。
- 4) 周手術期にある患者や家族の疾患・手術に対する認識、心理・社会的状況について説明できる。
- 5) 周手術期に行われている検査、治療、処置の根拠を説明できる。
- 6) 1)～5)を統合して周手術期患者の看護上の問題を明確にし、看護目標、看護計画を立案、実施、評価することができる。
- 7) 周手術期におけるリスク・マネジメントについて説明できる。
- 8) 保健医療チームのメンバーとしての役割を自覚し、連携・協力しながら援助できる。
- 9) 看護職としての専門的な態度を身につけることができる。

【授業内容・スケジュール】

1) 受け持ち患者

原則として、1名の患者を受け持つ。

実習スケジュールなどの詳細については別途実習要項を配布する。

【評価】

評価の配分は、実習目標に対する到達度（60％）、実習への参加状況（20％）、記録内容（20％）とし、総合的に評価する。

記録内容には実習記録および提出した事前学習、資料も含む

【推薦参考図書】

適宜紹介する

【その他】

【概要・目標】

地域で療養生活を送る個人および家族の生活と、様々な健康課題に応じた看護活動の実際から、在宅ケアにおける看護職の役割を学ぶ。

- 1) 地域で療養生活を送る個人および家族の生活と健康状況との関連を理解できる。
- 2) 地域で療養生活を送る個人および家族の看護上の問題を把握し、生活の質の向上を目指した看護活動を考えることができる。
- 3) 在宅ケアに関わる関係職種・関係機関との連携を理解し、在宅ケアにおける看護職の役割を考えることができる。

【実習方法】

- 1) 実習場所：訪問看護ステーション
- 2) 実習期間：5 日間
- 3) 実習方法：訪問看護ステーションの指導者と共に行動する。

【実習評価】

実習目標に対する到達状況（60%）、実習への参加状況（20%）、実習記録（20%）により評価する。

【その他】

- ・ 詳細については実習前オリエンテーションで説明する。

4 年次（後期）

【概要・目標】

保健看護活動が行われている場における保健看護管理過程に体験的に参加することによって、実際に行われている保健看護管理を学ぶ。これまでの学習過程で学んできた保健看護の管理に関する現状を知り、理論を活用して問題解決の糸口を見出し、保健看護管理演習と合わせて管理能力を養う。

- 1) 実習施設の指導者と主体的に関連づくりを行う。
- 2) 行動計画に基づき、社会の一員として責任ある行動がとれるようになる。
- 3) 保健看護管理に関する問題を個別化、具体化する。
- 4) これまで学んだ理論的な知見を用いて、問題解決の糸口を見出す。
- 5) 成果が得られるように積極的に行動し、実習内容の自己評価を行う。

【授業内容・スケジュール】

1. 実習期間：10月第4週の5日間
2. 実習場所：指定された施設より選択する。
3. 実習方法：学生の主体的な実習計画に基づいて行う。
4. 記 録：実習内容は所定の用紙に記録する。
指定の期日迄に提出する。

詳細については別途実習要項を配布する。

【評価】

実習目標に沿って、自己評価、記録、実習への取り組みなどを総合して評価する。

【推薦参考図書】

適宜紹介する

【その他】

３年次（後期）～４年次（前期）・保健師コース必修

【概要・目標】

特定の健康課題・発達課題等をもつ小集団を対象とした地区活動の展開方法を習得する。その過程を通して、集団のヘルスニーズの明確化、ヘルスニーズに即した保健福祉サービスやケアシステムの適用・改善・創造、関係者・住民との連携・協働のあり方、保健師の役割について理解を深め、実践へ適応する能力を養う。

- 1) 家族を単位として、主体的な健康課題解決への支援を実施する
- 2) 対象集団を構成する個人・家族の健康・生活の実態や社会資源などについて情報収集しアセスメントすることで、対象集団のヘルスニーズを明らかにする（地域診断）
- 3) 対象集団の健康課題解決・改善に向けた地区活動の企画・実施・評価といった一連の過程を展開する
- 4) ヘルスニーズに即した地区活動の展開に際し関係者・機関、住民との連携・協働を模索し、有効なケア体制について発展的に考察する
- 5) ヘルスニーズに即した地区活動の充実・発展の方向性およびその中で保健師が果たすべき役割を検討し、次年度活動計画を作成する

【実習方法】

- 1) 実習場所：保健所および市町村
- 2) 実習期間：３年次後期に１週間、４年次前期に３週間、計４週間
- 3) 実習方法：対象集団を構成する個人への家庭訪問、健康課題に関連する保健事業や会議等への参加、関連機関・関係者へのインタビュー、地域診断、健康教育等の地区活動計画作成・実施・評価、継続家庭訪問、次年度計画作成など

【実習評価】

実習目標に対する到達状況（60%）、実習への参加状況（20%）、実習記録（20%）により評価する。

【その他】

- ・ 詳細については実習前オリエンテーションで説明する。
- ・ 実習地までの通学定期を購入する場合は、実習開始の４０日前までに事務室へ申し出ること。

公衆衛生看護実習Ⅰ（３年次用）

岩 村 龍 子 教授
石 井 敦 子 講師
岡 本 光 代 講師

３年次（後期）・保健師コース必修

【概要・目標】

公衆衛生看護活動の実際から、個人・家族・集団・組織における健康課題を解決するための支援についての方法と考え方、および保健師の役割について学び、公衆衛生看護活動を展開できる基礎的な実践能力を養う。

- 1) 個人・家族・集団・組織のヘルスニーズに応じて様々な技術や活動を組み合わせて展開する公衆衛生看護活動を捉える
- 2) 住民が主体的・組織的に健康課題を解決するための公衆衛生看護活動の方法を概説する
- 3) 公衆衛生看護活動の実際から、その意義と行政における保健師の役割と機能について考察する
- 4) 関係者・機関、住民との連携・協働の必要性和方法およびその中での保健師の役割を説明する
- 5) 地域住民の健康・生活の実態や社会資源など、地域診断に必要な情報を収集しアセスメントすることで、地域のヘルスニーズを検討する

【実習方法】

- 1) 実習場所：保健所および市町村
- 2) 実習期間：２週間
- 3) 実習方法：保健所および市町村における保健事業や会議等への参加、家庭訪問、地区踏査、施設見学など

【実習評価】

実習目標に対する到達状況（60％）、実習への参加状況（20％）、実習記録（20％）により評価する。

【その他】

- ・ 詳細については実習前オリエンテーションで説明する。
- ・ 実習地までの通学定期を購入する場合は、実習開始の40日前までに事務室へ申し出ること。